

環境省近畿地方環境事務所請負業務

平成 22 年度

事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキームモデル実証事業

(家棟川エコ遊覧船事業)

業務報告書

平成 22 (2010) 年度

特定非営利活動法人家棟川流域観光船

第1章 事業計画

コンセプト
(実現内容)



びわ湖へ注ぐ家棟川河口域において、
手漕ぎ舟を運航し、伝統的な湖魚食を「漁師料理」として提供することで、
住民および観光客に、湖と共に営まれてきた暮らしや農林漁業の大切さを伝え、
野洲市の自然環境の保全と地域活性化を実現する。

地域課題

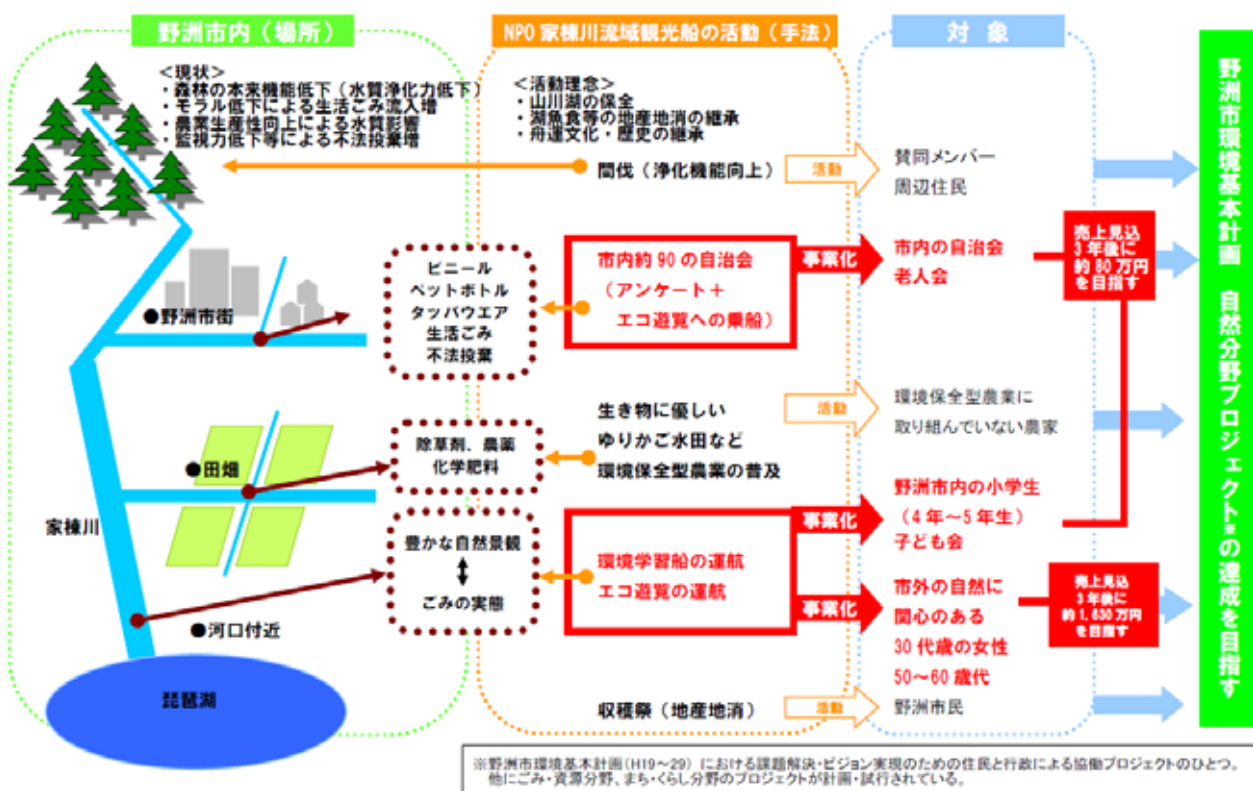
- ・ 家棟川は野洲市の約8割の河川が合流して琵琶湖に注ぐ川であり、大雨が降ると各河川のごみが家棟川を流れてびわ湖に流れ出てしまう。
- ・ ヨシ群落など家棟川河口部の自然景観は素晴らしいにもかかわらず、市民の関心が薄い。
- ・ 農林漁業が成り立たず、水源の里山が荒れ、農地では農薬や化学肥料が大量に使用されることにより、びわ湖の水質悪化や在来の魚介類の減少を招いている。
- ・ 地域の子どもの減少し、老人のみの世帯が多い。
- ・ 青年のよい働き口がない。

など、かなり深刻な事態が進行している。

事業概要

- ・ 家棟川河口部や野洲川北流跡の内湖で、手漕ぎの屋形舟を運行する。
- ・ 漁師（船頭）が、川やびわ湖と共に営まれてきた地域の暮らし（魚・水鳥・水生植物など生態系、水郷景観、自然環境、伝統文化、歴史など）について語る。
- ・ びわ湖の漁師料理を通じて、農水産物の普及を図る。

モデル図



特定非営利活動法人 家棟川流域観光船

平成19年（2007年）設立
（会員数 35人）

野洲市環境計画の実践として、市民に地域の川・びわ湖に親しみ、関心を持ってもらうため、手漕ぎ屋形舟の運行をはじめた。

地域の漁師、「魚のゆりかご水田」を実践している農家など、里山・森・川・田畑・びわ湖で活動する団体のリーダーが中心となって構成されている。

【代表者の経歴】

（理事長） 北出 肇

- ・ 事務局統括責任者
- ・ 滋賀県環境審議会（琵琶湖総合保全部会） 委員
- ・ 野洲市景観を考える会 委員
- ・ 野洲市環境基本計画推進組織 運営委員 ほか

（副理事長） 松沢 松治

- ・ びわ湖の漁師・中主漁業協同組合 副組合長
- ・ 野洲市商工会 副会長
- ・ （滋賀県）豊かな湖づくり推進委員会 代表
- ・ （滋賀県）湖南流域環境保全協議会 副会長
- ・ 野洲市環境審議会 委員
- ・ 野洲市環境基本計画推進組織 代表 ほか

私たちの強み

地域の人に支えられて共に実践している！

- びわ湖周辺の6自治会（元）長が、NPOの趣旨に賛同し、会員参加している。
- 漁師をはじめとした地元の21人が船頭として活躍している。

びわ湖ならではの独自性がある！

- びわ湖とその水郷景観、漁師料理、漁師の語りなど、地域独自の宝物を提供できる。

行政の環境施策と連携した事業として実践してきた実績がある！

- 環境学習船として、延べ2,000人近くが乗船し、河川の現状を体験していただいた。
- これらの取組みが県知事から表彰された。

ミッション

- 山・田畑・川・森・びわ湖の環境保全
- 魚や農産物の地産地消でまちづくり
- 働く場所確保で地域経済の活性化

活動実績

1. 家棟川エコ遊覧を運航し、今までに延べ約 2,000 名に乗船いただき、川やびわ湖の環境の実態を見てもらいながら、川やびわ湖保全の説明をした。

うち子ども約 400 名に、櫓漕ぎ練習や川の自然観察、体験学習を行なった。

湖魚食は 800 人以上が試食したが、大変好評である。

2. 当法人が「野洲市農山漁村活性化推進協議会」の代表団体となり、(内閣府)平成 21 年度地方の元気再生事業の委託を受けて以下の事業を行なった。

(山)

山仕事の人材育成の取組とともに、漁業者や市民が参加する里山の森づくり「漁民の森」を整備した。
山仕事への市民参加とともに、里山散策道の整備をはじめ、市民が気軽に里山に入ることができる環境づくりを行った。

(川)

手漕ぎ屋形船のエコ遊覧。船頭が地域の自然環境の語り部となる取組を P R し、一層推進した。
地域や小学校でのホタルの学校の開催や、里川でホタルの棲める環境づくりを行った。

(田)

湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻し、魚の「ゆりかご水田米」としてブランド化を目指して事業を P R した。

(びわ湖)

びわ湖の水質改善と稚魚の成育場となるヨシ群落を再生するため、住民参加によるヨシ苗の植栽を行った。
あやめ浜の湖底に堆積したヘドロを除去し、シジミが生息できる砂浜環境の復活を目指す。

(環境学習)

農林漁業の再生をめざし、子どもたちが、そのすばらしさややりがいを、農林漁業に従事している人から学ぶプログラムをつくって学習した。



(子ども対象の体験型環境学習)



(企業と連携した清掃活動)

【協力者リスト（連携団体）】

団体の名称	所在地	業種等	備考
滋賀県 琵琶湖環境部	大津市	地方行政	
〃 南部環境・総合事務所	草津市	地方行政	
琵琶湖環境科学研究センター	大津市	地方行政	
独立行政法人 水資源機構	大津市	独立行政法人	
立命館大学 産業社会学部	京都市	教育機関（大学）	N 准教授
野洲市 環境課	野洲市	地方行政	
〃 商工観光課	野洲市	地方行政	
〃 まちづくり協働推進センター	野洲市	地方行政	
中主漁業協同組合	野洲市	漁業者団体	
野洲市商工会	野洲市	商工業者団体	
野洲市観光物産協会	野洲市	観光団体	
野洲市魚のゆりかご水田協議会	野洲市	農業者団体	
びわ湖の水と地域の環境を守る会	野洲市	環境団体	
里湖づくりの会	野洲市	環境団体	
野洲市ホテルを復活させる会	野洲市	環境団体	
野洲川でんくうの会	野洲市	環境団体	
豊かな湖づくり推進委員会	大津	環境団体	事務局： 滋賀県水産課
湖南流域環境保全協議会	草津市	環境団体	事務局：滋賀県 南部環境・総合事務所
環境基本計画推進会議 「水と緑・安心の野洲」	野洲市	環境団体	事務局： 野洲市環境課
びわ湖周辺 6 自治会	野洲市	自治組織	
民宿旅館	野洲市	民宿旅館	漁師料理提供
企業 1	野洲市	第3セクター	
企業 2	野洲市	有限会社	遊漁船業
企業 3	野洲市	企業	交通関係
企業 4	北九州市	企業	助成金・ 環境保全活動への参加
企業 5	東京都	企業	助成金
財団法人 淡海環境保全財団	大津市	財団	ヨシ苗 助成金

ターゲット
(セグメント)

- 市内の自治会、老人会の研修会
- 市内の子ども会、小学生の環境学習

統計データ

- 自治会・子ども会 89 団体
- 老人会 94 団体 (老人クラブ連合加盟団体数)
- 小学児童 6 校 約 540 人
- 子ども教室 7 団体 (コミュニティーセンター事業)

市民の声
(ニーズ)

全自治会にアンケートを実施 (回収率 54%)

- 41 団体が研修や懇親の際に、エコ遊覧に乗船してみたいと回答
- 体験型環境学習としての活用 (18 団体) や、景色や自然を楽しみたい (16 団体) という期待が高かった。

環境学習を試行実施した小学生 (子ども会) にアンケート調査を実施 (2 団体 40 人)

- 8 割以上の子どもたちが、櫓漕ぎや笹舟づくりなど体験を通じて、新しい気づきを得たと回答している。
- 「魚や水草など」に 36%、続いて「水の汚れ」に 24% の関心があった。
- 全体の 88% の子どもが再乗船を希望した。

⇒アンケート結果に関しては、第3章 アンケート調査を参照

競合・類似

- 近隣に体験型環境学習をビジネスモデルで実施している団体・企業はない。
- 環境団体等が独自に自然観察会等を行っているが、手漕ぎ舟を利用している団体は他にない。
- また近隣をフィールドとする団体とは、環境イベントの共催など連携を図っており、競合の関係にはない。

独自性
(魅力・技術)

- 手を伸ばせば水に触れられる距離で、川の現状を目の当たりにできる。
- びわ湖の漁師をはじめ、地域の人から、その地域の歴史を教えてもらうことができる。
- びわ湖の水・自然環境と、そこで営まれてきた暮らしや農林漁業とのつながり、また現代の環境変化について、実際にびわ湖へそそぎ込む天然の川を下り、地元ならではの食文化を体験することで学ぶことができる。
- また、これからの行動にうつす入り口として、地元で参加できる環境保全活動の場も提供できている。

ターゲット
(セグメント)

- ・ 県内および京都・大阪・名古屋方面の50～60代
- ・ // の30代独身女性

⇒セグメントに関しては、第3章 マーケティング調査を参照

統計データ

滋賀県の観光動態

- ・ 46才以上の中高年齢層が増加傾向にある。(H12 33.1%→H17 55.0%)
- ・ 県外からの来訪者数が増加傾向にある。(H12 36.6%→H17 66.8% 大阪、兵庫、愛知方面が増加)

野洲市の観光動態

- ・ 来訪時期は4～5月および10～11月が多い。
- ・ びわ湖周辺への来訪では、びわ湖鮎家の郷(物販・食事)年間約40万人、ピワコマイアミランド(キャンプ等)年間約3万人

(出典) 滋賀県観光入込客統計調査(H21)、同観光動態調査(H17)、野洲市統計書(H21)より

市民の声
(ニーズ)

モニター調査を実施(50～60代女性26人 30代独身女性14人)

- ・ モニターの約9割が、違う時期にも再乗船したいと希望された。
- ・ 漁師料理についても、ほぼ全員が「満足」「大いに満足」の回答であった。
- ・ びわ湖や川に期待する点として、「自然の恵み」「癒し」を求められており、手漕ぎ舟の感想では、目・耳・肌で感じる癒しの時間に感動したという意見が見られた。

⇒モニター調査結果に関しては、第3章 マーケティング調査を参照

競合・類似

近江八幡 水郷めぐり

- ・ 旅行業者や市内観光拠点と連携を結び、年間約15万人が来訪
彦根城 お堀めぐり

- ・ 彦根城やキャッスルロード等の観光資源が豊富であり、年間約8千人が乗船
(彦根城・玄宮園への入場者は年間約64万人)

(来訪者数:出典) 近江八幡市統計書(H21)、彦根市統計書(H21)より

独自性
(魅力・技術)

- ・ 静かな自然の川を手漕ぎ舟で四季折々の自然に触れて遊ぶことができる。
- ・ びわ湖や景観、鳥、植物、文化など地元船頭の語りを聴くことができる。
- ・ 漁師が船頭でもあるため、びわ湖の選りすぐりの食材を丁寧な加工技術で地元ならではの「漁師料理」として手ごろな価格で提供できる。

対象を以下の4つに分け、それぞれに応じたメニューを提供する。

① 市内自治会・老人会向け

・ メニュー内容	手漕ぎ遊覧＋湖魚弁当
・ 価格	ひとり 1,500円
・ 集客目標	(1年目) 7回 179人 ／ (3年目) 9回 345人
・ 売上見込み	(1年目) 268,500円 ／ (3年目) 517,500円

② 市内子ども会・小学生向け

・ メニュー内容	手漕ぎ遊覧(環境学習)
・ 価格	(子ども) ひとり 650円
・ 集客目標	(1年目) 4回 204人 ／ (3年目) 6回 460人
・ 売上見込み	(1年目) 132,600円 ／ (3年目) 299,000円

③ 観光(50～60代)向け

・ メニュー内容	手漕ぎ遊覧＋漁師料理
・ 価格	ひとり 4,800円
・ 集客目標	(1年目) 31回 793人 ／ (3年目) 61回 2,342人
・ 売上見込み	(1年目) 3,806,400円 ／ (3年目) 11,241,600円

④ 観光(30代女性)向け

・ メニュー内容	手漕ぎ遊覧＋漁師料理
・ 価格	ひとり 6,000円
・ 集客目標	(1年目) 14回 358人 ／ (3年目) 22回 844人
・ 売上見込み	(1年目) 2,148,000円 ／ (3年目) 5,064,000円

その他

オプションプランとして、花見舟や船上弁当のほか、他組織と連携してびわ湖クルージングやバス釣りツアー、農業(収穫)体験イベントなどを企画している。

※価格の設定は、モニター調査において最も回答の多かったものを採用している。

⇒モニター調査結果に関しては、第3章 マーケティング調査を参照

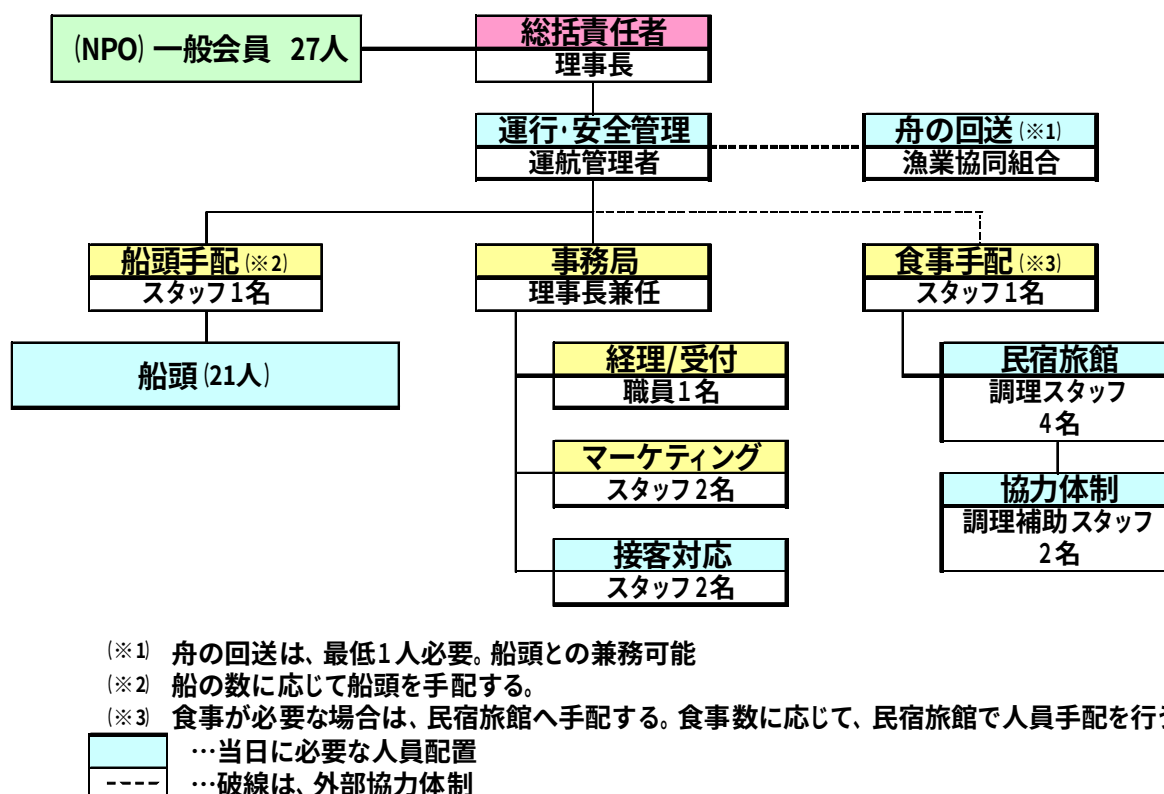
⇒各メニュー詳細、集客および売り上げ目標(原価計算)に関しては、第2章 実施マニュアルを参照

売上見込み 年間1,700万円(3年目)をめざす!

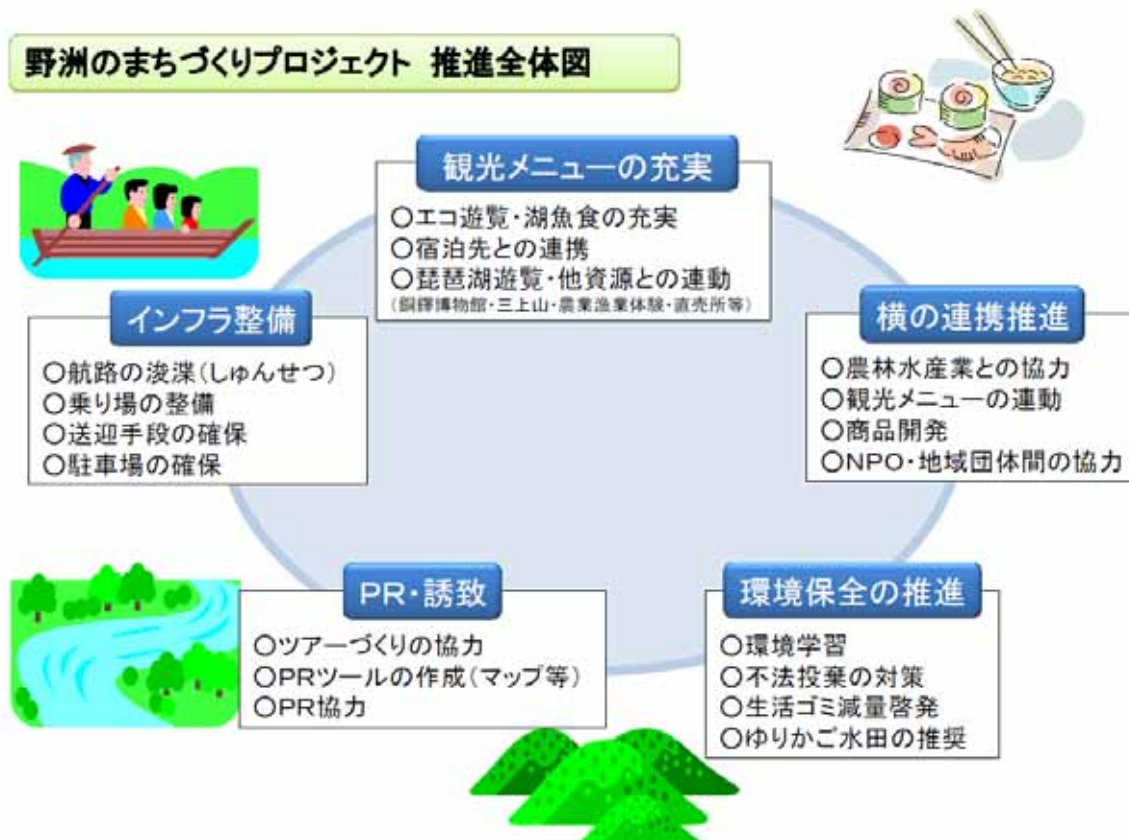
[提供メニュー写真]



〔体制図〕



〔ネットワーキング図〕 …本法人が考えるまちづくりプロジェクト



【7】事業収支計画

第1章 事業計画

〔収支計画書〕

収入		2011 年 (1年目)	2013 年 (3年目)
学習	市内の自治会・老人会	268,500 円	517,500 円
	市内の子ども会・小学生	132,600 円	299,000 円
観光	50～60 代女性	3,806,400 円	11,241,600 円
	30 代女性	2,148,000 円	5,064,000 円
収入計		6,355,500 円	17,122,100 円

支出		2011 年 (1年目)	2013 年 (3年目)
管理費	人件費 (船頭・事務員)	1,680,000 円	4,662,000 円
	舟借り代、舟修繕費など	324,000 円	592,000 円
事業費	湖魚料理代	3,488,800 円	9,627,000 円
	保険代	100,000 円	200,000 円
	宣伝、事務費	320,000 円	842,000 円
	環境学習費	442,700 円	1,199,100 円
支出計		6,355,500 円	17,122,100 円
営業利益 (収入-支出)		0 円	0 円

⇒原価計算に関しては、第2章 実施マニュアルを参照

〔資金計画書〕

開業資金	
事務所	
改装・設備 (舟1艘購入、整備費)	1,000,000 円
備品	
広告・宣伝費 (チラシ印刷代)	100,000 円
開業後の運転資金 (人件費)	
開業後の運転資金 (管理費)	
合計	1,100,000 円

資金調達	
自己資金	
借入金	
会費	300,000 円
その他 (寄付)	800,000 円
合計	1,100,000 円

事業実現の
課題

- 水位の低い秋期でも川下りの運行ができるように、県に要望し2km 程浚渫してもらう。
- 船頭、事務局体制を充実させるため思い切った若手の会員拡大を行い、研修をする。
→若手船頭(60歳前後)の確保、HP・ブログの設置など
- 環境保全活動を通じ、湖魚が豊富に提供できるように努力する。

将来展望

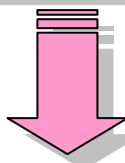
3年後

- 年間800人の市民が手漕ぎ舟を楽しみ、湖魚食を味わうよう定着してくる。
- 大阪・京都・名古屋などから年間3200人の観光客が来て、舟や漁師料理を楽しみ、地域の農漁業体験や生産物購入で、地域経済の活性化に繋がる。

5年後

- 県や国と協力して内湖を復元し、素晴らしい水郷景観のもと手漕ぎ舟を運行する。
- その近くに、観光客が休憩したり、地元産の湖魚や野菜を土産に購入できる「湖の駅」を建設して、地域振興と観光の拠点とする。

3年後には持続可能な事業モデルとして自立する！

《地域の成果》

手漕ぎ舟の運航とびわ湖の漁師料理の普及を通じて、

- 地域住民が自らの手で、びわ湖や河川を守り育てる意識を持つようになる。
- びわ湖の在来魚が増え、農漁業など地域経済が活性化する。

第2章 提供メニュー詳細

□ はじめに

この提供メニュー詳細は、環境省「平成 22 年度事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキームモデル実証事業」において、NPO 法人家棟川流域観光船が持続可能なビジネスモデルの事業内容として、調査研究のうえ、作成したものである。

□ 事業名

【家棟川エコ遊覧事業】～家棟川・内湖 手漕ぎ舟とびわ湖の漁師料理～

□ 事業の目的

手漕ぎ舟の運行と湖魚料理の普及を通して、びわ湖や河川に親しみを持ってもらい、水環境の保全と地域経済の活性化を図ることを目的とする。

□ 実施期間

4月～11月

稼働日数…140日（月平均20日×8ヶ月 ただし8月と11月は10日）

□ 場所

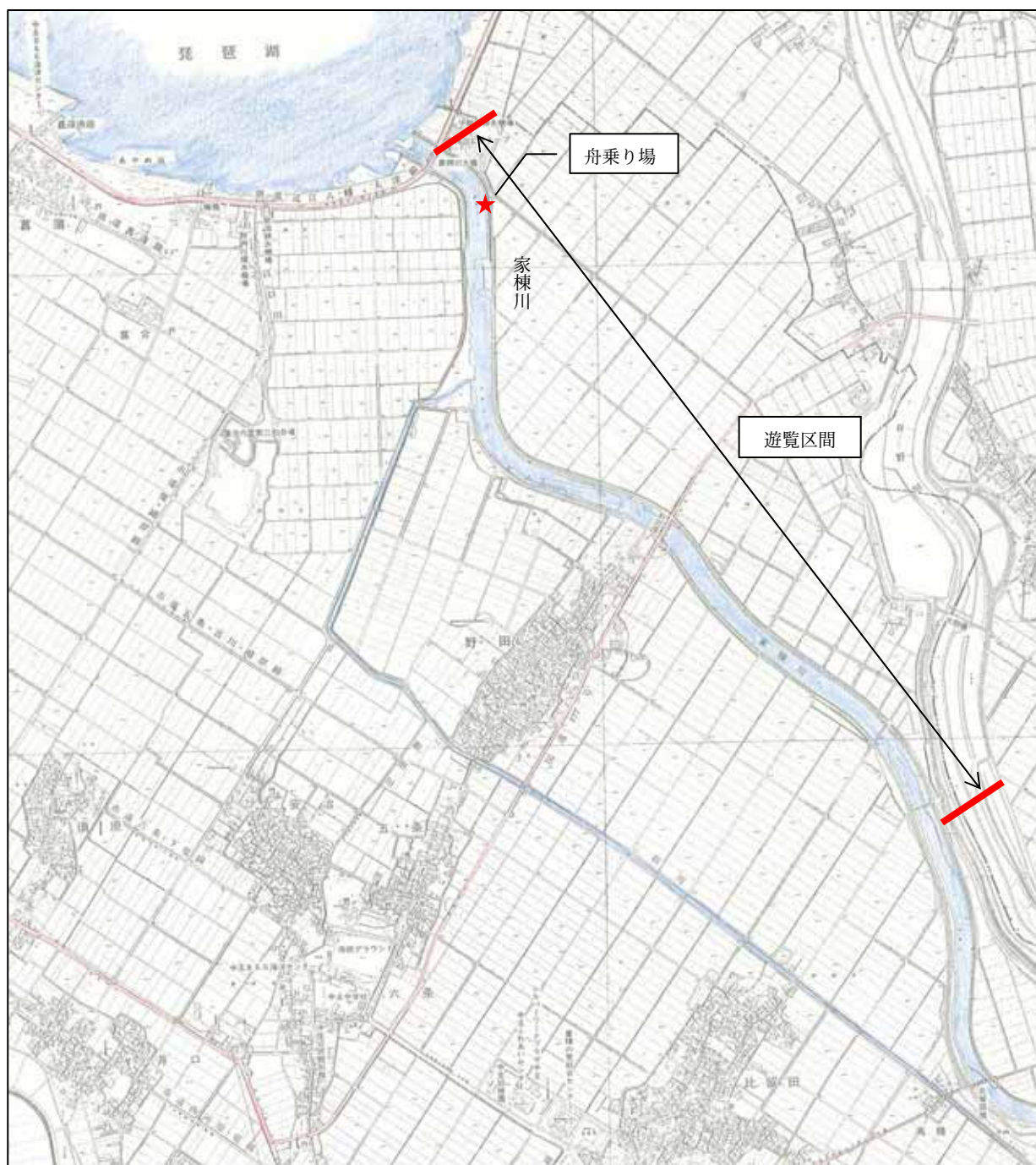
家棟川 河口部から、上流へ約3kmまで（野洲市野田・比留田地先）

□ 提供メニュー

No.	メニュー内容	対 象
ベース1	手漕ぎ遊覧 + 湖魚弁当	市内自治会・老人会
ベース2	手漕ぎ遊覧（体験型環境学習）	市内子ども会・小学生
ベース3	手漕ぎ遊覧 + 漁師料理	観光（50-60代）
ベース4	手漕ぎ遊覧 + 漁師料理	観光（30代）
オプション1	手漕ぎ遊覧 + 花見弁当	オプション
オプション2	手漕ぎ遊覧 + 船上弁当	オプション
オプション3	手漕ぎ遊覧（川下りコース）	オプション

□ 実施主体

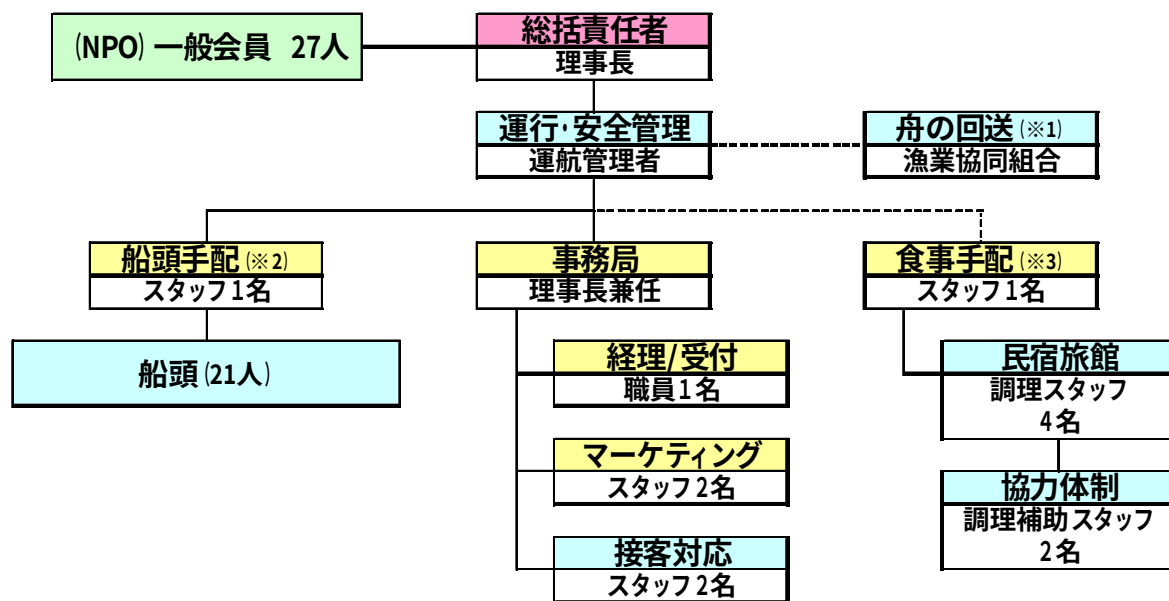
NPO 法人 家棟川流域観光船



(出典：野洲市)

□ 乗り場までのアクセス

J R東海道線（琵琶湖線）野洲駅から、車で 20 分（約 10km）



(※1) 舟の回送は、最低1人必要。船頭との兼務可能

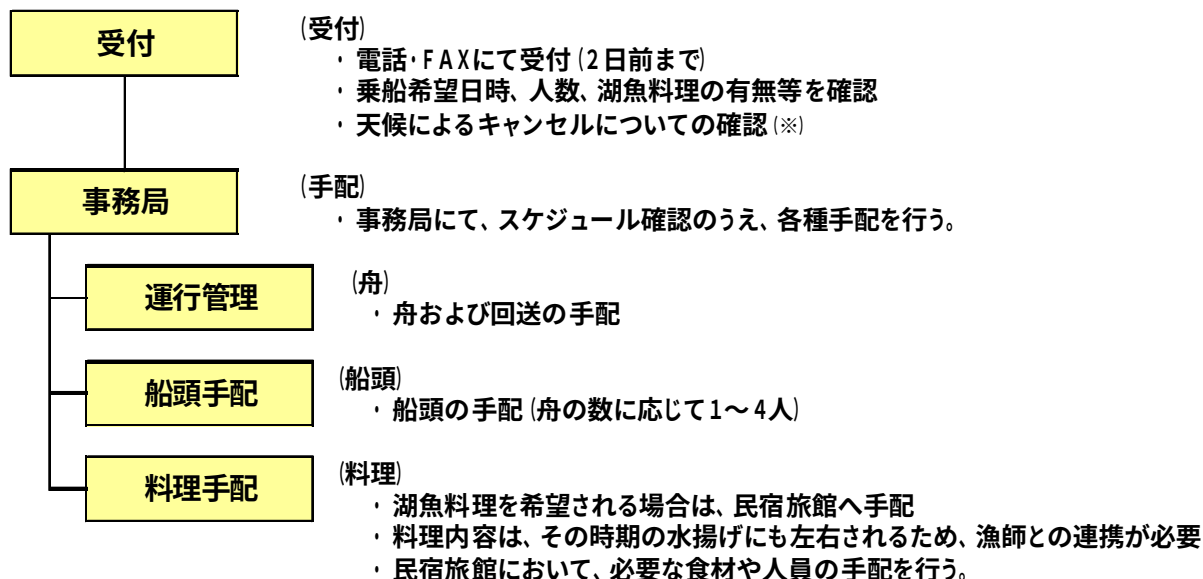
(※2) 船の数に応じて船頭を手配する。

(※3) 食事が必要な場合は、民宿旅館へ手配する。食事数に応じて、民宿旅館で人員手配を行う

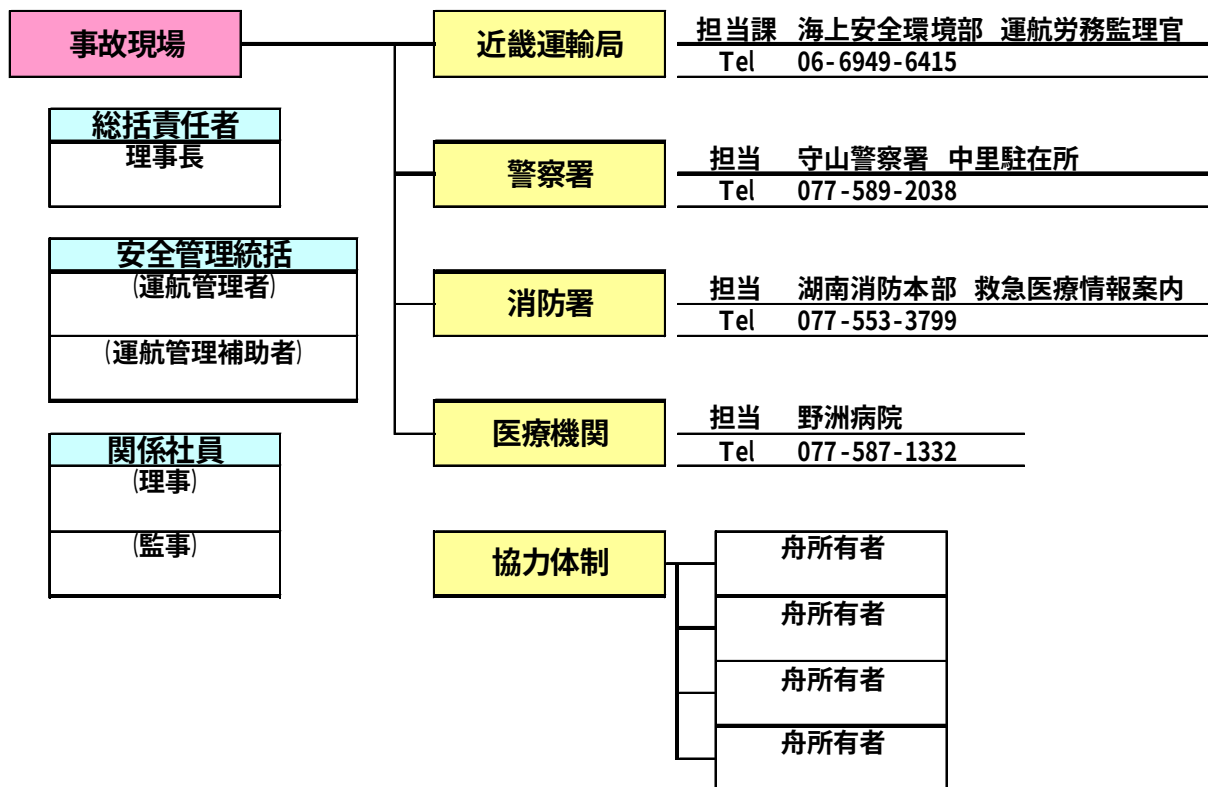
--- 当日に必要な人員配置

- - - 破線は、外部協力体制

■共通スケジュール



(※) 当日、雨風により船の運航ができない場合の、連絡体制
および湖魚料理を希望される場合には、料理もキャンセルされるかどうかの確認



■必要物品リスト

物品		チェック	備考
舟	舟・櫓・竿	☐	
	ゴザ	☐	
	船外機・燃料 (軽油)	☐	
	座布団	☐	
	ビニールの覆い	☐	雨対策
安全管理	ライフジャケット	☐	
	カップ	☐	
資料	「びわ湖の今昔」	☐	配布用
	地図	☐	〃
	写真パネル (舟・風景)	☐	説明用
	写真パネル (鳥・魚)	☐	〃
	水質パックテスト資材	☐	環境学習用
乗り場 設営	看板	☐	
	水 (ポリタンク)・トイレトペーパー	☐	トイレ用
おもてなし	うちわ	☐	夏季のみ
	おしぼり	☐	〃
船頭	法被、笠	☐	

提供メニュー実施マニュアル

□ 内容

手漕ぎ遊覧＋湖魚弁当

□ 対象

市内自治会、老人クラブ

市内自治会数：89 団体 老人クラブ連合会加盟団体：94 団体

□ 価格設定

1 艘（8 人乗り）10,000 円＋湖魚弁当 1 人 200 円

（1 人あたり@1,500 円）

□ 集客及び売上げ目標

【1 年目】： 179 人 268,500 円

【3 年目】： 345 人 517,500 円

（算出式）

	1 年目	3 年目
運航回数	10 回	14 回
舟数	4 艘	6 艘
乗船率	8 割	8 割
運航率	7 割	7 割

過去の運航実績	
2009 年（H21）	80 人（7 団体）
2010 年（H22）	104 人（7 団体）

※実績は実際に乗船した人数

（申込み数ではない）

※運行率…悪天候による当日キャンセルを勘案したもの

（4 艘×8 人乗り）×10 回×0.8×0.7＝179 人 / 179 人×1,500 円＝268,500 円

（6 艘×8 人乗り）×14 回×0.8×0.7＝345 人 / 345 人×1,500 円＝517,500 円

※計算途中で小数点以下切捨てを行っている。

□ 想定集客傾向

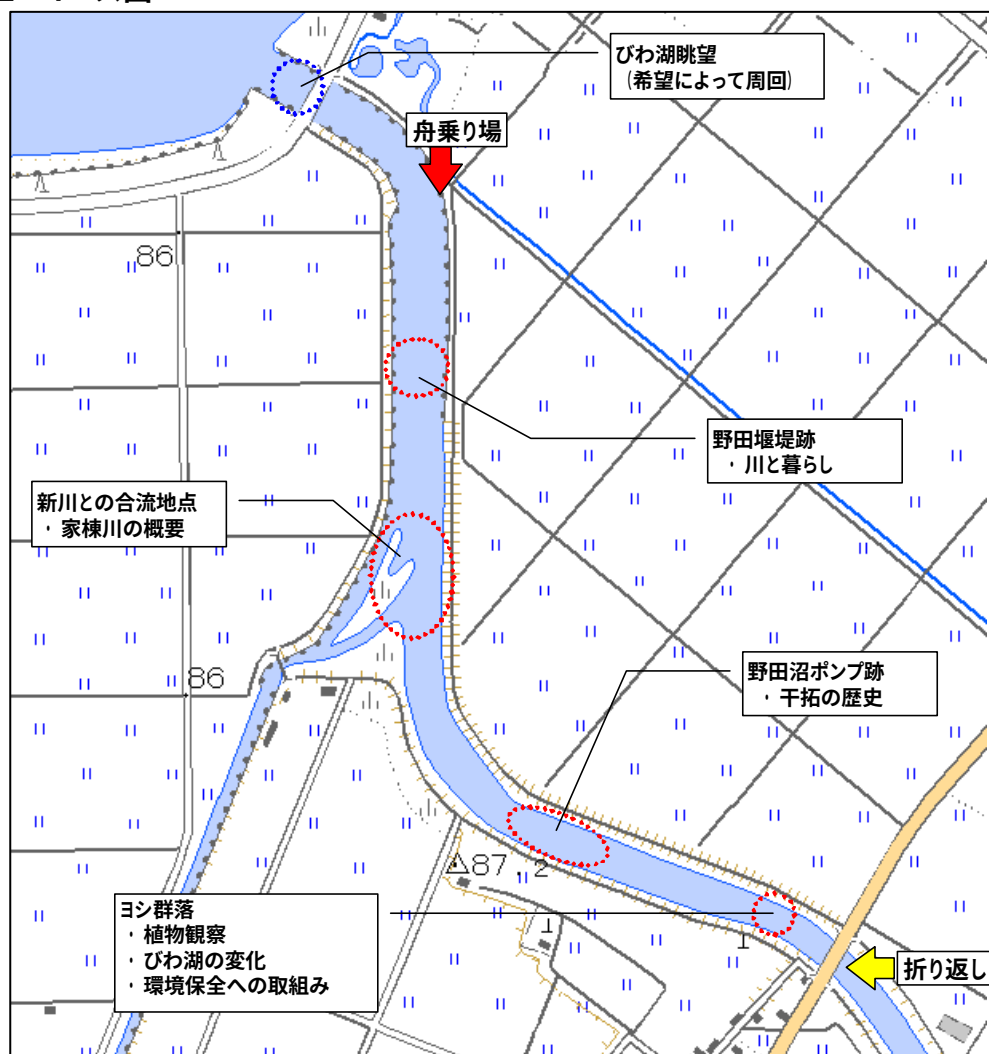
- ・ 年度当初（4～5月）は、役員引継ぎ等により自治会は多忙であるため、夏および秋に集中した集客を見込んでいる。
- ・ 1 年目 夏（7～8月）6 回、秋（10 月）4 回
- ・ また 4 月（田植え）、9 月（稲刈り）は農繁期であるため、農業者が多い老人クラブなどでは集客は見込めない。

⇒実施見込みカレンダー参照

□ タイムテーブル

	事務局	船頭	漁協	民宿
8:00	運行決定			
30				調理 アメノイヲごはん シジミの味噌汁など
9:00	船乗り場の準備 ・駐車場の開錠 ・船乗り場の掃除 ・トイレの準備			
30			舟の回送	船乗り場へ運搬
10:00	接客・対応 乗船介護	舟の掃除・準備		
30	船乗り場に待機 (緊急時対応)	手漕ぎ遊覧 ・家棟川の概要 ・川と暮らし ・干拓の歴史 ・水生植物 ・びわ湖の変化 ・環境保全活動		
11:00			← お弁当は船上or下船後	
30	代金領収・客の見送り		舟の回送	
	後片付け・解散			
12:00				

□ コース図



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(手漕ぎ遊覧)



(湖魚弁当)

□ 船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで上流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
	野田堰堤跡	[昔の家棟川と暮らし] 家の棟ほどある天井川で、びわ湖から川を上るために、可動堰があった。 この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。
	新川合流地点	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 右手に見える新川が、最後の合流河川 ・ここより上流に向かって、水鳥が多く見られる。
	ポンプ跡	[内湖の干拓] 昔はこの辺りに「野田沼」という内湖があった。 戦時中に食糧増産のため、捕虜のオランダ兵たちが干拓工事に駆り出された。 干拓後も湧水を家棟川へと吐き出すためのポンプがあった。
	ヨシ群落	[水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系 (ヨシ群落地帯で舟を止める。) [びわ湖の変化] 琵琶湖総合開発と水質の悪化 外来魚の増加 川から流れてくるごみ [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全
0:40	野田橋	(折り返し) ・湖魚弁当 (または下船後)
1:00	乗り場	(下船)

□ 内容

手漕ぎ遊覧（体験型環境学習）

□ 対象

市内子ども会、小学生

市内子ども会：89 団体（＝自治会数）（コミュニティーセンター事業）子ども教室：7 団体

市内小学校：6 校（児童総数：約 540 人）

□ 価格設定

1 艘（16 人乗り※）10,000 円

（1 人あたり@650 円）※子ども 2 人＝大人 1 人換算

□ 集客及び売上げ目標

【1 年目】： 204 人 132,600 円

【3 年目】： 460 人 299,000 円

（算出式）

	1 年目	3 年目
運航回数	7 回	9 回
舟数	4 艘	6 艘
乗船率	8 割	8 割
運航率	7 割	7 割

過去の運航実績	
2009 年（H21）	156 人（4 団体）
2010 年（H22）	132 人（3 団体）

※実績は実際に乗船した人数

（申込み数ではない）

※運行率…悪天候による当日キャンセルを考慮したもの

（4 艘×16 人乗り）×7 回×0.8×0.7＝204 人 / 204 人×650 円＝132,600 円

（6 艘×16 人乗り）×9 回×0.8×0.7＝460 人 / 460 人×650 円＝299,000 円

※計算途中で小数点以下切捨てを行っている。

□ 想定集客傾向

- ・ 子ども会の活動は、夏休みに集中されるため、集客もその時期を見込んでいる。また野外活動に適した秋にも集客を見込んでいる。
- ・ 1 年目 夏（7～8 月）4 回、秋（10 月）3 回

⇒実施見込みカレンダー参照

□ タイムテーブル

	事務局	船頭	漁協	民宿
8:00	運行決定			
30				
9:00	船乗り場の準備 ・駐車場の開錠 ・船乗り場の掃除 ・トイレの準備 ・ライフジャケット			
30				
10:00	接客・対応 乗船介護	舟の掃除・準備	舟の回送	
30	船乗り場に待機 (緊急時対応)	手漕ぎ遊覧 ・家棟川の概要 ・川と暮らし ・櫓漕ぎ体験 ・植物観察 ・びわ湖の変化 ・水質バックテスト ・環境保全活動		
11:00				
30	代金領収・客の見送り		舟の回送	
	後片付け・解散			
12:00				

□ コース図



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(手漕ぎ体験)

□ 船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで上流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
	新川合流地点	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 右手に見える新川が、最後の合流河川 ・ここより上流に向かって、水鳥が多く見られる。
	ポンプ跡	[昔の家棟川と暮らし] 家の棟ほどある天井川で、びわ湖から川を上るために、可動堰があった。 この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。 ・櫓漕ぎ体験
	ヨシ群落	(ヨシ群落地帯で舟を止める。) [水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系 ・ヨシの葉舟づくり [びわ湖の変化] 琵琶湖総合開発と水質の悪化 ・水質パックテスト 外来魚の増加 川から流れてくるごみ [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全
0:40	野田橋	(折り返し)
1:00	乗り場	(下船)

□ 内容

手漕ぎ遊覧＋漁師料理

□ 対象

市外の自然環境に関心のある 50～60 代の観光客

想定する対象地域：滋賀県内、京都市内、京都府南部、大阪市近郊、名古屋市近郊

□ 価格設定

1 艘（8 人乗り）10,000 円＋漁師料理 1 人 3,800 円

（1 人あたり@4,800 円）

- ・ 価格設定はモニターアンケートにおいて最も回答の多かったものを採用

□ 集客及び売上げ目標

【1 年目】： 793 人 3,806,400 円

【3 年目】： 2,342 人 11,241,600 円

（算出式）

	1 年目	3 年目
運航回数	45 回	88 回
舟数	4 艘	6 艘
乗船率	8 割	8 割
運航率	7 割	7 割

※運行率…悪天候による当日キャンセルを勘案したもの

（4 艘×8 人乗り）×45 回×0.8×0.7=793 人 / 793 人×4,800 円=3,806,400 円

（6 艘×8 人乗り）×88 回×0.8×0.7=2,342 人 / 2,342 人×4,800 円=11,241,600 円

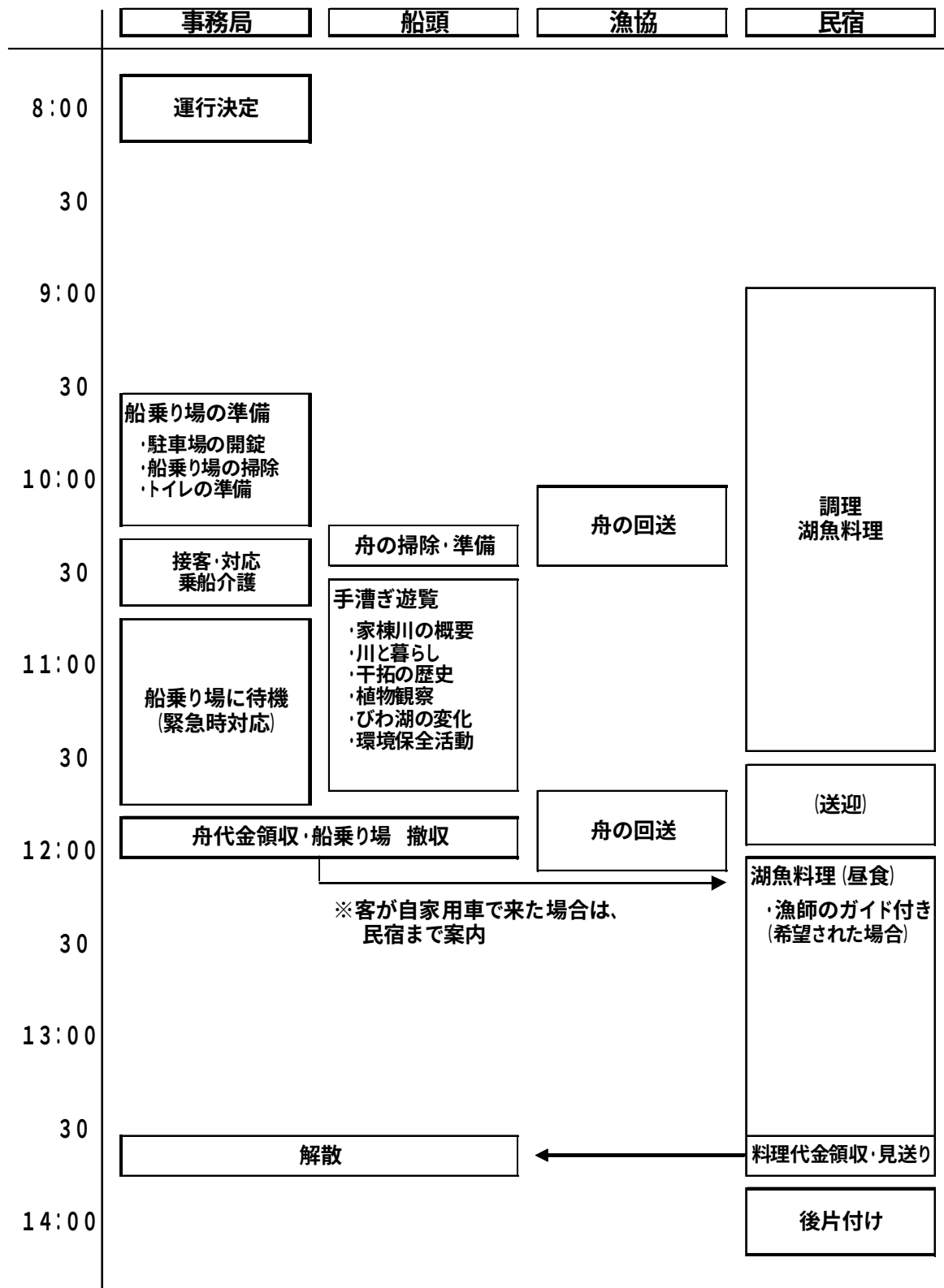
※計算途中で小数点以下切捨てを行っている。

□ 想定集客傾向

- ・ モニターアンケート結果から、4～5 月および 10 月の乗船希望が多い。
- ・ 1 年目 春（4～5 月）20 回、秋（10 月）12 回、その他の季節は 3～4 回／月

⇒実施見込みカレンダー参照

□ タイムテーブル



□ コース図



地図出典:「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(遊覧風景)

□ 船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで上流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
	野田堰堤跡	[昔の家棟川と暮らし] 家の棟ほどある天井川で、びわ湖から川を上るために、可動堰があった。 この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。
	新川合流地点	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 右手に見える新川が、最後の合流河川 ・ここより上流に向かって、水鳥が多く見られる。
	野田沼跡	[内湖の干拓] 昔はこの辺りに「野田沼」という内湖があった。 戦時中に食糧増産のため、捕虜のオランダ兵たちが干拓工事に駆り出された。 干拓後も湧水を家棟川へと吐き出すためのポンプがあった。
	ヨシ群落	[水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系 (ヨシ群落地帯で舟を止める。) [びわ湖の変化] 琵琶湖総合開発と水質の悪化 外来魚の増加 川から流れてくるごみ [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全
0:40	野田橋	(折り返し)
1:00	乗り場	(下船) ※ 基本的に、ベース①(自治会・老人会)と同様の説明 ただし、県外の方にも分かりやすいよう、地図・写真を使いながら説明を行う。

□ 内容

手漕ぎ遊覧＋漁師料理

□ 対象

市外の自然環境に関心のある 30 代の女性観光客

想定する対象地域：滋賀県内、京都市内、京都府南部、大阪市近郊、名古屋市近郊

□ 価格設定

1 艘（8 人乗り）10,000 円＋漁師料理 1 人 5,000 円

（1 人あたり@6,000 円）

- ・ 価格設定はモニターアンケートにおいて最も回答の多かったものを採用

□ 集客及び売上げ目標

【1 年目】： 358 人 2,148,000 円

【3 年目】： 844 人 5,064,000 円

（算出式）

	1 年目	3 年目
運航回数	20 回	32 回
舟数	4 艘	6 艘
乗船率	8 割	8 割
運航率	7 割	7 割

※運行率…悪天候による当日キャンセルを勘案したもの

$(4 \text{ 艘} \times 8 \text{ 人乗り}) \times 20 \text{ 回} \times 0.8 \times 0.7 = 358 \text{ 人}$ / $358 \text{ 人} \times 6,000 \text{ 円} = 2,148,000 \text{ 円}$

$(6 \text{ 艘} \times 8 \text{ 人乗り}) \times 32 \text{ 回} \times 0.8 \times 0.7 = 844 \text{ 人}$ / $844 \text{ 人} \times 6,000 \text{ 円} = 5,064,000 \text{ 円}$

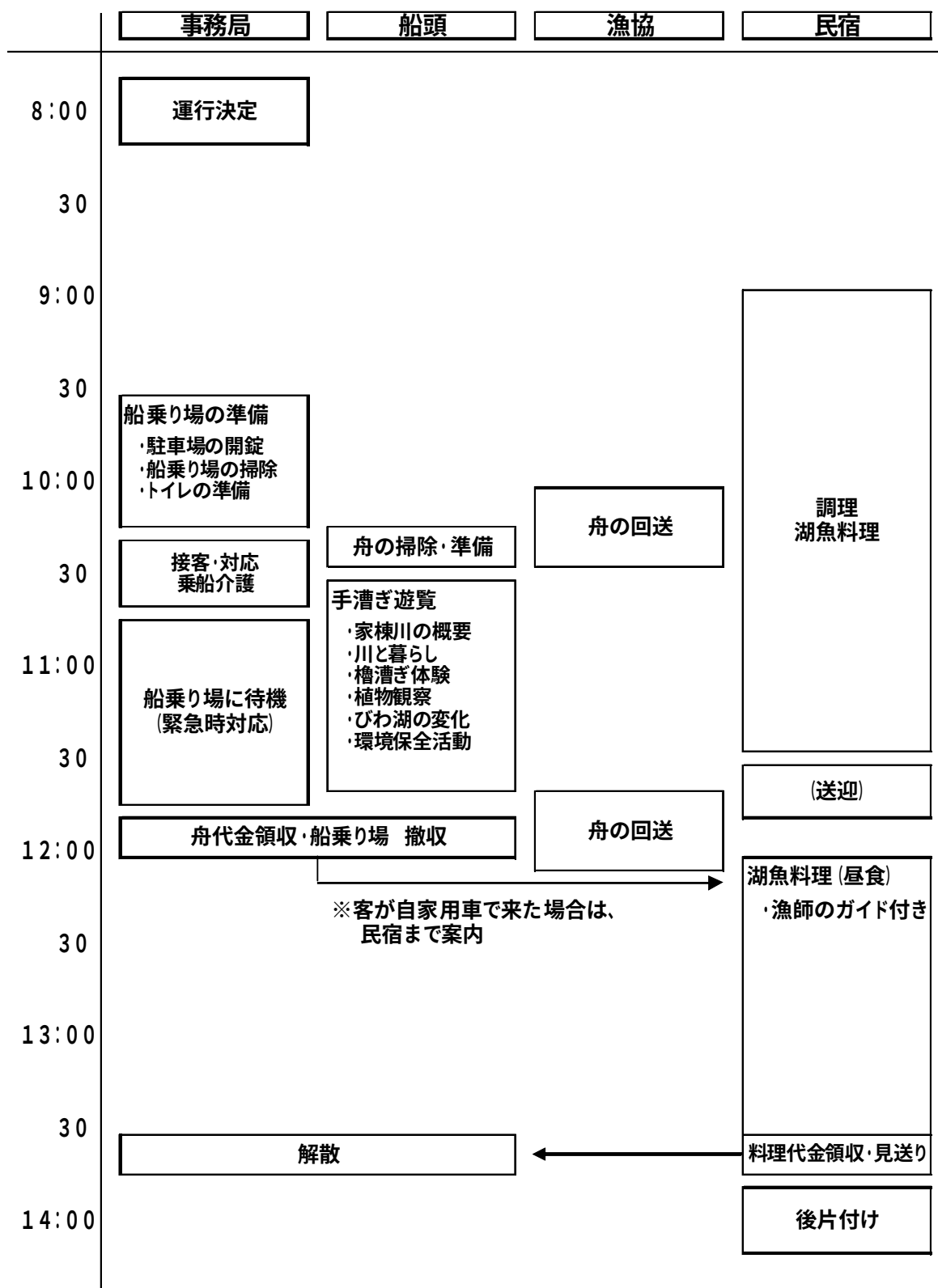
※計算途中で小数点以下切捨てを行っている。

□ 想定集客傾向

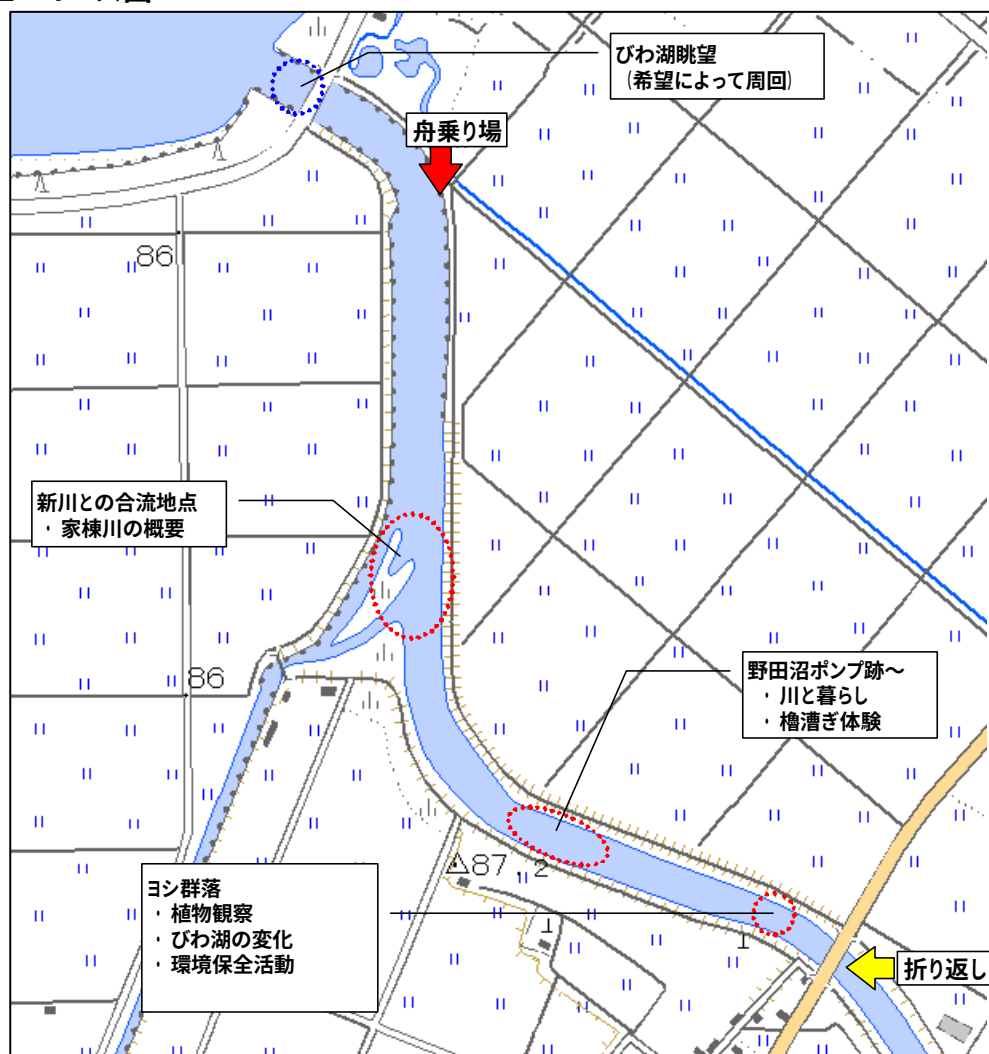
- ・ モニターアンケート結果から、4～5月の乗船希望が多い。
- ・ 1 年目 春（4～5月）8 回、その他の季節は 2 回／月程度

⇒実施見込みカレンダー参照

□ タイムテーブル



□ コース図



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(船上風景)

□ 船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで上流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
	新川合流地点	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 右手に見える新川が、最後の合流河川 ・ここより上流に向かって、水鳥が多く見られる。
	ポンプ跡	[昔の家棟川と暮らし] 家の棟ほどある天井川で、びわ湖から川を上るために、可動堰があった。 この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。 ・櫓漕ぎ体験
	ヨシ群落	(ヨシ群落地帯で舟を止める。) [水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系 ・ヨシの葉舟づくり [びわ湖の変化] 琵琶湖総合開発と水質の悪化 外来魚の増加 川から流れてくるごみ [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全
0:40	野田橋	(折り返し)
1:00	乗り場	(下船) ※基本的に、ベース②(子ども会・小学生)と同様の説明(パックテストなし) ただし、県外の方にも分かりやすいよう、地図・写真を使いながら説明を行う。

□ 内容

手漕ぎ遊覧+花見弁当

□ 対象

ベース1 (自治会、老人会) / ベース3 (観光: 50-60代)

ベース4 (観光: 30代女性)

□ 価格設定

1人あたり@3,800円

□ 期間

期間限定 (4月上旬~中旬)

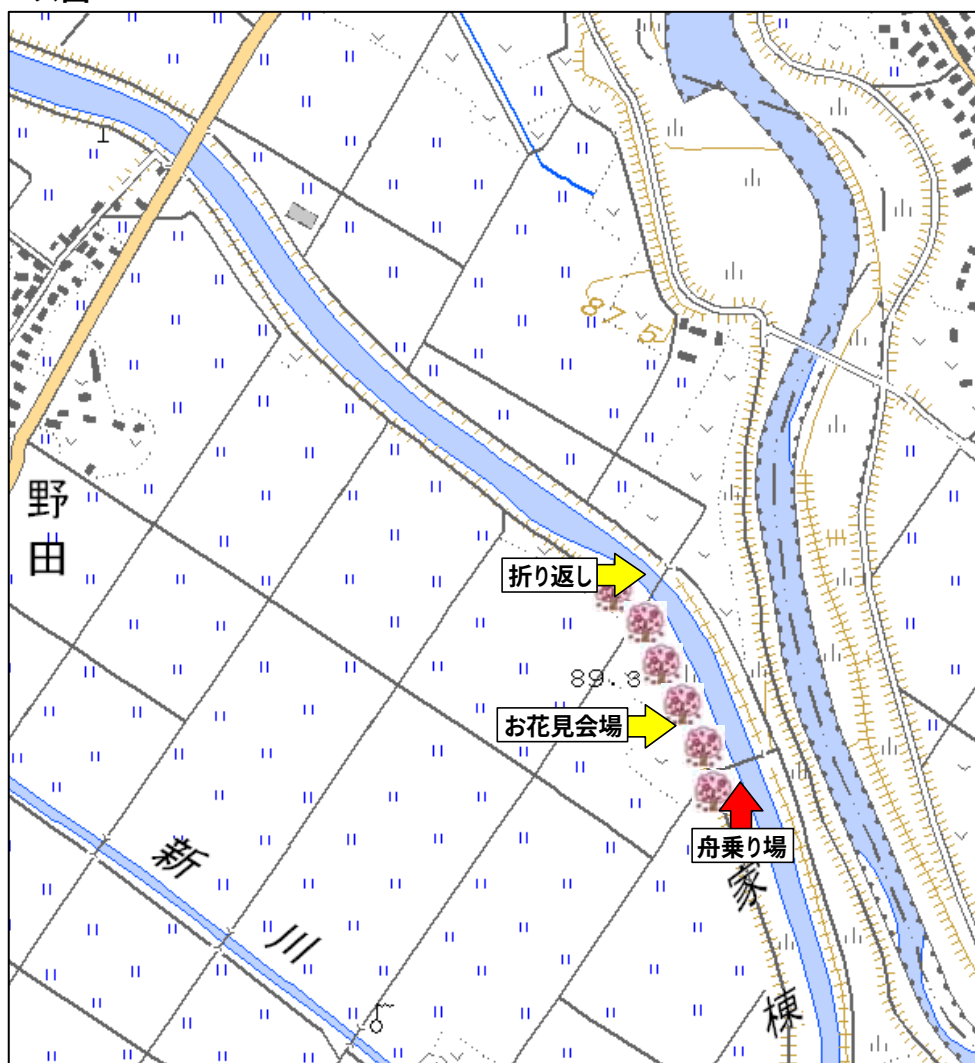
□ 船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで下流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。 ・水面からの堤防の桜を楽しんでもらう。 [家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 家の棟ほどある天井川であったため、「家棟川」と呼ばれる。
0:20	比留田橋	折り返し
45:00	乗り場	(乗船した場所で、下船) ※観光を主にしたオプションであるため、説明は極力省き、景色を楽しんでもらう。

□ タイムテーブル

	事務局	船頭	漁協	民宿
8:00	運行決定			
30				
9:00				
30				
10:00				
30	船乗り場の準備 ・花見会場の清掃 ・乗り場清掃			調理 湖魚料理
11:00	接客・対応 乗船介護	舟の掃除・準備	舟の回送	
30	船乗り場に待機 (緊急時対応) ・会場設営	手漕ぎ遊覧 ・堤防の桜を望む。 ・片道400m		会場へ運搬
12:00		湖魚料理(昼食) ・桜の下で弁当 ・漁師のガイド付き	舟の回送	
30				
13:00				
30				
14:00	代金領収・後片付け・解散			

コース図



地図出典:「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(花見舟)



(漁師弁当)

□ 内容

手漕ぎ遊覧+船上弁当

□ 対象

ベース1 (自治会、老人会) / ベース3 (観光: 50-60代)

ベース4 (観光: 30代女性)

□ 価格設定

1人あたり@3,800円

□ 期間

期間に限定なし

□ コース図



地図出典:「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

タイムテーブル

	事務局	船頭	漁協	民宿
8:00	運行決定			
30				
9:00				
30				
10:00				調理 湖魚弁当
30	船乗り場の準備 ・駐車場の開錠 ・船乗り場の掃除 ・トイレの準備		舟の回送	船乗り場へ運搬
11:00	接客・対応 乗船介護	舟の掃除・準備		
30	船乗り場に待機 (緊急時対応)	手漕ぎ遊覧 ・家棟川の概要 ・川と暮らし ・干拓の歴史 ・水生植物 ・びわ湖の変化 ・環境保全活動 ※船上で昼食		
12:00				
30	代金領収・後片付け・解散		舟の回送	
13:00				

□ 写真

内容は、ベースプラン1と同じため、省略
漁師弁当は、オプション1と同程度のもの

船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで上流へ。) ・水面を渡る風、景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
	野田堰堤跡	[昔の家棟川と暮らし] 家の棟ほどある天井川で、びわ湖から川を上るために、可動堰があった。 この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。
	新川合流地点	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 右手に見える新川が、最後の合流河川 ・ここより上流に向かって、水鳥が多く見られる。
	ポンプ跡	[内湖の干拓] 昔はこの辺りに「野田沼」という内湖があった。 戦時中に食糧増産のため、捕虜のオランダ兵たちが干拓工事に駆り出された。 干拓後も湧水を家棟川へと吐き出すためのポンプがあった。
	ヨシ群落	[水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系 (ヨシ群落地帯で舟を止める。) [びわ湖の変化] 琵琶湖総合開発と水質の悪化 外来魚の増加 川から流れてくるごみ [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全
0:40	野田橋	(折り返し) ・船上にて、昼食(漁師弁当)
1:00	乗り場	(下船)

☐ **内容**

手漕ぎ遊覧：川下りコース

☐ **対象**

ベース1（自治会、老人会）

ベース2（子ども会、小学生）

ベース3（観光：50-60代）

ベース4（観光：30代女性）

☐ **価格設定**

1艘（8人乗り）10,000円

（1人あたり@1,300円）

☐ **期間**

期間限定（4月～6月）

☐ **備考**

川下り（片道）のコースであり、順々に移り変わる風景に飽きることもなく、最も理想的なコースである。ただし、野田橋より上流部は川底に土砂が堆積し、水量の少ない季節は舟底が擦れるため、運航が出来ない。

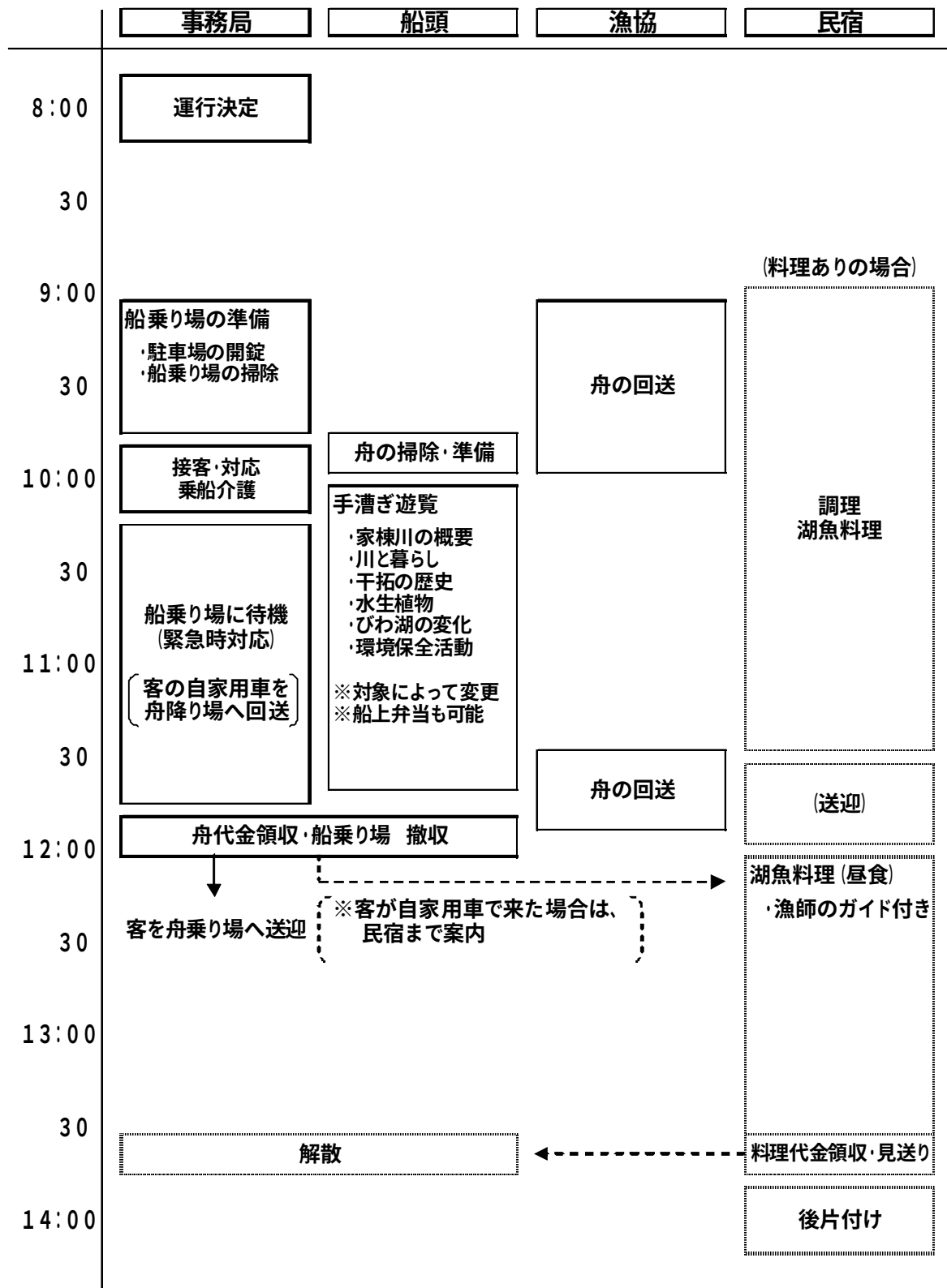
特にびわ湖では、治水のため人為的に水位管理を行っており、流域河川の水位もその影響を受けるため、7月以降は川底に堆積した土砂を浚渫（しゅんせつ）しない限り運航できない。

⇒第5章 参考資料 参照

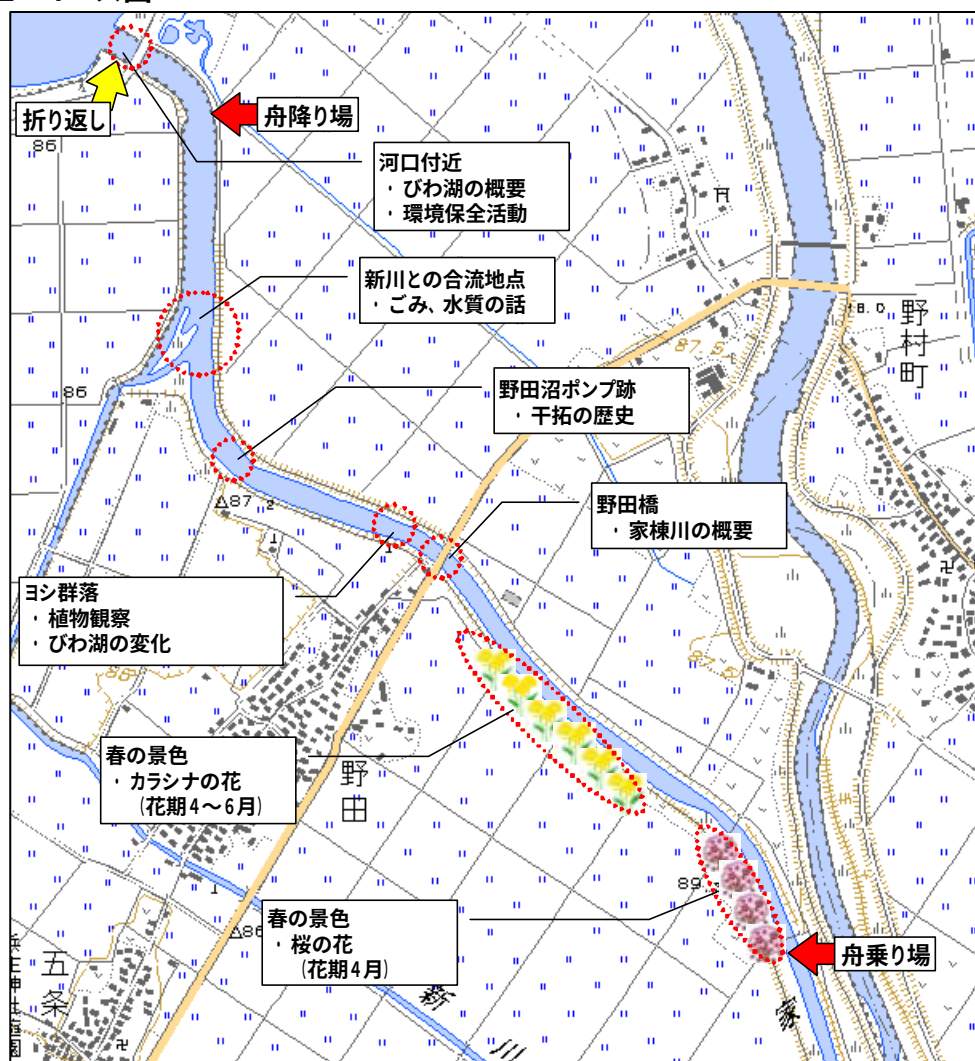
■提供メニュー オプション3
(手漕ぎ遊覧：川下りコース)

第2章 提供メニュー詳細

□ タイムテーブル



□ コース図



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

□ 写真



(カラシナの花)

船上プログラム

時間	地点	船上プログラム
0:00	乗り場	(乗船) (しばらくは、説明なし。ゆっくりと手漕ぎで下流へ。) ・水面を渡る風、春の景色を味わってもらう。 ・櫓を漕ぐ音や水音を楽しんでもらう。
0:30	野田橋付近	[家棟川の概要] 希望が丘文化公園を水源に、市内の約8割の河川が合流し、びわ湖へと注ぐ。 家の棟ほどある天井川であったため、「家棟川」と呼ばれる。 [昔の家棟川と暮らし] この辺りの水田は、びわ湖と水位が変わらなかったため、田舟を使っていた。
	ヨシ群落	[水生植物] ヨシやマコモ、ガマのほか、ヤナギの木など。 そしてそこを棲みかにする鳥や魚といった多様な生態系
	ポンプ跡	[内湖の干拓] 昔はこの辺りに「野田沼」という内湖があった。 戦時中に食糧増産のため、捕虜のオランダ兵たちが干拓工事に駆り出された。 干拓後も湧水を家棟川へと吐き出すためのポンプがあった。
	新川合流地点	[ごみ、水質の話] 右手に見える新川が、最後の合流河川 川から流れてくるごみ、農業濁水の流入 ・対象によって、[手漕ぎ体験] [水質パックテスト]
	河口付近	[びわ湖の変化] びわ湖の概要 琵琶湖総合開発と水質の悪化 外来魚の増加 [環境保全への取り組み] 水源の里山から、まち・田畑・びわ湖までの環境保全 (折り返し)
1:00	舟降り場	(下船) ※話の内容は、対象によって変更(ベースプラン参照) ※オプション②(船上弁当)との組み合わせも可能

周辺の関係団体との連携オプションプランについて、以下にまとめる。

なお、集客規模は滋賀県観光入込客統計調査によるものである。

① びわ湖クルーズ

連携団体	クルージング事業者
プラン概要	定員6人のクルーザーでの「びわ湖クルージング」 既存プランには、30分コースやランチタイムコースがある。
備考	びわ湖でのクルージング運航は、海上運送法の適用（不定期航路事業）を受けるが、屋形船は旅客運送が認められていない。 そのため資格・設備を有する事業者との連携が必要。

② バス釣り体験ツアー

連携団体	遊漁船事業者
プラン概要	びわ湖沖でのバス釣りやビワマス釣り ビワマスの時期は、3～9月
備考	釣り船の運航は、遊漁船業に該当するため、県知事への登録、遊漁船業務主任者（有資格者）の乗船が必要。

③ オートキャンプ&BBQ

連携団体	ビワコマイアミランド・マイアミ浜オートキャンプ場
プラン概要	オートキャンプやBBQのほか、カヌー教室やテニスコート、ビーチ散策などを行うことができる。
集客規模	年間約3万人（日帰り2万人、宿泊1万人）

④ 新鮮とれとれ野菜（地産地消）

連携団体	ちゅうずドリームファーム
プラン概要	生産者の見える「地産地消」の安心安全な新鮮野菜や果実を買える直売所のほか、ブルーベリーの摘み取り（1時間 800円食べ放題）などの収穫体験もできる。
集客規模	年間約7万人

⑤ お土産処

連携団体	琵琶湖グルメリゾート鮎家の郷
プラン概要	佃煮や鮎巻きをはじめとした加工食品や漬物、地酒など地域の特産を販売する土産処のほか、レストランも複数完備している。
集客規模	年間約 40 万人 観光バスでの乗り入れが多い。
備考	駐車場 バス 50 台、乗用車 250 台

⑥ 歴史めぐり

連携団体	野洲市観光物産協会（野洲市役所商工観光課内） 〒520-2395 野洲市小篠原 2100-1 / Tel:077-587-3710 URL: http://homepage3.nifty.com/ohmifuji/top/page.htm 野洲市ボランティアガイド協会
プラン概要	日本最大の銅鐸が出土した古墳群のほか、平家物語に登場する白拍子の祇王ゆかりの祇王寺など多くの史跡をボランティアガイドが案内する。（5人以上のグループでガイド1人につき1,000円）
主な史跡	銅鐸博物館 年間約 12,000 人 御上神社 年間約 65,000 人 兵主大社 年間約 126,000 人 錦織寺 年間約 10,000 人

⑦ 収穫体験

連携団体	地元農業組合、ほか
プラン概要	地域の畑で、芋掘りなど農業体験ができる。

⑧ ヨシ笛コンサート

連携団体	ヨシ笛愛好団体
プラン概要	家棟川の風景を望みながら、風情あるヨシ笛の音色を楽しむ。

□ 連携オプションプラン位置図



地図出典:「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

【市内】

- NPO 会員（35 名）のネットワークを活用
 - 友人・知人や各所属団体・自治会に対し勧誘
- マーケティング担当者（2 名）を設置
 - それぞれ中主地区と野洲地区に役割分担
 - 自治会・子ども会・子ども教室（教育委員会所管）を対象に勧誘
- 行政との連携
 - 市広報紙の活用
 - 環境学習事業として登録
 - 滋賀県環境学習情報サイト エコロシーが（<http://www.ecoloshiga.jp/>）
 - 滋賀県学習情報提供システム におねっと（<http://www.nionet.jp/>）
 - 小学校向け情報冊子 しがこども体験学校
 - 生涯学習事業との連携

【市外】

- 観光物産協会との連携
 - チラシ（1 万枚作成予定）の配布 → 導線となる鉄道各駅を活用
 - 観光物産協会のHPへの登録
- 地域タブロイド誌、ミニコミ誌への掲載
- Web（ブログ）の設置
 - 当面は観光物産協会の機能を活用予定

【プロモーション研修】

将来的に旅行代理店との連携を進めるため、以下の内容で研修を行った。

- 日時：2011 年 2 月 16 日
- 講師：元 大手旅行業勤務 現 観光協会事務局長
- 内容：コミュニティービジネスを観光振興として活かすには
観光客の誘致について、着地型企画旅行について



■プラン実施見込みカレンダー（1年目）

第2章 提供メニュー詳細

設定したプランの実施（運用）を年間スケジュールから実証を行った。

	4月 (土) (日)					5月 (土) (日)					6月 (土) (日)					7月 (土) (日)					8月 (土) (日)		
	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日
1週目	③	③	③	③	③	③	③		③	③				③	③					①		①	②
2週目	③	③	③	④	④				④	④					④					①			
3週目	③	③		③	③				③	③					③				①	②			
4週目	③	③		④	④				④	④					④				①	②		①	②
備考	4,5月は希望が多い (モニターアンケートによる)															子どもは夏休みに多い。							

	9月 (土) (日)					10月 (土) (日)					11月 (土) (日)		
	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日
1週目				③	③	③	③		①	①			③
2週目					④	③	③	③		②			④
3週目				③	③	③	③	③	①	①			③
4週目					④	③	③		②	②			④
備考	秋にも50代の希望がある(モニターアンケート)												

- ① 自治会、老人会
- ② 子ども会、小学生
- ③ 観光(50-60代)
- ④ 観光(30代女性)

※ 稼働日数は、月あたり 20 日間計算（ただし 8 月、11 月は 10 日計算）

※ その年間稼働期間において、集客傾向を踏まえた実施見込みを作成した。

※ 1 艘あたり 8 人乗り（ただし、プラン②は子ども 2 人＝大人 1 人換算）

A	運行率	0.7
B	舟数	4 艘
C	定員	8 人
	歩留まり	0.8

※プラン②のみ定員 子ども16人計算

※運航率…悪天候による欠航を考慮した割合

※運効率、歩留まりについては、過去の実績から算出

	運航見込み (A)	稼働舟数 (B)	乗客数 (C)	単価	売上げ
①	10 回 → 7 回	28 艘 →	179 人 ×	1,500 円 =	268,500 円
②	7 回 → 4 回	16 艘 →	204 人 ×	650 円 =	132,600 円
③	45 回 → 31 回	124 艘 →	793 人 ×	4,800 円 =	3,806,400 円
④	20 回 → 14 回	56 艘 →	358 人 ×	6,000 円 =	2,148,000 円
合計	56 回	224 艘	1,534 人		6,355,500 円

家棟川流域観光船事業 原価計算書(1年目)

メニュー	対象顧客	見込額(単価×想定数) 年間	
アメノイフ弁当付 1,000+500円	市内の自治会・老人会	1,500円×179人＝	¥268,500
舟	市内の子供会	(小人)650円×204人＝ 大人換算(1,300円×102人)	¥132,600
船+湖魚食 1,000+3,800円	市外の50～60歳・女性	4,800円×79人3＝	¥3,806,400
船+漁師の湖魚食 1,000+5,000円	市外の30歳・女性	6,000円×358人＝	¥2,148,000

年間船数 別紙より 224艘 1,434人

1日船数 4艘

売上額合計 ¥6,355,500

直接経費

船頭賃	224艘×4,000円＝	¥896,000
船運び代	224艘×500円＝	¥112,000
船借り代	224艘÷2)×2,000円＝	¥224,000
弁当代	179食×200円＝	¥35,800
湖魚食	1,151食×3,000円＝	¥3,453,000
小 計		¥4,720,800

間接経費

人件費(バイト代)	6時間×140日×800円＝	¥672,000
船修繕費	50,000円×2艘＝	¥100,000
保 険	通年)傷害保険	¥100,000
宣伝費	チラシ印刷 5円×20,000部＝	¥100,000
河川占拠料	1箇所×10,000円＝	¥10,000
事務費		¥50,000
通信費	6,000円×10ヶ月＝	¥60,000
法人税		¥70,000
会議費	3,000円×10回＝	¥30,000
環境学習費	売上げ×7%＝	¥442,700
小 計		¥1,634,700

経費合計 ¥6,355,500

■プラン実施見込みカレンダー（3年目）

第2章 提供メニュー詳細

	4月 (土) (日)						5月 (土) (日)						6月 (土) (日)					7月 (土) (日)					8月 (土) (日)			
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	
1週目	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	①					③	③				①	①		②	②
2週目	③	③	③	③	④	④	③	③	③	③	④	④				④	④				①	①		④	④	
3週目	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③				③	③				①	②		③	③	
4週目	③	③	③	③	④	④	③	③	③	③	④	④				④	④				①	②		②	②	
備考	4,5月は希望が多い(モニターアンケートによる) 3年目には、週6日(月あたり24日)稼働を目標																	子どもは夏休みに多い。								

	9月 (土) (日)					10月 (土) (日)					11月 (土) (日)		
	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日	4日	5日	1日	2日	3日
1週目	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③		③	③
2週目	③	③	③	④	④	③	③	③	④	④		④	④
3週目	③	③	③	③	①	③	③	③	③	③		③	③
4週目	③	③	③	④	④	③	③	③	④	④		④	④
備考	秋にも50代の希望がある(モニターアンケート)												

- ① 自治会、老人会
- ② 子ども会、小学生
- ③ 観光(50-60代)
- ④ 観光(30代女性)

- ※ 稼働日数は、月あたり20日間計算(ただし8月、11月は10日計算)
- ※ その年間稼働期間において、集客傾向を踏まえた実施見込みを作成した。
- ※ 1艘あたり8人乗り(ただし、プラン②は子ども2人=大人1人換算)

A	運行率	0.7
B	舟数	6艘
C	定員	8人
	歩留まり	0.8

※プラン②のみ定員 子ども16人計算

※運航率…悪天候による欠航を考慮した割合

※運効率、歩留まりについては、過去の実績から算出

	運航見込み(A)	稼働舟数(B)	乗客数(C)	単価	売上げ
①	14回 → 9回	54艘 →	345人 ×	1,500円 =	517,500円
②	9回 → 6回	36艘 →	460人 ×	650円 =	299,000円
③	88回 → 61回	366艘 →	2,342人 ×	4,800円 =	11,241,600円
④	32回 → 22回	132艘 →	844人 ×	6,000円 =	5,064,000円
合計	98回	588艘	3,991人		17,122,100円

家棟川流域観光船事業 原価計算書(3年目)

メニュー	対象顧客	見込額(単価×想定数) 年間	
アメノイワ弁当付 1,000+500円	市内の自治会・老人会	1,500円×345人＝	¥517,500
舟	市内の子供会	(小人)650円×460人＝ 大人換算(1,300円×230人)	¥299,000
船+湖魚食 1,000+3,800円	市外の50～60歳・女性	4,800円×2,342人＝	¥11,241,600
船+漁師の湖魚食 1,000+5,000円	市外の30歳・女性	6,000円×844人＝	¥5,064,000

年間船数 別紙より 588艘 3,761人

1日船数 6艘

売上額合計 ¥17,122,100

直接経費

船頭賃	588艘×4,000円＝	¥2,352,000
船運び代	588艘×500円＝	¥294,000
船借り代	588艘×0.3)×2,000円＝	¥352,000
弁当代	345食×200円＝	¥69,000
湖魚食	3,186食×3,000円＝	¥9,558,000
小 計		¥12,625,000

間接経費

パイ代(受付・会計込)	6時間×140日×800円×3人＝	¥2,016,000
船修繕費	6,000円×4艘＝	¥240,000
保 険	通年)傷害保険	¥200,000
宣伝費		¥300,000
河川占拠料	1箇所×10,000円＝	¥10,000
事務費		¥200,000
通信費	20,000円×10ヶ月＝	¥200,000
法人税		¥70,000
会議費	6,200円×10回＝	¥62,000
環境学習費	売上げ×7%＝	¥1,199,100
小 計		¥4,497,100

経費合計 ¥17,122,100

第3章 調査資料

マーケティング（モニター）調査報告

1. 目的

提供メニューに対し、想定した客層が対価を払っても良いと言ってもらえるかどうかを検証する。

2. 概要

提供メニューの需要（ニーズ）を把握するため、モニターに体験してもらい、意見交換（ワークショップ及びアンケート）を実施する。

3. 対象（モニター）

① 50～60 歳代の女性 26 人（舟3艘）

② 30 歳代の独身女性 14 人（舟2艘）

（内訳）

	県内	京都府 南部	大阪市 周辺	名古屋 市内	合計
①50～60 代	---	18 人	---	8 人	26 人
②30 代	4 人	2 人	4 人	4 人	14 人

3-1. 対象の選定理由

- ・ 年齢別…観光（旅行）に時間とお金を掛ける余裕のある年齢層を選定した。
- ・ 地域別…観光客として、県外の近郊都市圏を選定した。（30 代の県内は比較対象）

3-2. モニターの募集方法

① 50～60 代

京 都 方 面…リビング新聞誌上においてモニターを募集（京都方面 49 万部に掲載）

名古屋方面…知人を通じて募集

② 30 歳代の独身女性

全域…知人を通じて募集

リビング新聞…

主婦層を対象とした地域密着型の宅配フリーペーパー

3-2. モニター募集時の条件（経費面）

① 50～60 代

参加費として 2,000 円を負担してもらおう。ただし、お土産つき。

野洲駅までの交通費はモニターの個人負担

② 30 歳代の独身女性

参加費は無料

野洲駅までの交通費（実費）は主催側で負担

4. 行程

- ① 2010年11月12日（金） 50～60代
- ② 2010年11月13日（土） 30代

時 間	内 容
10:00	野洲駅集合 ～ 家棟川河口（専用タクシー）
10:30 ～11:30	家棟川エコ遊覧 地元の船頭さんの語りを聴きながら、片道約1.5kmの船旅です。 川上から見える、ゆったりとした風景をお楽しみください。
	民宿「あやめ荘」へ移動
12:00 ～12:45	昼食「漁師の湖魚料理」 他所では食べられない、貴重なびわ湖の幸をご堪能ください。 お品は、びわ湖の漁師さんから丁寧にご説明いただきます。
12:45～	アンケート記入
13:00 ～14:30	意見交換 持続可能な地域づくり事業に、みなさんのご意見をお聞かせください。 ここをもっと聞きたい！ これが美味しかった！ など、わいわいとお話したい と思います。
15:00	野洲駅 解散予定

行程の選定ポイント

- ・ 年代別による比較を行うため、両日とも同じ行程で実施した。
- ・ 行程については、現時点で提供しているメニューを基本として、改善点などを意見してもらったこととした。
- ・ 意見交換時の参考としてもらうため、メモシートへの記入を依頼した。

意見交換の進行

- ・ ワークショップ形式で、意見交換を実施。地域別にグループ分けを行った。
- ・ 「今回の提供メニューについて、魅力だと感じたこと」「同年代の友人・知人に勧めるなら、どこを改善すべきか」の2点について、グループで意見を出し合った後、発表（共有化）を行った。

5. 実施結果（提供メニュー概要とモニター意見）

モニターから出た意見を提供メニューごとに以下にまとめた。詳細は、別添資料参照。

5-1. 家棟川エコ遊覧

【概要】

- ・ 家棟川河口部から、手漕ぎ舟による上流へ約 1.5km の遊覧
- ・ 地元の船頭による自然や歴史、伝統文化などの語りに耳を傾ける。
- ・ 普段は見ることのできない、水面からのヨシや柳、水鳥、風景をゆったりと楽しむ。

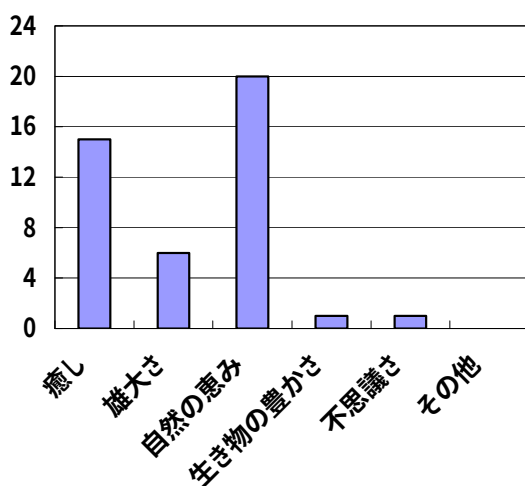


【モニター意見】

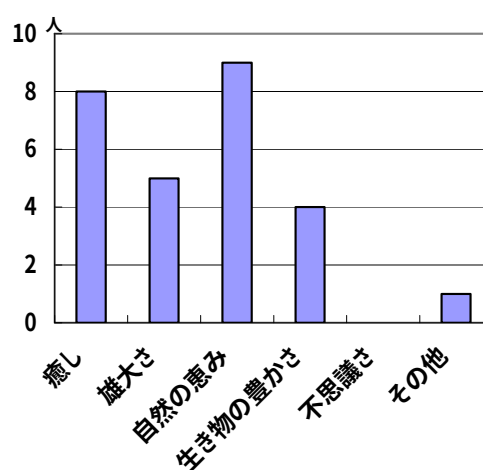
① 期待する点

本事業における地域資源の柱のひとつである「びわ湖・河川」に対し、モニターが持つ印象をアンケートで調査したところ以下のとおりであった。

（50～60 代モニター）



（30 代モニター）



（考察）

- ◆ 年代による大きな違いは見られず、「自然の恵み」「癒し」を期待しているモニターが大半を占めた。
- ◆ このことから、船頭の語りにおいて「自然の恵み」（＝自然環境）は、外せないポイントであると言える。
- ◆ また次点に「雄大さ」が挙げられており、改善点でも挙げられた「びわ湖クルージング」への期待が高いことが窺える。

② 感動した点

「感動した、良かった」と評価された点について、主な意見を以下に挙げる。

（自然、生態系）

- ・ 鳥が緩やかに飛んでいた。珍しい鳥が飛んでいた。鳥がかわいい。(30代)
- ・ 川岸のヨシやマコモなど草景色に癒された。(30代)
- ・ 街の中で生活しているので、自然に触れてよかった。(50-60代)

（景色、五感）

- ・ 静か、水の音（ポチャポチャ）や鳥の声がよく聞こえる。(30代)
- ・ 四季の風を船上で感じた。(50-60代)
- ・ 手を伸ばせば水に触れられる。(30代)
- ・ 手漕ぎの揺れが心地よい。(30代)
- ・ 一緒に乗る人との距離が近くでよい。(30代)

（癒し、時間）

- ・ 手漕ぎ舟でゼいたくな時間の使い方ができた。(50-60代)
- ・ タイムスリップした感じ。時間がゆったり感じられた。(30代)

（船頭、語り）

- ・ 気さくで、あったか味を感じる。(30代)
- ・ びわ湖を守りたい熱い想いが伝わった。(30代)
- ・ 観光船の船頭さんと違ったから、言葉に真実味を感じられた。(50-60代)
- ・ 子どもに聞かせたい話がいっぱい。(50-60代)

（考察）

- ◆ 感動した点についても、年代による大きな違いは見られなかった。
- ◆ 期待する点で挙げられた「自然の恵み」のほか、目・耳・肌で感じる体験も「癒しの時間」に繋がっていることが分かる。
- ◆ これは「非日常感」という観光におけるセールスポイントのひとつであると言える。
- ◆ 船頭の語りでは、環境問題や生きものなど「新たな気づき」を得られたという意見があったほか、こちら側が伝えたい想いに関して、共感してもらえたもの考える。

③ 不満な点、改善して欲しい点

「不満」「改善して欲しい」とモニターが感じた点について、主なものは以下のとおり。

（おもてなし）

- ・ 乗り場に看板を（50-60代）
- ・ もう少し風情のある舟を（50-60代）
- ・ 足元が寒い。クッションや座布団、ひざ掛けを（共通）
- ・ 舟をもう少し美しく。ゴザに虫がいた。クモの巣が張っていた。（50-60代）
- ・ （寒い季節は）ホットコーヒーなど温かい飲み物サービス（30代）

（屋形舟）

- ・ （1艘貸しきりではなく）1～2名から参加できる仕組みを（共通）
- ・ （ブーツなので）靴を脱ぐのが面倒（共通）
- ・ （足が悪いので）椅子式を希望する。（50-60代）

（船頭、語り）

- ・ 写真やパネルを使って説明を（ビワマス、ほか）（30代）
- ・ 舟先に乗ったので、船頭さんの話はほとんど聞こえませんでした。（50-60代）
- ・ 今どこにいるのか分かる地図が必要（30代）
- ・ 舟での説明ポイントを決めておく。野鳥の話も欲しい。（50-60代）
- ・ びわ湖の情報を早いタイミングで知らせて欲しい。（30代）
- ・ 華やかさが無い。船頭が唄を歌い、笛を吹くなど。（50-60代）

（全体、コース）

- ・ エコを強調しすぎ（共通）
- ・ 駅からの送迎バスを（50-60代）
- ・ 乗り降りの場所が違うほうがよい。（30代）
- ・ 京阪神からだとな近いと、宿泊コースは考えられない。（30代）
- ・ あの景色（黄砂で風景が見れず、ヨシが枯れていた）と環境の話にお金を払うとなると…？（30代）

（考察）

- ◆ 「おもてなし」や「気配り」といった内容の意見が多く見られた。特に、装飾や防寒対策は、女性ならではの視点であると言えるだろう。
- ◆ 語り（説明）では、固有名詞（魚や植物の名前、地名）を出されても、県外の人には分からないので、地図や写真を希望されていた。
- ◆ また漕ぎながらの語り（説明）は風情がある一方、前のほうにいる人には聞こえづらかった様子である。
- ◆ 「エコ」に関しては、職場でCSR等により取り組んでおり、観光に来てまで聞きたくない、という意見が見られたほか、説明を聞くまでは何がエコなのか分からない、という意見もあった。

④ 具体的な改善提案

同年代の友人・知人に対し、このツアーを勧めるなら、どこを改善すべきか。グループワークでまとまった具体的な意見は以下のとおり。

(名称)

- ・ エコ遊覧→手漕ぎ舟 「漁師と手漕ぎ舟体験をしよう」(30代)
- ・ 「びわ湖の漁師のイチオシ！」(30代)

(チラシ、広報)

- ・ チラシの「エコ」は抜いた方が良い。(50-60代)
- ・ チラシの弁当写真はダメ。漁師の写真を(30代)
- ・ ホームページを立ち上げる(50-60代)

(メニュー)

- ・ 手漕ぎ体験はあったほうが良い。(30代)
- ・ 川からびわ湖クルージングへ出られないか。(共通)
- ・ 観光の地を増やす。他の観光スポットも見学する。(50-60代)
- ・ 農業体験(芋ほりや大豆の収穫など軽いもの)、農家の話も(共通)
- ・ びわ湖の料理体験、漁業体験(30代)
- ・ 野洲出身の西川貴教(=滋賀県観光大使)のファンクラブと連携したイベントをすれば(30代)
- ・ イケメンの観光ガイドや学生の船頭を募集したら(30代)
- ・ 婚活イベントとタイアップしてみても(30代)

(考察)

- ◆ 名称について、不満にもあったように「エコ」を前面に出さない方がよいという意見が、年代に関わらず見られた。
- ◆ 法的制限等もあるが、びわ湖の雄大さを感じられるクルージングの提案も共通して見られた。
- ◆ 舟だけでなく、その他の体験や観光スポットとの連携が多く提案された。これは「さらに人を呼び込むためには、他との連携プランが必要」とモニターが判断していると考えられる。

5-2. 漁師の湖魚料理

【概要】

- ・ びわ湖で獲れたビワマスやアユなどを使った伝統料理
- ・ 漁師からの説明（ガイド）つき
- ・ 「おしながき」を3種用意して意見を聞いた。（A3ヨシ紙、A4、A4半分）



湖魚料理（当日メニュー）



おしながき（3種）

湖魚料理メニュー

・ アユの田舎煮き
・ エビ豆
・ たてぼし豆
・ ビワマスの煮付け
・ ビワマスのおつくり
・ ワカサギのてんぷら
・ 冬瓜のそぼろあんかけ
・ シジミの味噌汁
・ ふなずし
・ アメノイラごはん
・ 香の物／果物

【モニター意見】

① 美味しかった料理

	50-60 代	30 代
・アユの田舎煮き	6 位	7 位
・エビ豆	7 位	8 位
・たてぼし豆	5 位	6 位
・ビワマスの煮付け	<u>1 位</u>	<u>2 位</u>
・ビワマスのおつくり	<u>2 位</u>	<u>1 位</u>
・ワカサギのてんぷら	<u>3 位</u>	4 位
・シジミの味噌汁	4 位	9 位
・ふなずし	8 位	5 位
・アメノイヲごはん	9 位	<u>3 位</u>

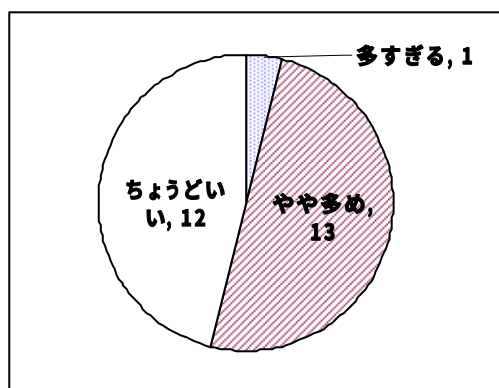
- ・ ビワマスはとてもおいしく、特徴的であったと思う。(30 代)
- ・ しじみは高級なイメージがあるので、もっと売り出してもいいと思う。(30 代)
- ・ 初めて食べたアメノイヲご飯、たてぼし豆はおいしかった。(30 代)
- ・ アメノイヲご飯はおいしくない。(50-60 代)

(考察)

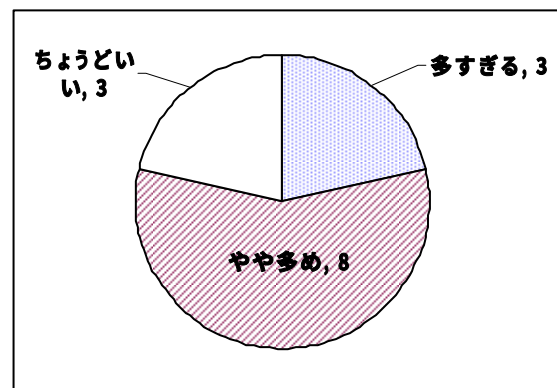
- ◆ とともにビワマス（刺身、煮付け）が上位を占めたことから、漁の時期にもよるが、ビワマスを前面に押し出すべきと考えられる。
- ◆ 特徴的なのは、アメノイヲご飯であり、50～60 代の 9 位に対し、30 代は 3 位であった。逆にシジミの味噌汁は、50-60 代が上位となった。年代別に好まれる味付けや量の傾向が出たもの考えられる。

② 料理の量、味

料理の量（50-60 代）



(30 代)



(料理の量)

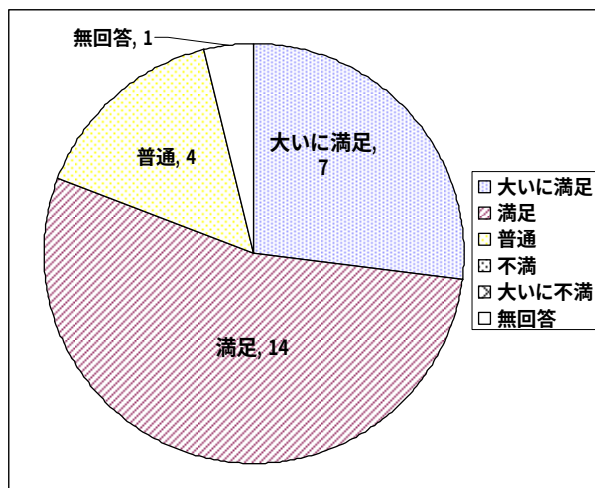
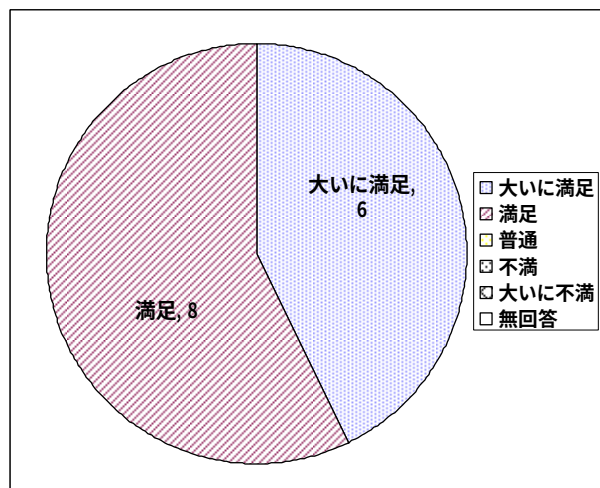
- ・ 豆2種類、アユは、量をもう少し減らしてもいいと思う。(共通)
- ・ もう少し少なくていいので、いろいろなお料理をちょこちょこ食べたい。(30代)

(追加希望)

- ・ 量的にはいいが、お酒がなければ料理に申し訳ない。(50-60代)
- ・ 全体的に味が濃いので、ご飯は白ご飯でよかった。(共通)
- ・ 味が濃いので、もう少しさっぱりしたもの（サラダなど）が欲しい。(共通)

(考察)

- ◆ 量については、アンケートでは「やや多め」が過半数を占めた。少ない等の意見は見られなかった。
- ◆ 一方で、モニター意見を見ると、味が濃いために多く感じた部分もあるのではないかと考えられる。(事実、食べ残しはあまり見られなかった。)
- ◆ 味に関しては、おいしいのだが、全て似た味付けで濃いために、野菜や白米などあっさりしたものを希望する意見が多かった。

③ 満足度**(50-60代)****(30代)**

- ・ アメノイヲご飯を初めて食べたがおいしかった。家でも作ってみたい。(30代)
- ・ (ふなずしは) くさいと思っていたが気にならなかった。(30代)
- ・ ビワマスに感激!! ふなずし最高!! すばらしい。しかもびわ湖の空気の中でいただけたこと、作り手の顔や考えも聞けてよかった。(50-60代)
- ・ ふなずしは思っているほどではなかった。食べられた。(50-60代)
- ・ もう少し薄味だとよい。(50-60代)

(考察)

- ◆ 50-60代で81%、30代は100%という、全体的に満足したという回答を得られた。
- ◆ 味の好みなど、個人によって違いはあるものの、年代に関係なく概ね好意的に受け止められることが分かった。

④ 改善意見

既出ではあるが、改善提案について、具体的であった意見を以下に挙げる。

(料理の量、品)

- ・ 「たてぼし豆・海老豆・鮎の田舎煮き」は3点セット一皿盛りで、つきだしの扱いで十分だと思う。(美味しいが量は少ない。)(30代)
- ・ 地元の野菜、米を打ち出した料理も追加する。(30代)

(料理の説明、資料)

- ・ お品書きが始めに机に置いてあると良かった。(30代)
- ・ 健康ブームもあるので、ふなずし(湖魚食)の効用などを簡単にまとめた資料があるといいかも。(30代)
- ・ ビワマスやフナがピンと来なかった。ふなずしの作り方を写真つきで見せてもらえると、もっと興味が湧くかも。(30代)

⑤ ネーミング

「湖魚料理（湖魚食）」という名称に関して、意見を聞いた。

(イメージ)

- ・ おいしくなさそう。(30代)
- ・ 泥臭いイメージがある。(30代)
- ・ 湖魚食だと、ブラックバスを思い浮かべます。(50-60代)
- ・ 「ギョ」の音が少し硬く感じられる。(50-60代)
- ・ 語呂が悪い。(50-60代)

(分かりにくい)

- ・ 聞きなれないので、ピンと来ない。(30代)
- ・ わかりづらいので、声に出して発音しやすく、リズムのあるネーミングを考えた方がよいと思う。(50-60代)

(名称提案)

50-60 代	30 代
・「湖食」	・「びわ湖郷土料理」
・「湖国食」	・「湖畔料理」
・「びわこの魚のとれたて料理」	・「Mother Lake Fish Food」
・「びわこ料理」	・「びわ湖魚食」
・「野洲漁師料理」	・「琵琶湖の伝統料理」
・「琵琶湖の川魚料理」	・「びわ湖のめぐみ」
・「近江食」「淡海食」	・「琵琶湖の食材を使用した料理」
	・「びわ湖のお魚」
	・「琵琶湖の魚料理」
	・「びわ湖の漁師料理」

(考察)

- ◆ 名称に関しては、「イメージが悪い」「分かりにくい」の2点に集約された。
- ◆ しかしながら、代案となるとモニターも悩んだようで、アンケートに「？」が多く見られた。
- ◆ 出された提案に共通する部分として、「びわ湖」が多く目立つ。これは、分かりやすさを求めた結果であると考えられる。

5-3. 提供メニュー設定

【概要】

- ・ 通常価格は伏せた上で、「この提供メニューに対して、いくらならお金を支払えるか？」を聞き取りした。
- ・ 湖魚料理については、当日の料理のほか、追加見本として2コースを設定

(通常価格：実費)

	ひとり当たり 価格（実費）	備 考
エコ遊覧	@1,300 円	1 艘（8 人乗り）貸切 10,000 円
湖魚料理	@3,000 円	
交通費	@500 円	タクシー（野洲駅～家棟川河口）通常 約 2,600 円
（お土産）	（@2,000 円）	モニター謝礼として
合計	@4,800 円	お土産を除く

※帰りの野洲駅までの交通費については、民宿（あやめ荘）の送迎があるため除外

湖魚料理 追加メニュー



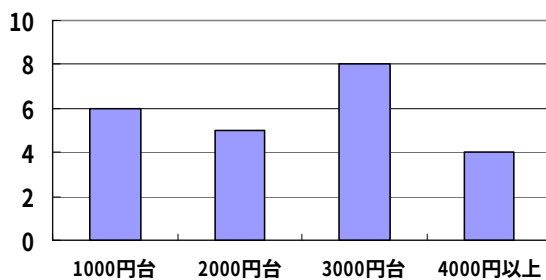
見本コース①（追加）	見本コース②（除外）
・ ウナギの小鍋	× 冬瓜そぼろあんかけ
・ 茶碗蒸し	× ふなずし
・ 焼きモロコ	

【モニター意見】

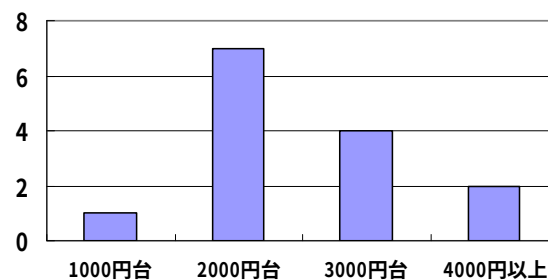
① 価格設定

当日の料理（通常 3,000 円）

（50-60 代）平均：2,900 円



（30 代）平均：2,900 円



地域別（平均）

京都 3,300 円（1,300～8,000）

名古屋 1,900 円（1,200～2,000）

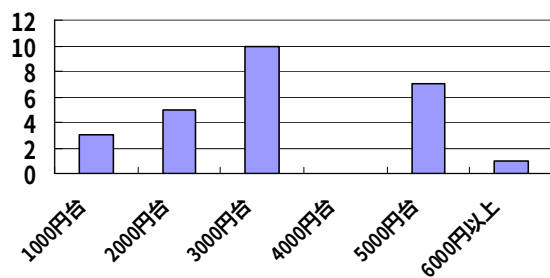
京都・大阪 2,600 円（1,800～4,000）

名古屋 4,000 円（3,500～5,000）

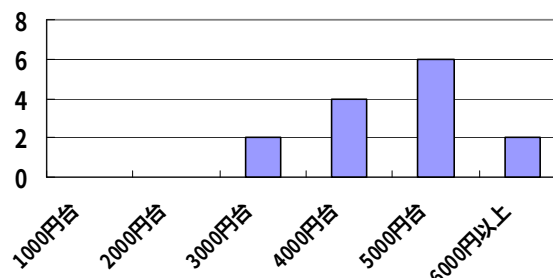
滋賀県内 2,300 円（2,000～2,500）

宴会料理（通常 4,200 円）

（50-60 代）平均 3,700 円



（30 代）平均 4,700 円



地域別（平均）

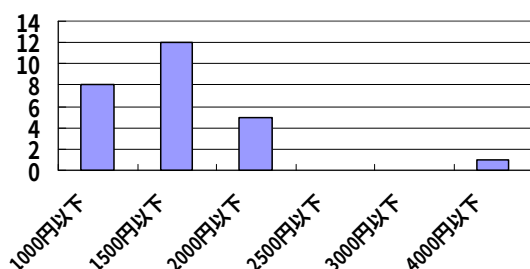
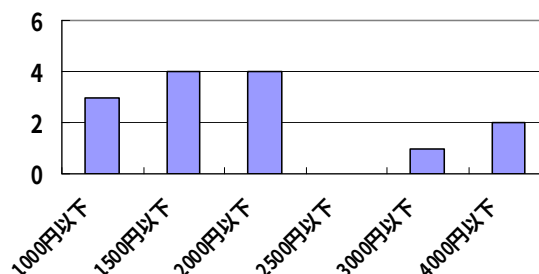
京都 4,300 円（1,600～7,000）

名古屋 2,200 円（2,200～3,000）

京都・大阪 4,300 円（3,500～5,000）

名古屋 5,600 円（5,000～6,500）

滋賀県内 4,300 円（3,500～5,000）

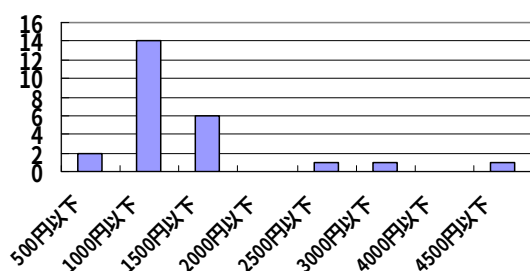
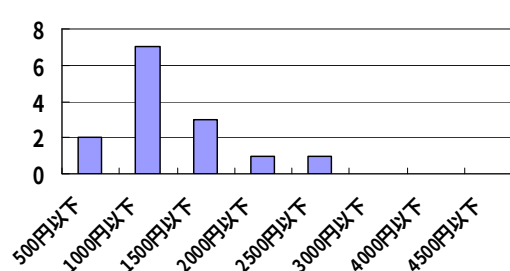
お手軽料理（通常 2,000 円）**（50-60 代）平均 1,400 円****（30 代）平均 1,900 円****地域別（平均）**

京都 1,500 円 (500~3,500)
 名古屋 1,100 円 (500~1,500)

京都・大阪 1,800 円 (900~3,500)
 名古屋 2,500 円 (1,500~4,000)
 滋賀県内 1,200 円 (1,000~1,800)

（料理価格の考察）

- ◆ 比較的 50-60 代の方がばらつきが見られる。
- ◆ 地域別では、50~60 代では京都のほうが高額を付けている人が多い。
- ◆ 逆に 30 代では、名古屋が全体的に高額であった。

手漕ぎ舟（通常 1,300 円）**（50-60 代）平均 1,500 円****（30 代）平均 1,100 円****地域別（平均）**

京都 1,300 円 (500~3,000)
 名古屋 2,000 円 (600~4,500)

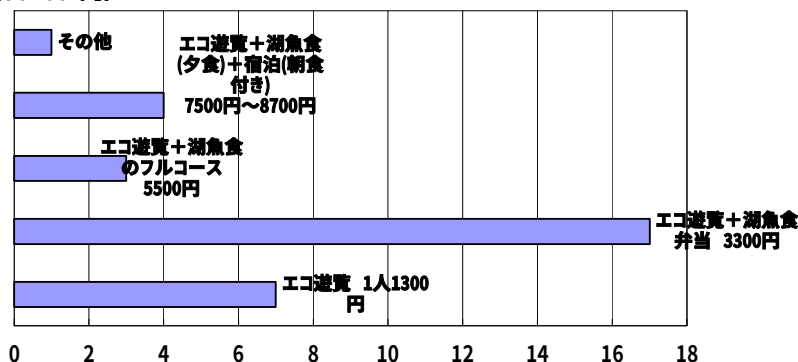
京都・大阪 1,500 円 (1,000~2,500)
 名古屋 1,000 円 (700~1,500)
 滋賀県内 600 円 (300~1,300)

（手漕ぎ舟価格の考察）

- ◆ 舟と料理では、年代・地域ともに価格の逆転現象が起きた。
- ◆ このことから、比較的 30 代は料理に、50~60 代は舟に関心が高いと見ることができる。（アンケートの記述量でも、同様の傾向が見られる。）

② コース設定（料理、オプション）

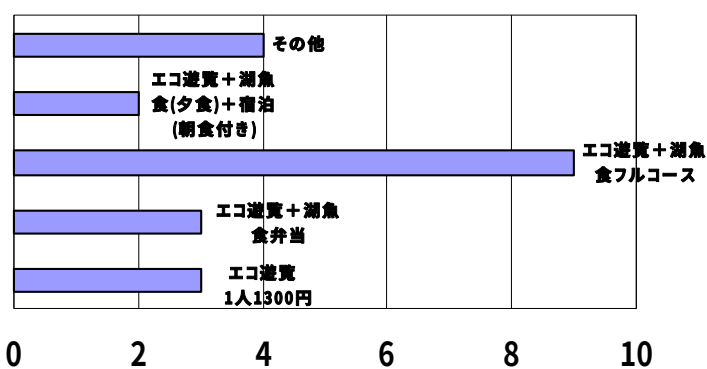
(50-60代)



地域別（エコ遊覧+湖魚食弁当）※3つまで回答可能

京都 10人（18人中） 名古屋 5人（8人中）

(30代)



地域別（エコ遊覧+湖魚食フルコース）※3つまで回答可能

京都・大阪 4人（6人中） 名古屋 2人（4人中） 滋賀県 3人（4人中）

(その他意見)

- ・ +婚活付き 8,000 円 (30代)
- ・ +生きものとふれあい体験付き 6,000 円 (30代)
- ・ +びわ湖博物館付き etc.5,000 円 (30代)
- ・ +温泉付き (30代)
- ・ エコ遊覧+湖魚食フルコース（5,500 円）は、もう少し安いほうが集客はあると思います。4,500~5,000 円 (30代)

(考察)

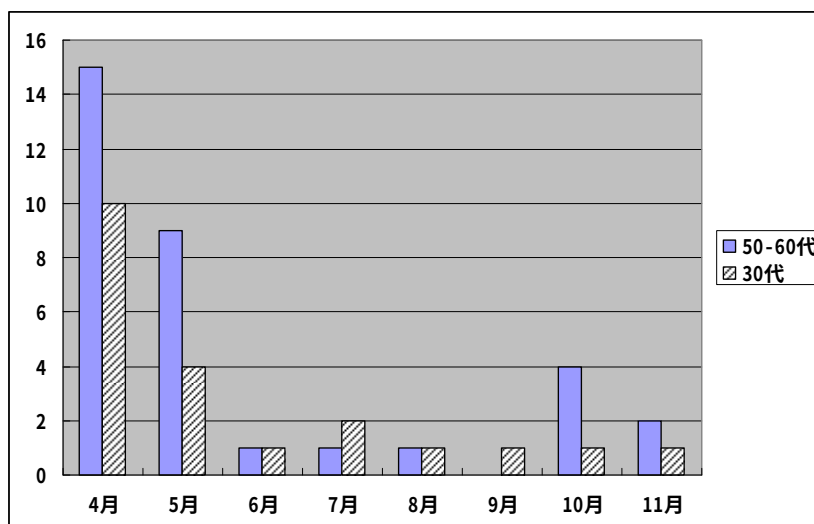
- ◆ 価格設定から見られたとおり、30代のほうが料理に関心が高く、フルコースを選択している。

③ コース設定（曜日、時期）

（曜日）

		50-60 代	30 代
日 帰 り	・ 平日	17 人	1 人
	・ 土曜	2 人	11 人
	・ 日曜	2 人	4 人
	・ 祝日	—	1 人
宿 泊	・ 平日	4 人	—
	・ 金～土	1 人	—
	・ 土～日	—	1 人
	・ 連休	—	—

（時期）



（考察）

- ◆ 曜日や時期については、非常に分かりやすい傾向が出た。
- ◆ 50～60 代については、テストマーケティングを平日（金曜）に実施したが、アンケートでも同様の回答が得られた。
- ◆ 平日に仕事をしている 30 代は、週末のうち土曜を多く選択している。これは、翌日の日曜はゆっくり休みたいという心理が働いている可能性あり。
- ◆ また近郊であるためか、宿泊はほぼ対象外となっている。
- ◆ 時期については、年齢に関係なく、4月の桜の時期が最多。50～60 代は、秋にも若干の回答が見られる。

5-4. 競合他事業との比較

【概要】

- ・ 県内の観光地、特に競合する「和船での遊覧」との差別化を図るため、モニターの意見を聞いた。

【モニター意見】

過去に行ったことのある川下りとの比較

（五感、体験、癒し）

- ・ 自然（川）に触れる目的では初めてなので、非日常感がよかったです。（共通）
- ・ 水面が近くに感じられて良い。静かでゆったりできる。（30代）
- ・ 行きの手漕ぎ、櫓漕ぎ体験が最も良かった。（30代）
- ・ 静けさと癒しとゆったりテンポで大満足（50-60代）

（食文化、船頭の想い）

- ・ びわ湖を囲む地域の食文化に興味あり。（50-60代）
- ・ 全く違った景色、食事、貴重なお話が聞けた。（30代）
- ・ 近江八幡の川下りは、ヨシが大変多くてよかった。（50-60代）

行ってみたい県内観光地（※1つだけ回答）

	50-60代	30代
漁師が案内する家棟川エコ遊覧と湖魚食	6人	5人
近江八幡の水郷地帯と八幡堀、和船	5人	3人
安土城と遺跡	1人	—
彦根城と屋形船	7人	4人
長浜城と温泉、黒壁街	4人	2人
無回答	3人	—

県内観光地との差別化

- ・ 湖魚食の大自然のおいしさをもっと県外へアピールする。（50-60代）
- ・ びわ湖にも触れられるように。（50-60代）
- ・ 漁師の話を出して、びわ湖に興味を持ってもらう必要がある。（30代）
- ・ 今日体験して良さを理解したが、体験していなければ選択しづらいかも…。（30代）
- ・ 「50年前に思いを馳せて…漁師の案内するびわ湖水源をたどる旅」など、ネーミングを工夫する。（30代）

（考察）

- ◆ モニターが感じる近郊観光地との違いは、「ゆったり、癒し」「自然に触れられる」「びわ湖」「地域の食文化」「体験」がキーワードとして挙げられる。

6. 今後の事業展開（マーケティング分析）

前項までの調査結果を元に、市場分析を行った。

6-1. 対象顧客の明確化

今回のテストマーケティングでは、過去に受入れ実績の少ない県外観光客のニーズ（需要）を確認するねらいがあった。今回のモニターから得た情報、意見をもとに、今後対象とする顧客層を明確化する。

(50-60代)

新市場・新メニュー	顧客像	区分軸	内 容
	誰が	地域	近郊都市（京都、大阪、名古屋）
		性別	女性
		年代	50～60代
		家族構成	夫婦二人暮らし（子どもは独立）
		職業	定年退職
		趣味	旅行
		性格	行動的、社交的
	商品・サービスの魅力	独自性	「地元限定」に惹かれる
		社会性	ボランティアなど社会貢献に関心が高い。
	来訪シーン	頻度	野洲は初めて（滋賀県には何度か来訪）
		同行者	夫婦、または友人グループ（3人程度）
		行程	平日（日帰り）

(30代)

新市場・新メニュー	顧客像	区分軸	内 容
	誰が	地域	近郊都市（京都、大阪、名古屋）
		性別	女性
		年代	30代
		家族構成	独身
		職業	会社員（週休2日制）
		趣味	旅行、インターネット、食べ歩き
		性格	行動的、社交的
	商品・サービスの魅力	独自性	「地元限定」に惹かれる
		社会性	自身が納得できる社会貢献には参加する。
	来訪シーン	頻度	野洲は初めて（滋賀県には何度か来訪）
		同行者	友人グループ（3～4人程度）
		行程	土曜（日帰り）

（考察）

市場の設定		市場設定が適切である理由
・地域	近郊都市	自然と触れ合う機会の少ない都市部 県外からの来訪者数は増加傾向にある。
・年代	中高年/30代	比較的、時間に余裕のある年齢層 中高年齢層の来訪が増加傾向にある。
・職業	退職/会社員	金銭的余裕のある年齢層（職業）

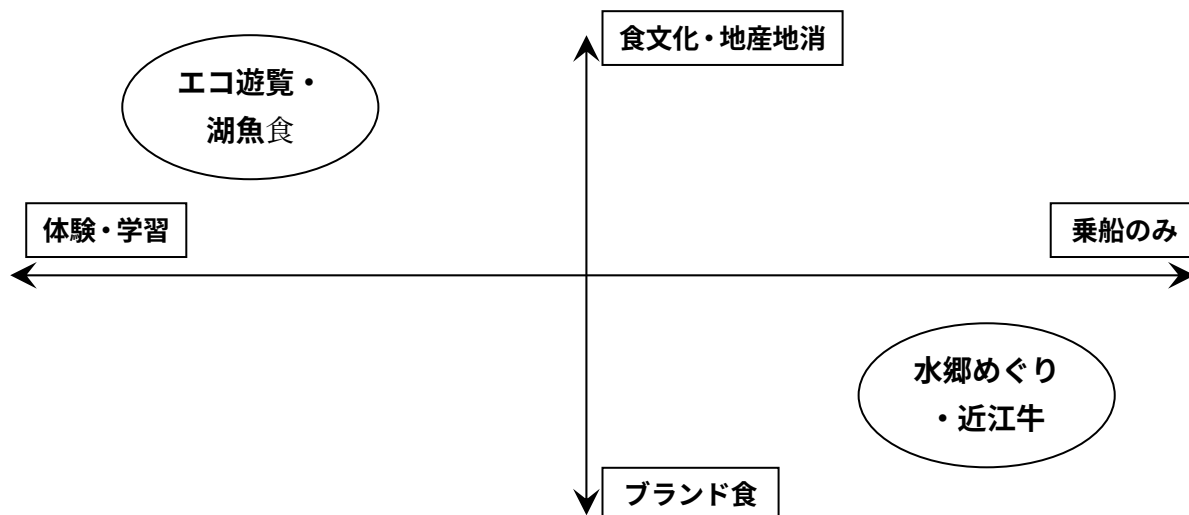
（統計データ）

滋賀県観光動態調査（H17）より

- ・ 中高年層の比率が高まり、他府県からの流入—大阪府・兵庫県・愛知県—が増加。
- ・ 自家用車を利用した、家族での日帰り観光が主流。情報源はガイドブック、インターネット、口コミと多様に活用。宿泊する観光客は22%で概ね1泊。
- ・ 四季を通じて、自然の風景を見ることが好まれる。地域別では湖北、大津・志賀が人気を集める。隣り合う地域間では、観光客の流動がみられる。
- ・ 観光目的の「歴史文化」が減少し、「その他」が増加。観光地への期待の細分化、家族・友人と休日を過ごすこと自体の目的化が進行中か。
- ・ 35%が6回以上訪問のリピーター。再来訪の頻度は「必ず」「たいてい」行くが減り、「たまに」行くが増加。
- ・ 前後泊の場所は、京都府がトップだが大きく減少。福井県など県以北、岐阜県、三重県が増加。
- ・ 県内での宿泊費は1万円前後、飲食・交通・みやげ品購入費は5千円以内。みやげ品購入の意欲は高まっている。

6-2. 競合との差別化

モニターのニーズ（需要）における、県内観光地、とりわけ同種の川下り事業との違いを以下に図式化する。



6-3. 集客見込み、価格決定

過去の実績及びテストマーケティングの結果をもとに、今後の見込みを試算した。

集客見込み（需要予測）

提供メニュー	対象者	年間集客見込み（試算）
①舟遊覧 ＋アメノイヲ弁当	市内自治会、老人会	100 人 過去の実績から算出 H21：80 人 H22：104 人
②舟遊覧	市内子ども会、小学生	400 人 過去の実績から算出 H21:156 人 H22：132 人
③舟遊覧 ＋湖魚料理	県外 50～60 代	1,000 人
④舟遊覧 ＋湖魚フルコース	県外 30 代独身女性	640 人

集客目標に関しては、別途実施メニューの受入れ体制などを考慮し、作成するものとする。

価格決定

提供メニュー	対象者	単価設定
①舟遊覧 ＋アメノイヲ弁当	市内自治会、老人会	@1,500 円 舟遊覧@1,300＋弁当@200
②舟遊覧	市内子ども会、小学生	@650 円 舟遊覧@1,300×1/2 大人 1 人＝子ども 2 人換算
③舟遊覧 ＋湖魚料理	県外 50～60 代	@4,800 円 舟遊覧@1,000＋料理@3,800（※）
④舟遊覧 ＋湖魚フルコース	県外 30 代独身女性	@6,000 円 舟遊覧@1,000＋料理@5,000（※）

（※）メニュー③④の料理の価格設定は、モニターアンケートで最も回答の多かったものを採用

競合との単価比較（舟遊覧）

- ・ 近江八幡水郷めぐり…2,100 円/人、貸切 8,000 円（6 人乗り、60 分）
- ・ 彦根城お堀めぐり …1,200 円/人（50 分）

6-4. 提供メニューの改善方針

【エコ遊覧】

（おもてなし）

- ・ 今回も当日清掃は行ったが、舟の清掃を出発前に行うこととする。
- ・ 座布団を準備する。
- ・ 乗り場へ看板を設置した。

（屋形舟）

- ・ 土足・椅子式については、安全面から対応しない。
- ・ 将来的に1艘貸切りでなく、1～2名でも乗船できるよう体制を整えていく。

（船頭の語り、説明）

- ・ 船頭講習を通じて、説明の内容、場所を決めていく。
- ・ イメージがしやすいよう写真（パネル）や地図の利用を検討する。

【湖魚料理】

（料理の量・味）

- ・ 量が多いという意見があったが、50～60代、30代ともに完食されており、お代わりされていたモニターもいたため、味付けが濃いせいで、多いと感じたのではないかと思われる。
- ・ 味が濃いという意見に対し、味付けは変えないが、酢の物など野菜類を追加することで対応する。

（ネーミング）

- ・ 「びわ湖の漁師料理」で売り出していく。

【全体・コース】

（広報）

- ・ インターネットHP、ブログ等を検討
- ・ エコを強調しすぎ、との意見があったが、活動趣旨は環境保全であるため、名称は「エコ遊覧」から変更しない。

（交通手段）

- ・ 当日の人数が多ければ、近江鉄道バスと提携し、臨時バスを出すことも可能だが、今後の課題である。

（オプションプラン）

- ・ 農業体験（芋掘り体験など）を検討する。
- ・ 伝統料理教室（体験）や漁業体験は、場所や天候のリスクなどが整わない。
- ・ ただし川で魚を捕まえる仕掛けを見てもらうことは可能（免許必要）
- ・ 観光物産協会を通じて、市内の観光スポットを紹介する。

6-5. 広報手段

↑ コスト ↓	低	駅前キャンペーン、協力機関との連携	営利は不可、観光情報の提供ならOK
		ツアー会社との連携	費用は0円 ただしツアー会社の都合に合わせる必要あり。
		駅中キャンペーン	費用：30万円/日
		新聞折込み、雑誌掲載	費用：50万円/件～
高		TV、ラジオ、車内ポスター（中吊り）	費用：200万円/件～

※ 新聞折込みやTVなど、マスメディアは効果が期待できるが、その反面、来客数に対応できずに苦情（クレーム）が来る可能性もある。

プロモーションについては、専門家を講師に招いた研修を実施する。

⇒第2章 提供メニュー詳細 参照

7. 実施状況（写真）



（遊覧の様子）



（船の中から）



（櫓漕ぎ体験）



（活動の説明）



（料理の説明）



（地域の方と歓談しながらの食事）



（意見交換）



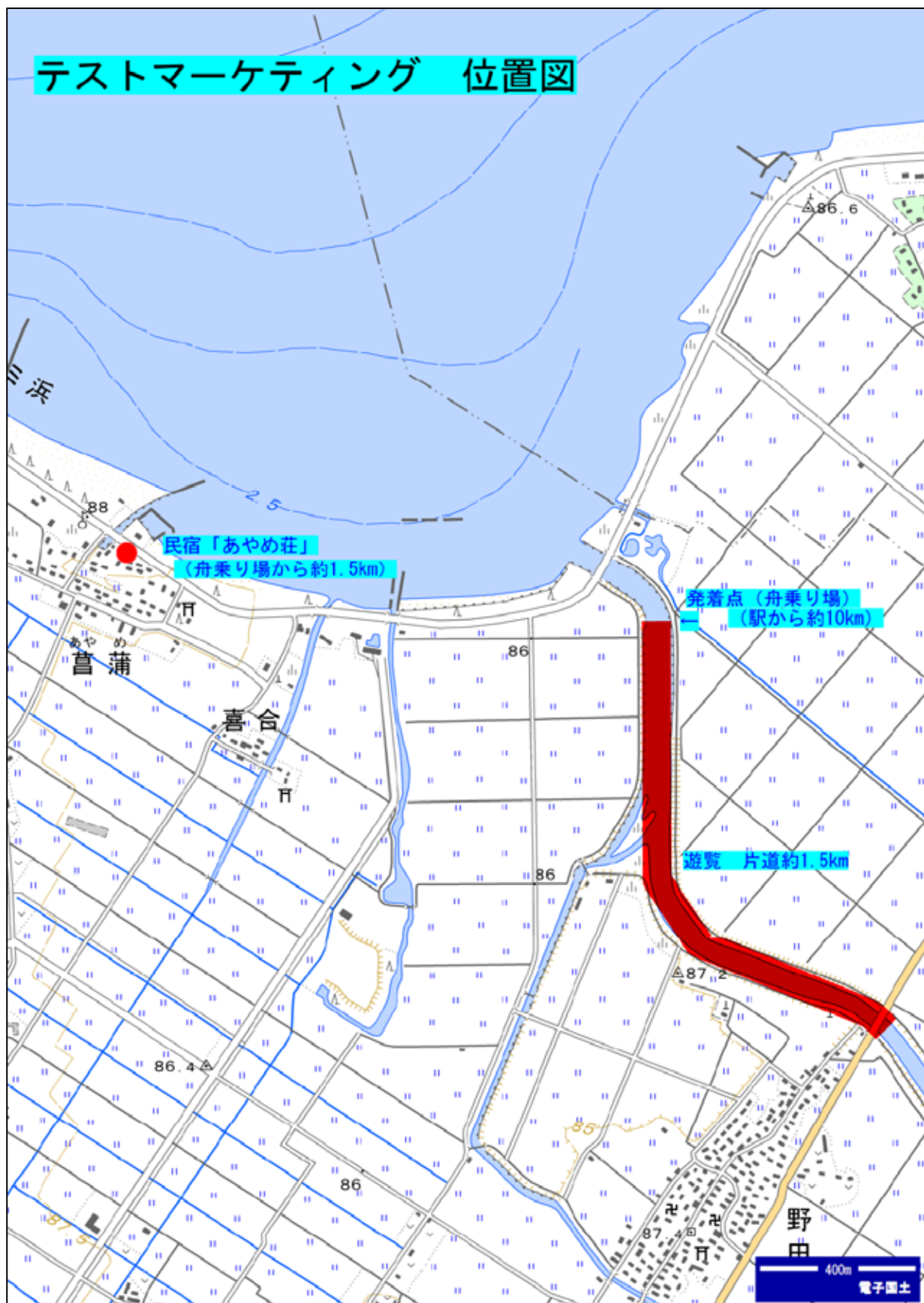
（意見交換）



（意見発表）

8. 添付資料

- ・ 位置図
- ・ モニターアンケート様式、結果
- ・ 当日行程表
- ・ モニター募集チラシ
- ・ モニター募集記事（リビング新聞）
- ・ 準備スケジュール



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

■モニターアンケート様式

2019年11月13日 NPO法人宮津川流域観光船
モニターに参加して頂き、有難うございます。皆さんにお尋ねします。

住所(市町村)： 氏名：

Ⅰ-1. 今回の参加理由の決め手となった上位3つに順位をつけてください
☐ 1. モニターとして企画に意見を言ってみたかった
☐ 2. モニターだから安く参加できてお得だと思った
☐ 3. 船旅の案内にひかれた
☐ 4. 琵琶湖に行きたかった
☐ 5. 湖魚食を食べたかった
☐ 6. ゆったり川遊覧をしたかった
☐ 7. 野洲市の自然環境に興味を持った
☐ 8. NPO法人宮津川流域観光船のエコ活動に関心があった
☐ 9. どこでもいいから日帰りやゆったりしたかった
☐ 10. 友人・知人の付き合いで参加した
☐ 11. その他

Ⅰ-2. びわ湖や川に何を期待していますか 市上位3つまで
 1. 遊し 2. 観光さ 3. 自然の恵み 4. 生き物の豊かさ 5. 不思議さ
 6. その他

Ⅰ-3. 今回の船と食事の体験メニュー(意見交換会を除く)で、モニターでない通常募集の場合、いくらまでなら参加したと思いますか ※1つ□、交通費を除く
 1. 3,000円以下 2. 4,000円以下 3. 5,000円以下 4. 6,000円以下
 5. 7,000円以下 6. 8,000円以下 7. 10,000円以下 8. 12,000円以下

Ⅰ-4. 今回の参加理由ですか？甲斐の場所も書いて記入
 ●当企画への参加 【初めて・ 回目(以前の参加内容等)】
 ⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

●他に野洲への訪問 【初めて・ 回目(以前の見学先等)】
 ⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

●他に滋賀県への訪問 【初めて・ 回目(以前の見学先等)】
 ⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

Ⅰ-6. 今日の湖魚食はいかがでしたか
 ●湖魚食の食事は初めてですか？
 【初めて・ 回目(以前の場所・内容等)】
 ●感想は
 【大いに満足・満足・普通・不満・大いに不満】
 ⇒今回は、(以前のものと比べて) どうでしたか？

●おいしかった料理の味は ※全部に順位を記入
☐ 1. あゆの御飯煮き ☐ 2. えび豆 ☐ 3. たでほし豆
☐ 4. ビワマスの煮つけ ☐ 5. ビワマスのおつくり ☐ 6. ふなずし
☐ 7. わかさぎの天ぷら ☐ 8. しじみのお味噌汁 ☐ 9. アメノイサご飯
 ●料理の量はいかがでしたか ※1つ□
☐ 1. 多すぎる 2. やや多め 3. ちょうどいい 4. やや少ない 5. 少なすぎる
 ⇒そのほか、食べてみたい料理やメニューや量の希望などがあればご記入ください

Ⅰ-7. エコ遊覧について
 ●川遊覧の体験は初めてですか？
 【初めて・ 回目(以前の観光先等)】
 ●感想は
 【大いに満足・満足・普通・不満・大いに不満】
 ⇒今回は、(以前のものと比べて) どうでしたか？

●びわ湖を守るために運行している、宮津川エコ遊覧についての意見を聞かせてください。
 ・景色、自然
 ・船舶での運行
 ・講師・船長の話
 ・良かったこと
 ・良かったこと、再度乗船するとしたら、希望することはありますか

Ⅱ-1. 今後について
 ●参加してみたいコースに○をつけてください(金額は例です) ※3つまで○可
 1. エコ遊覧 ひとり13000円(予約6人以上)
 2. エコ遊覧+湖魚食弁当 33000円
 3. エコ遊覧+湖魚食のフルコース 55000円
 4. エコ遊覧+湖魚食(夕食) 75000円(朝食つき) 75000円~87000円
 5. その他「こんなメニュー、料金、条件なら」というアイデアなどがあればお書きください。
 ⇒誰と一緒に何人で来たいですか
 ⇒また来られるとすれば、その年度・希望する曜日・時期・時間は？
 ●希望時期： 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月
 ※例：4月 花見舟、5月 湖魚食と砂浜学習、8月 シシつかみ・湖岸ウォーキング、子どもの環境学習、湖魚体験
 ●希望曜日：日曜日・平日・土曜・日曜・祝日/宿泊=平日・金土・土日・連休
 ●希望時間：1日目()時~()時、2日目()時~()時

Ⅱ-2. 周辺の観光も含めて、参加してみたいもの3つに○をつけてください
☐ 1. 漁師が案内する宮津川エコ遊覧と湖魚食(野洲)
☐ 2. 近江八幡の水郷地帯と八幡堀、和船
☐ 3. 安土城と遺跡
☐ 4. 彦根城と琵琶湖、城下町
☐ 5. 長浜城と温泉、栗原街
 ⇒「漁師が案内するエコ遊覧と湖魚食」に○をしてもうらにほどうしたらよいと思いますか

Ⅱ-3. 湖魚食というネーミングについてどう思われますか、どういうネーミングがよいですか。

Ⅱ-4. その他、この事業を発展させるために何が必要と思われますか
 ・追加してほしいサービス、改善してほしい点
 ・その他

●最後に、今後モニター募集や活動案内があれば、送付をご希望ですか？
☐ (希望しない・希望する⇒FAX) ☐ (Email)

ご協力 ありがとうございます。

＜NPO法人家棟川流域観光船モニターアンケート集計＞

【50～60代女性】 2010.11.12 実施

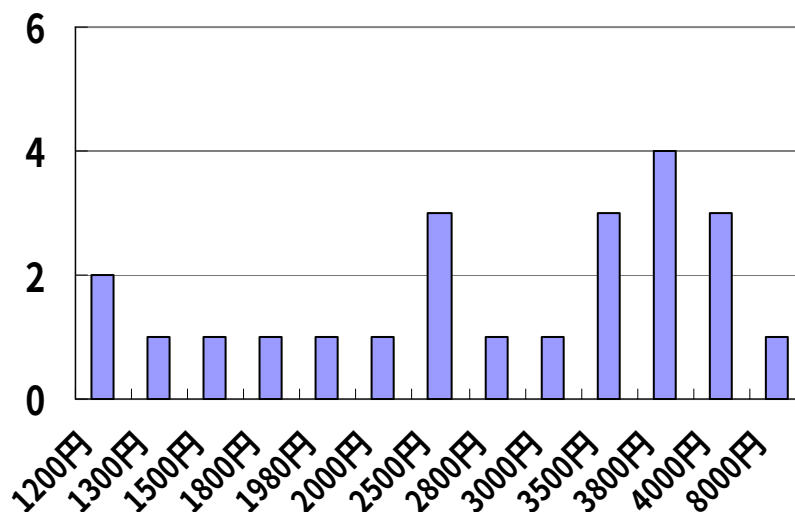
■参加者	京都府内	18人
	愛知県内	7
	?	1
		26人

■年齢層	40歳代	1
	50歳代	5
	60歳台	13
	70歳代	4
	?	3
		26人

■価格調査

①当日の料理

1200円	2人
1300	1
1500	1
1800	1
1980	1
2000	1
2500	3
2800	1
3000	1
3500	3
3800	4
4000	3
8000	1

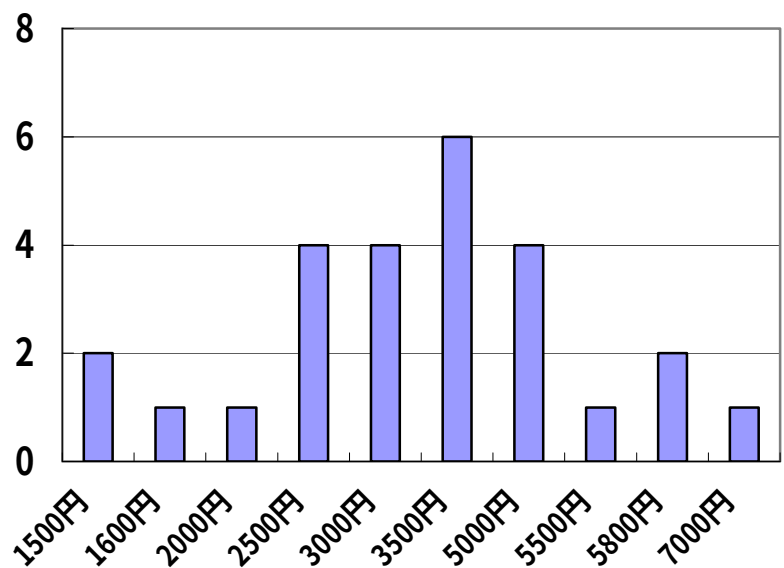


地域別（平均）

京都	3300円	(1,300～8,000)
名古屋	1900円	(1,200～2,000)

②宴会料理（見本1）

1 5 0 0 円	2 人
1 6 0 0	1
2 0 0 0	1
2 5 0 0	4
3 0 0 0	4
3 5 0 0	6
5 0 0 0	4
5 5 0 0	1
5 8 0 0	2
7 0 0 0	1

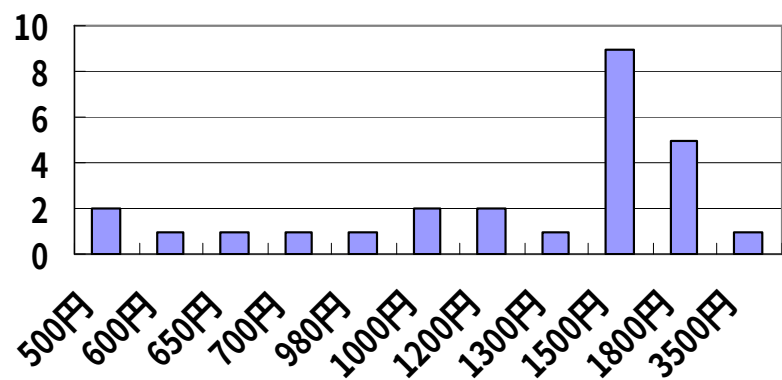


地域別（平均）

京都	4 3 0 0 円	(1,600～7,000)
名古屋	2 2 0 0 円	(1,500～3,000)

③お手軽料理（見本2）

5 0 0 円	2 人
6 0 0	1
6 5 0	1
7 0 0	1
9 8 0	1
1 0 0 0	2
1 2 0 0	2
1 3 0 0	1
1 5 0 0	9
1 8 0 0	5
3 5 0 0	1



地域別（平均）

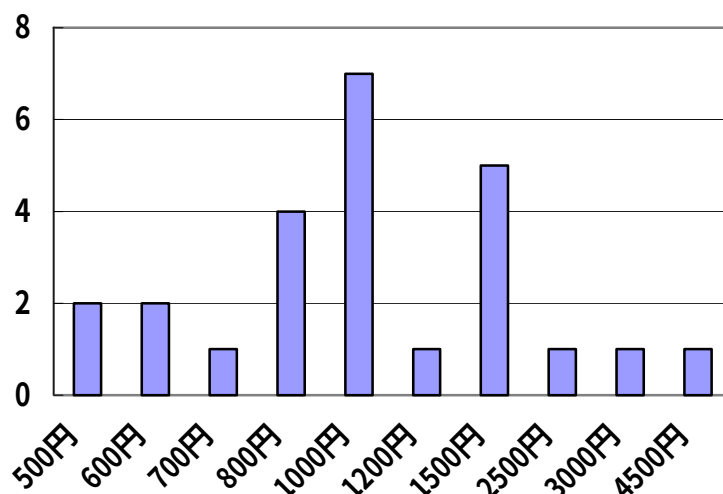
京都	1 5 0 0 円	(500～3,500)
名古屋	1 1 0 0 円	(500～1,500)

分析

1 5 0 0 円の内訳	京都 6 人、名古屋 3 人
1 8 0 0 円	京都 5 人

④手漕ぎ舟（1人あたり）

500円	2人
600	2
700	1
800	4
1000	7
1200	1
1500	5
2500	1
3000	1
4500	1



地域別（平均）

京都	1300円	（ 500～3,000）
名古屋	2000円	（ 600～4,500）

分析

1000円の内訳	京都6人、名古屋1人
1500円	京都4人、名古屋1人

■アンケート調査

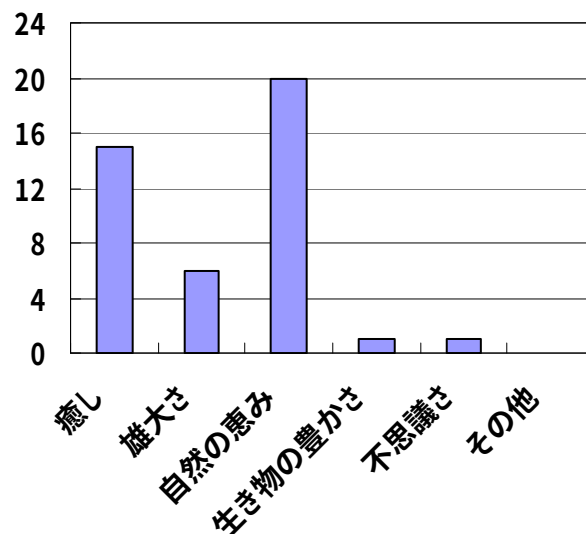
Ⅰ－１．今回の参加理由の決め手となった上位3つに順位をつけてください

１．モニターとして企画に意見を言ってみたかった	3
２．モニターだから安く参加できてお得だと思った	15
３．船頭の案内にひかれた	1
４．琵琶湖に行きたかった	5
５．湖魚食を食べたかった	14
６．ゆったり川遊覧をしたかった	14
７．野洲市の自然環境に興味を持った	3
８．NPO 法人家棟川流域観光船のエコ活動に関心があった	4
９．どこでもいいから日帰りですっきりしたかった	2
10．友人・知人の付き合いで参加した	11
11．その他	1
・友人の紹介	

1-2. びわ湖や川に何を期待していますか ※上位2つまで

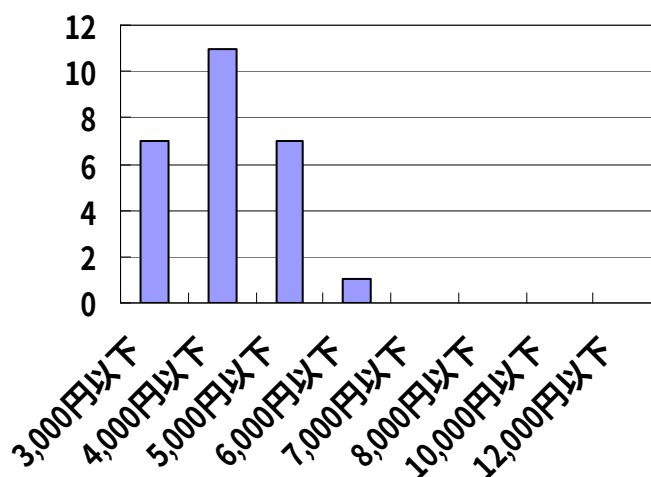
1、癒し	15
2、雄大	6
3、自然の恵み	20
4、生き物の豊かさ	7
5、不思議さ	1
6、その他	1
回答なし	3

⇒その他の内容
・きれいな水



1-3. 今回の船と食事の体験メニュー（意見交換会を除く）で、モニターでない通常募集の場合、いくらまでなら参加したと思いますか ※1つ0、交通費を除く

1、3,000 円以下	7 人
2、4,000 円以下	11
3、5,000 円以下	7
4、6,000 円以下	1
5、7,000 円以下	—
6、8,000 円以下	—
7、10,000 円以下	—
8、12,000 円以下	—



1-4. 今回が何回目ですか？※他の場所も含めて記入

●当企画への参加

初めて	25 人
何回目	2 回目 1 人
	多い 1 人

以前の参加内容等:野洲、銅たくの町歩き・

⇒今回は以前のものと比べてどうでしたか？

- ・ 船に乗せていただき、より琵琶湖を実感できた。

●他に野洲への訪問

初めて	2	1人
何回目	2回目	4人
	多い	1人

以前の見学先：らの店・仏壇の店・味噌作り体験

⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

- ・ 以前は滋賀県の農作物の豊かさを実感したことが印象に残った。
- ・ 今回は、びわ湖や川のほうに重点が置かれていてとても興味深かった。
- ・ 環境問題に真摯に向かい合っている方を見て感激しました。

●他に滋賀県への訪問

初めて	9人
何回目	2回目 5人
	3回目 2人
	4回目 1人
	6回目 1人
	多い 4人

以前の見学先等：八幡堀・海津大崎の桜・大津の日吉大社のもみじ・三井寺
守山の佐川美術館・近江八幡(ヴォーリズに関心があるので)
びわ湖遊覧・湖西へキャンプ・観光の途中に立ち寄り
水生植物園・海水浴・仕事で・観光・何度か通ったことはある
湖北ウォーキング・長浜・湖東三山
娘の下宿先が野路東だから・滋賀県出身

⇒今回は、(以前のものと比べて) どうでしたか？

- ・ 自然(川)に触れる目的では初めてなので、非日常感がよかったです。
- ・ 野洲は初めて、静かでいいところですね。
- ・ 琵琶湖を囲む地域の食文化に関心あり。
- ・ 直接こんなに自然に触れられるとは思いませんでした。
- ・ 近江八幡の川くだりは、ヨシが大変多くてよかった。

I-6. 今日の湖魚食はいかがでしたか

●湖魚食の食事は初めてですか？

初めて	22人
何回目	2回目 2人
	4回目 1人
	多い 1人

以前の場所・内容等：浜大津で湖国料理・大津市内エリア・志賀里エリア
石崎・堅田・海津大崎・高島町

●感想は

・大いに満足	7人
・満足	14
・普通	4
・不満	—
・大いに不満	—

回答なし 1

⇒今回は、（以前のものと比べて）どうでしたか？

（味について）

- ・ ふなずしは思っているほどではなかった、食べられた。
- ・ もう少し薄味だと良い。

（食文化、想い）

- ・ ビワマスに感激!! ふなずし最高!! すばらしい。しかもびわ湖の空気の中でいただけなこと、作り手の顔や考えも聞けてよかった。
- ・ 湖の恵みでこんなに多くのお料理ができて、いかに湖が大切か改めて考えさせられました。
- ・ 湖の人々が湖の恵を大切に継承しようとしていかれているのが、食で感じました。

●おいしかった料理の順は ※全部に順位を記入

- ・ビワマスの煮つけ 1位
- ・ビワマスのおつくり 2
- ・わかさぎの天ぷら 3
- ・しじみのお味噌汁 4
- ・たでぼし豆 5
- ・あゆの田舎煮き 6
- ・えび豆 7
- ・ふなずし 8
- ・アメノイヲご飯 9

50～60代		票の内訳		
		1位	2位	3位
1位	ビワマスの煮付け	13人	5人	3人
2位	ビワマスのおつくり	4人	9人	3人
3位	わかさぎの天ぷら	一人	1人	5人

●料理の量はいかがでしたか ※1つ○

- ・多すぎる 1人
- ・やや多め 13
- ・ちょうどいい 12
- ・やや少ない —
- ・少なすぎる —

⇒そのほか、食べてみたい料理やメニューの量や希望などがあればご記入ください。

（食べてみたい料理）

- ・野菜料理がもっとほしかった。
- ・うなぎ料理ぜひ加えてほしい。
- ・あゆの塩焼き・うなぎの白焼き・もろこの白焼き
- ・うなぎ料理を食べたかった。
- ・丁字麴の辛しあえ

（量・味の不満、改善）

- ・量的にはいいが、お酒が無ければお料理に申し訳ない。
- ・量が多いため炊き込みご飯はむしろ白ご飯のほうが湖の料理が際立ってくるのでは
と思います。
- ・料理に味が十分ついているので、ご飯は白ご飯がいいと思う。
- ・少しさっぱり系の品がほしかった。
- ・アメノイヲご飯はおいしくない。

1-7. エコ遊覧について

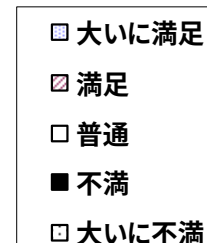
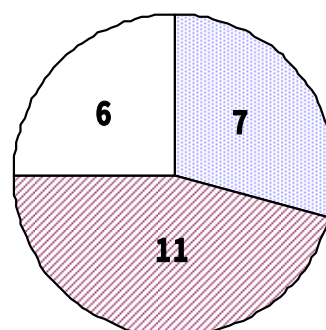
●川遊覧の体験は初めてですか？

・初めて	17人
・2回目	5
・3回目	2
・4回目	1

以前の観光先等：海外で4、5回 国内で4、5回(伊豆・石川・三重等)
大滝川下り・保津川下り・淀川(三川合流地域)
近江八幡・天竜川

●感想は

・大いに満足	7人
・満足	11
・普通	6
・不満	—
・大いに不満	—
回答なし	2



⇒今回は(以前のものと比べて)どうでしたか？

(静か、ゆったり)

- ・ 静けさと癒しとゆったりテンポで大満足。
- ・ それぞれ（天竜川下り、保津川下り）にいい所があり、今日はふるさとに帰ったようでした。
- ・ ゆったりとしていて癒しを感じました。やはり今回のような行き方であれば、のんびり船の中でお弁当が適しているように思えました。
- ・ 静かで自然のままでよかった。

(想い、取組み)

- ・ 船頭さんの話を聞き、エコ遊覧に関しての思いが伝わりよかった。
- ・ エコの大変さ、自然管理の大変さを説明を聞いて感じました。

(不満)

- ・ （近江八幡に比べ屋形船に）すこし慕情がない。

●びわ湖を守るために運行している、家棟川エコ遊覧についてのご意見をお聞かせください。

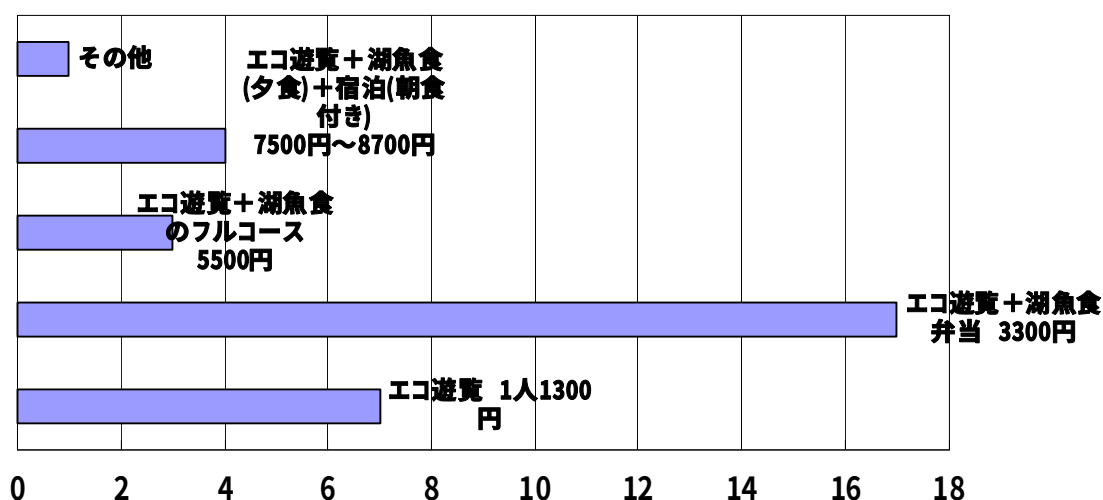
☆後述

II-1. 今後について

●参加してみたいコースに○をつけてください（金額は例です） ※3つまで○可

- 1、エコ遊覧 ひとり1300円（予約6人以上） 7人
- 2、エコ遊覧+湖魚食弁当 3300円 17
- 3、エコ遊覧+湖魚食のフルコース 5500円 3
- 4、エコ遊覧+湖魚食（夕食）+宿泊（朝食つき）7500円～8700円 4
- 5、その他⇒「こんなメニュー、料金、条件なら」というアイデアなどがあればお書きください。 1

・湖魚に好き嫌いが多いのでよほどのアピールがいると思う。（シニアにアピールとか）



分析

エコ遊覧+湖魚食弁当 3,300円の内訳 京都10/18人、名古屋5/8人

⇒誰と一緒に何人で来たいですか

主人と二人で・友人と2人位・2～3人・主人と友人・兄弟
友人3～5人・家族と・まず子どもとは無理だろう

● 希望時期： 4月 15人

5月 9

6月 1

7月 1

8月 1

9月 —

10月 4

11月 2

桜舟をぜひ！
春・花の季節に
ぎりぎりビワマスが楽しめる最後の頃

●希望曜日：日帰り	平日	17	宿泊	平日	4
	土曜	2		金土	1
	日曜	2		土日	—
	祝日	—		連休	—

●希望時間	1日目	10時～15時	2日目	12時～14時
		10:30～15時		9時～12時
		10時～		9時～15時
		10時～13時		
		10時～17時		
		11時～12時		
		11時～14時		

II-2. 周辺の観光も含めて、参加してみたいもの1つに○をつけてください

・ 漁師が案内する家棟川エコ遊覧と湖魚食（野洲）	6人
・ 近江八幡の水郷地帯と八幡堀、和船	5
・ 安土城と遺跡	1
・ 彦根城と屋形舟、城下町	7
・ 長浜城と温泉、黒壁街	4
回答なし	3

⇒「漁師が案内するエコ遊覧と湖魚食」に○をつけてもらうにはどうしたらよいと思いますか？

（プロモーション、広告）

- ・ 新聞案内
- ・ ホームページの充実
- ・ 駅でのPRをする。
- ・ パソコンを利用したり、「らくだネット」などの宿泊に委託する。
- ・ 湖魚食の大自然のおいしさをもっと県外へアピールする。
- ・ 湖魚のアピール
- ・ もっとアピールすること

（コース、内容）

- ・ びわ湖にも触れられるように
- ・ びわ湖をもっと近くで見たいです。
- ・ 漁師、案内、歌少し
- ・ 湖魚食は好き嫌いがあるかも
- ・ 「漁師が案内する」に徹することと思います。

（オプションプラン）

- ・ エコポイント、ポイント GET で楽しむ オプションサービスの構築
- ・ プラスアルファをつける
- ・ おかい物ツアーやお風呂をプラスとか
- ・ もうひとつ何を観光につけるかが問題。これだけでは無理。

（交通の便）

- ・ 交通の便を整え、船の本数を増やす。
- ・ 交通手段

（その他）

- ・ モニターがいいよ

II－3.湖魚食というネーミングについてどう思われますか？

どういうネーミングがいいですか？

（イメージ、音）

- ・ （イメージが）かたい 微妙 「湖食」
- ・ あまりきれいなネーミングではない。
- ・ ゴロが悪い、びわこの何かネーミングを入れて考えてください。
- ・ 「湖国食」 湖魚食だとブラックバスを思い浮かべます。
- ・ 「ギョ」の音が少し硬く感じられる。びわこ食？

（分かりやすく）

- ・ 「びわこの魚のとれたて料理」のほうが分かりやすい。
- ・ 「湖魚食」は聞きなれないのですが、「びわこ料理」とか「野洲漁師料理」など分かり易い名称を。
- ・ わかりづらいので、声に出して発音しやすく、リズムのあるネーミングを考えた方が良いと思う。

（改善案、その他）

- ・ 「琵琶湖の川魚料理」
- ・ 「湖魚食」あまり使わないですね…。「近江食」「淡海食」とか琵琶湖と共存。
- ・ 「昔の自然に目を向けよう！」
- ・ 少々変更の余地あり。

（そのまま）

- ・ 良いと思う(細かく説明付き)、悪くないと思う

II－４．そのほか、この事業を発展させるために何が必要と思われますか？

●追加してほしいサービス

（プロモーション、広告）

- ・ 宣伝
- ・ もっと情報を流してほしい。
- ・ 河原の風景、風情をおおいにアピール。
- ・ 広告、宣伝、本への掲載
- ・ 湖の恵には、自然を守る・昔の姿に戻す大切さをアピールする。
- ・ 広告宣伝に工夫を。滋賀県に観光に来た場合、気がつくようにアピールする。

（オプション）

- ・ 野洲市の名所をプラスしてほしい。
- ・ 時間的に短いので、野洲で一日過ごすという追加メニューが必要だと思います。
- ・ みやげ物、特産物

（事業展開）

- ・ 野洲だけでなく、周辺も巻き込んで展開。
- ・ 幼稚園、保育園、小学校、町内会の野外活動

（改善点）

- ・ 交通の便
- ・ 食事の味を薄味に。

●その他

- ・ お品書きの書体は、筆文字体で。大サイズが良い。
- ・ ヨシ紙の使用はエコに繋がるのですか？ エコになれば大賛成です。
- ・ 観光と船。宣伝不足の感あり。

●びわ湖を守るために運行している、家棟川エコ遊覧についてのご意見をお聞かせください。

◆景色、自然

（自然の豊かさ）

- ・ 人工物がほとんど見えない景色は良かった。
- ・ 自然が残っている様子でしたが、苦労があつてのことだと知りました。
- ・ 町の中で生活しているので、自然に触れてよかった。
- ・ 素敵な自然、残していきたい。
- ・ 秋(冬)景色は、曇っていたせいか趣きがあつて本当に良かった。
- ・ 久々に自然と触れ合えました。
- ・ 十分豊かな自然を体験できました。
- ・ 景色はよくヨシ、マコモ、ガマの穂など水生植物が目の前のあつて、とても豊かな時間を過ごせました。
- ・ 車道から見えるのと違い、目線が低く、川の様子をじっくり見ることができてよかった。

（のんびり）

- ・ のんびりできてよい。
- ・ 天気も良くなり、ゆっくり、のんびりできてよかったです。
- ・ 波も流れもなく穏やかで、ゴミも少なく良かった。

（提案）

- ・ 四季のPRを 駅の掲示板などでどうでしょうか
- ・ 湖岸に季節の花を植える。
- ・ 水車など作って楽しませてください。
- ・ 自然があつてよかったが、田舎の花々が岸にあつても良いのではないかな。

（ごみ、水質）

- ・ ゴミが浮いていたので、ゴミ回収をしてほしい。
- ・ 自然がいっぱいで良いと思うが、水が汚い。

（感想）

- ・ 素晴らしい、お見事!!
- ・ このまま、それ以上に守ってほしい。
- ・ とっても素敵でした。
- ・ セイタカアワダチソウが多く目に付きましたが、自然に任せてあるのですか？
- ・ 他の季節にも訪れたいと思いました。
- ・ 景色、自然は手をかけないとダメだと初めて気付きました。
- ・ まだ「鵜」とか「しらさぎ」が逃げてゆくけど、逃げなくなったら、しめた事でしょう。

◆屋形船で運行

（ゆったり）

- ・ ゆったりした流れを感じられてよい。
- ・ ゆったりして最高！
- ・ ゆっくり別世界に来たようで、寝転んで空をみたい位いい気分でした。
- ・ ゆっくりと運行されて、案内も聞き取れてよかった。
- ・ 楽しい、安らぎます。
- ・ 風を感じられて良かった。

（手漕ぎ）

- ・ 手こぎにこだわられているところが非常に良かったです。
- ・ 櫓での進行がとてもよかった。
- ・ 船頭さんの手こぎでよい。
- ・ エンジン舟でなく、ゆったりと時間の流れを感じることができ、非日常で良かったです。

（船頭の語り）

- ・ おじさんの静かな口調に好感持ちました。

（不満、改善）

- ・ 季節的に寒かった。
- ・ 八幡堀などに比べて慕情がない。
- ・ 曲を流したり、歌を歌ったりイメージ作りが必要。

（感想）

- ・ 貴重な経験ができ、ありがとうございました。
- ・ さわやかで気持ちよかったです。
- ・ これで十分です。風情がありとても良かったです。

◆漁師、船頭の話

（熱意）

- ・ 松沢さんの熱い思いが伝わってきました。
- ・ 琵琶湖を愛する気持ちが大変強く伝わってきました。

（興味）

- ・ 知識、経験が豊富でとてもためになりました。
- ・ 日ごろあまり気にしていないエコについて、なるほどと感じた。
- ・ エコ、水の大変さなど考えさせられました。
- ・ 楽しかった、琵琶湖のことがよくわかった。
- ・ とても内容が濃い！ 地元発信ということもあり、説得力あり。
- ・ 大変内容が豊かで説得力があった。
- ・ 湖と魚と植物について多くのことを教えられました。
- ・ たくさん知識をいただきました。

（人柄、語り口調）

- ・ 観光化されてなく、聞き入ることができよかったです。
- ・ とても優しく温かみがあっていい。
- ・ ときおり冗談等を言ってよかった。

（不満、改善）

- ・あまり聞き取れなかったが、説明があると良い。
- ・ほとんど聞き取れませんでした。（マイクを使った時はよくわかりました。）
- ・ちょっと聞き取りにくかった。とてもいい話でしたのに…。
- ・船先に乗ったので、船頭さんの話はほとんど聞こえませんでした。
- ・もう少し詳しくしてほしい。
- ・もう少しテキパキしてほしい。

（感想、賞賛）

- ・最初環境のためにこの事業をやっていることを聞きまして、とても感心いたしました。
- ・何か私でも応援できることがあれば、と思いました。
- ・エコ遊覧をされるこの活動がよくわかりよかった。
- ・琵琶湖の今の問題がわかったこと。
- ・詳しく説明していただいて、わかりやすかった。
- ・中々味があって良かった。
- ・自然破壊の状況が身に迫っていると痛切に感じました。
- ・分かりやすい。
- ・丁寧な説明でよくわかった。

◆良かったこと

（知る、気づき）

- ・琵琶湖のこと、水のことを考えるきっかけになったこと
- ・エコ遊覧のことが詳しくわかった。
- ・家棟川のエコの意味が良くわかった。
- ・伝統と自然のつながりが大切なことが、よくわかりよかった。
- ・サギに会えた事
- ・水鳥の水かきを初めて見た。

（五感、体験）

- ・船の手こぎのゆったりペース
- ・のんびりできた。
- ・ゆったりと流れていたこと。
- ・全て初めての経験だったので、新鮮な気持ちになりました。
- ・自然の豊かさを感じました。
- ・自然がたくさん残っていて素朴でよかった。

（その他）

- ・船頭さんが丁寧なところ
- ・全般に気を遣っていただいたので良かった。
- ・関係者の方、一所懸命で気持ちのいい時間でした。
- ・皆さんの取り組みに少しでも協力できることがあれば。

◆良くなかったこと、再度乗船するとしたら、希望することは何ですか

（防寒対策）

- ・ 船の中がゴザだけで冷たかったので、座布団がほしかった。
- ・ お尻が冷たかったので、座布団がほしい。
- ・ ひざ掛けの用意がありましたら、嬉しく思います。
- ・ 座布団、ひざ掛けがほしかったです。
- ・ 敷物を厚いものに
- ・ 屋形船の座り心地がちょっと悪かった。冷たかった。
- ・ 船乗り場まで足場や、船の下が冷たく何か工夫を希望いたします。
- ・ 船の床を温かい敷物にしてほしい。（冬）
- ・ 寒かったので一工夫を。
- ・ 季節的にもう少し暖かいときに来たいと思います。

（手漕ぎ舟）

- ・ 船内が汚い。
- ・ 琵琶湖にも出てみたかった。
- ・ 乗り場が狭いように感じる。
- ・ 靴を脱ぎたくない。
- ・ 下船するときのゆれが少し怖かったので、手を貸してほしいです。

（船頭の語り）

- ・ もっと細かく説明してほしい。
- ・ マイクを使ってほしい。

（湖魚料理）

- ・ 料理の味つけは全般的に濃いように感じる。

（交通の便）

- ・ 駅から乗り場までの交通の便が悪いので便利さを希望する。

（その他）

- ・ 今度は自然環境に興味のある主人を連れてきたいと思います。

<NPO法人家棟川流域観光船モニターアンケート集計>

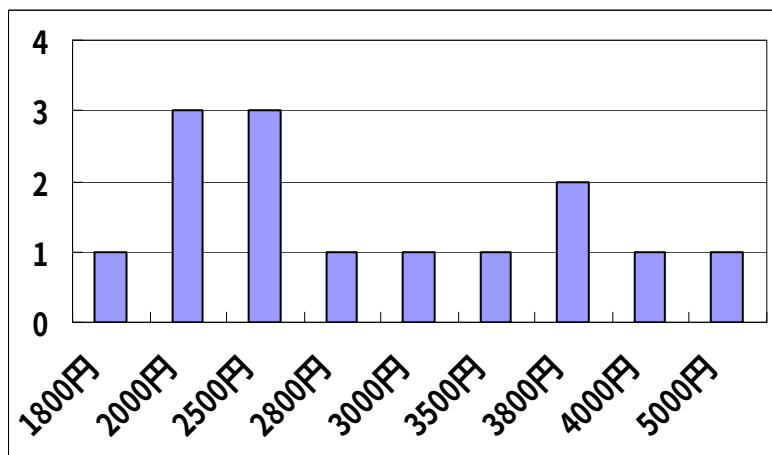
【30代独身女性】2010.11.13実施

■参加者	滋賀県内	4名	■年齢層	30歳代	9名
	京都市内	2		?	5
	名古屋市内	4			14名
	西宮市	1			
	三田市	1			
	枚方市	2			
		14名			

■価格調査

①当日の料理

1800円	1人
2000	3
2500	3
2800	1
3000	1
3500	1
3800	2
4000	1
5000	1

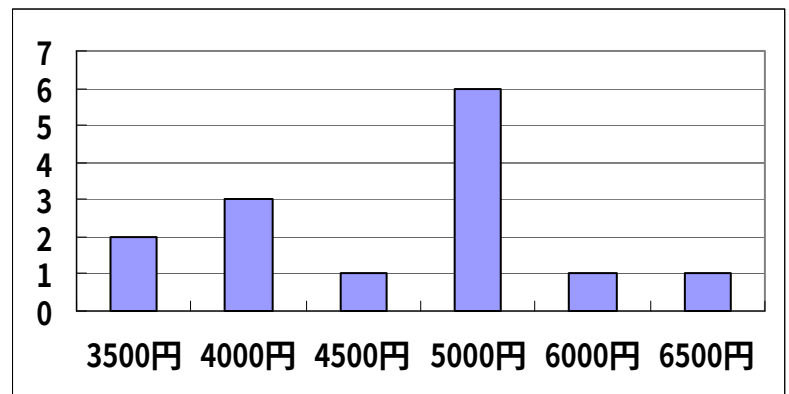


地域別（平均）

滋賀県内	2300円	(2,000~2,500)
京都・大阪	2600	(1,800~4,000)
名古屋	4000	(3,500~5,000)

②宴会料理（見本1）

3 5 0 0 円	2 人
4 0 0 0	3
4 5 0 0	1
5 0 0 0	6
6 0 0 0	1
6 5 0 0	1



地域別（平均）

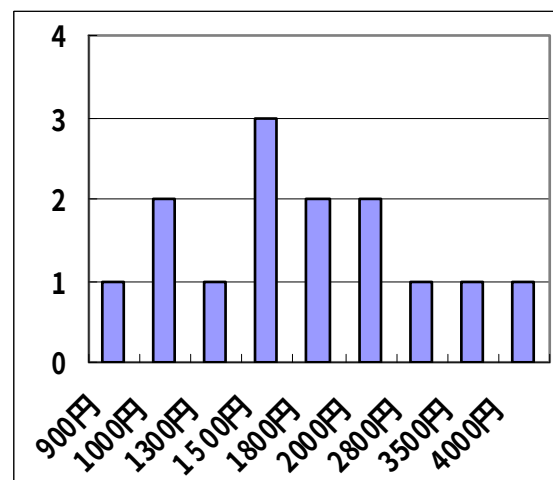
滋賀県内	4 3 0 0 円	(3,500～5,000)
京都・大阪	4 3 0 0	(3,500～5,000)
名古屋	5 6 0 0	(5,000～6,500)

分析

5 0 0 0 円の内訳 滋賀県 2 人、京都・大阪 2 人、名古屋 2 人

③お手軽料理（見本2）

9 0 0 円	1 人
1 0 0 0	2
1 3 0 0	1
1 5 0 0	3
1 8 0 0	2
2 0 0 0	2
2 8 0 0	1
3 5 0 0	1
4 0 0 0	1

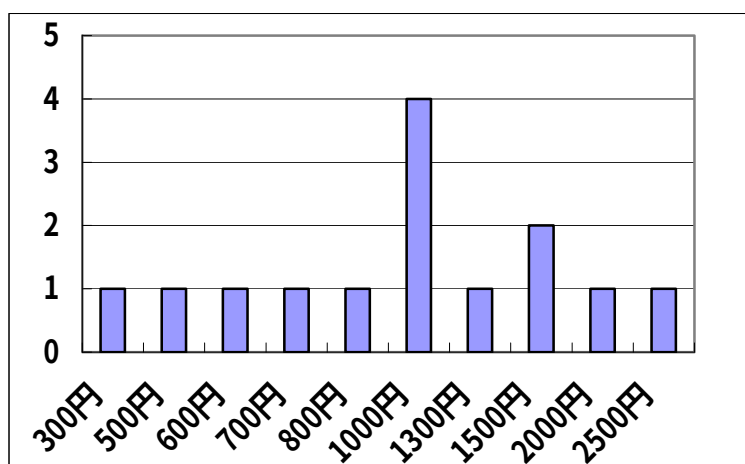


地域別（平均）

滋賀県内	1 2 0 0 円	(1,000～1,800)
京都・大阪	1 8 0 0	(900～3,500)
名古屋	2 5 0 0	(1,500～4,000)

④手漕ぎ舟（1人あたり）

300円	1人
500	1
600	1
700	1
800	1
1000	4
1300	1
1500	2
2000	1
2500	1



地域別（平均）

滋賀県内	600円	(300~1,300)
京都・大阪	1500	(1,000~2,500)
名古屋	1000	(700~1,500)

分析

1000円の内訳 京都・大阪3人、名古屋1人

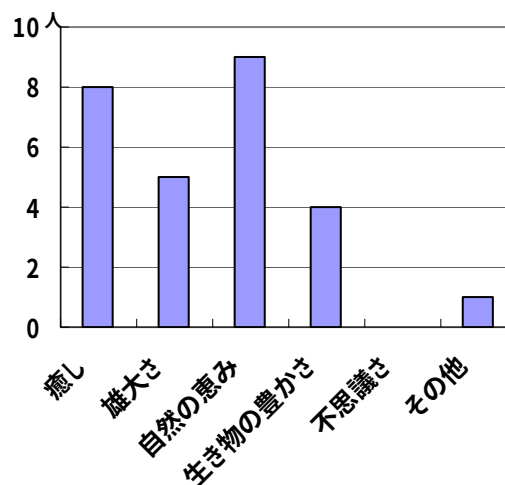
■アンケート調査

Ⅰ-1. 今回の参加理由の決め手となった上位3つに順位をつけてください

1. モニターとして企画に意見を言ってみたかった	2人
2. モニターだから安く参加できてお得だと思った	6
3. 船頭の案内にひかれた	—
4. 琵琶湖に行きたかった	2
5. 湖魚食を食べたかった	9
6. ゆったり川遊覧をしたかった	6
7. 野洲市の自然環境に興味を持った	1
8. NPO 法人家棟川流域観光船のエコ活動に関心があった	1
9. どこでもいいから日帰りでゆったりしたかった	—
10. 友人・知人の付き合いで参加した	11
11. その他	—

1-2. びわ湖や川に何を期待していますか ※上位2つまで

1、癒し	8人
2、雄大さ	5
3、自然の恵み	9
4、生き物の豊かさ	4
5、不思議さ	—
6、その他	1

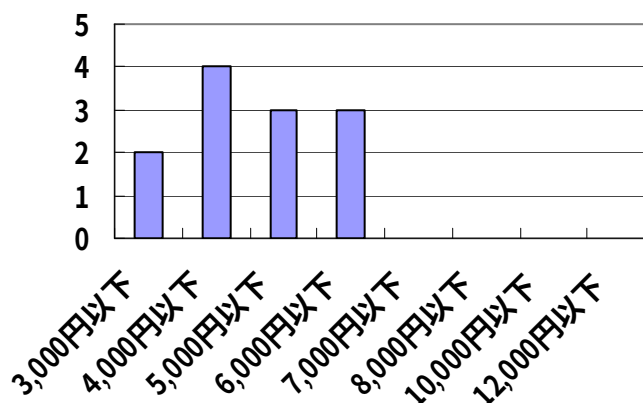


・いつまでも美しく豊かであってほしい。

1-3. 今回の船と食事の体験メニュー（意見交換会を除く）で、モニターでない通常募集の場合、いくらまでなら参加したと思いますか ※1つ〇、交通費を除く

1、3,000 円以下	2人
2、4,000 円以下	4
3、5,000 円以下	3
4、6,000 円以下	3
5、7,000 円以下	—
6、8,000 円以下	—
7、10,000 円以下	—
8、12,000 円以下	—

回答なし 2



・このままの内容では、お金を払って行きたいと、考えにくい。

1-4. 今回が何回目ですか？ ※他の場所も含めて記入

●当企画への参加

初めて	14人
何回目	2回目 —

●他に野洲への訪問

初めて	11人
何回目	2回目 1
	多い 2

⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

・通り過ぎただけだったので、じっくり味わえてよかった。

●他に滋賀県への訪問

初めて		2人
何回目	2回目	1
	5回目	1
	8回目	1
	多い	2

以前の見学先等：彦根城・黒壁スクエア・琵琶湖博物館・ウォーターステーション琵琶
アクア琵琶・南湖 海水浴・大津

⇒今回は、以前のものと比べてどうでしたか？

- ・自然の良さを感ずることができた。
- ・川に着目した点で、初めての視点だった。
- ・全く違った景色、食事、貴重なお話が聞けた。

Ⅰ－6. 今日の湖魚食はいかがでしたか

●湖魚食の食事は初めてですか？

初めて		9人
何回目	多い	2

以前の場所・内容等

- ・水鳥湿地センター横の食堂。
- ・紅葉パラダイス、お土産でアユの佃煮。
- ・普段から食べている。
- ・滋賀在住なので何度か食べています。

●感想は

・大いに満足	6人
・満足	8
・普通	—
・不満	—
・大いに不満	—
回答なし	—

⇒今回は、（以前のものと比べて）どうでしたか？

- ・初めて食べたアメノイオご飯、たてぼし豆はおいしかった。
- ・アメノイオご飯を初めて食べたがおいしかった。家でも作ってみたい。
- ・初めて食べるものもあり、良い経験ができた。
- ・琵琶湖づくしだった。
- ・くさいと思っていたが、気にならなかった。

●おいしかった料理の順は ※全部に順位を記入

・ビワマスのおつくり	1位	
・ビワマスの煮つけ	2	
・アメノイヲご飯	3	
・わかさぎの天ぷら	4	正直、順位はつけにくいです。
・ふなずし	5	との声あり。
・たてぼし豆	6	
・あゆの田舎煮き	7	
・えび豆	8	
・しじみのお味噌汁	9	

30代		票の内訳		
		1位	2位	3位
1位	ビワマスのおつくり	5人	3人	3人
2位	ビワマスの煮付け	3人	2人	5人
3位	アメノイヲご飯	2人	1人	2人

●料理の量はいかがでしたか ※1つ○

・多すぎる	3人
・やや多め	8
・ちょうどいい	3
・やや少ない	—
・少なすぎる	—

⇒そのほか、食べてみたい料理やメニューや量の希望などがあればご記入ください。

（イチオシ！）

- ・ビワマスはとてもおいしく、特徴的であったと思う。
- ・しじみは高級なイメージがあるので、もっと売り出してもいいと思う。
- ・説明を受けて食べられるので、おいしさが増した。

（量・味の改善）

- ・豆が2種類あるので、量をもう少し減らしてもいいと思う。
- ・ビワマスの煮付けの身が厚いので量が多い。
- ・あゆ煮き、豆類は味も似ているし、もっと少量でよい。
- ・佃煮系(あゆ、えび豆、たてぼし豆)は、今回の半量でいいと思う。
- ・豆は少しでよかった。
- ・田舎煮きは多すぎた。豆も2/3くらいで良い。
- ・もう少し少なくていいので、色々なお料理をちょこちょこ食べたい。
- ・全体的に味が濃いので、ご飯は白ご飯でよかった。

- ・味が濃いので、少し薄いものがほしい。
- ・サラダなど、あっさりしたもの。

（説明の改善）

- ・お品書きが始めに机に置いてあると良かった
- ・健康ブームもあるので、ふなずし(湖魚食)の効用などを簡単にまとめた資料があるといいかも。

（その他の改善）

- ・地元の野菜、米を打ち出した料理も追加する。
- ・天ぷらは温かいうちに食べたかった。野菜がほしかった。
- ・煮つけには骨があり、取る時にお皿が浮くので平らなお皿が良い。

I-7. エコ遊覧について

●川遊覧の体験は初めてですか？

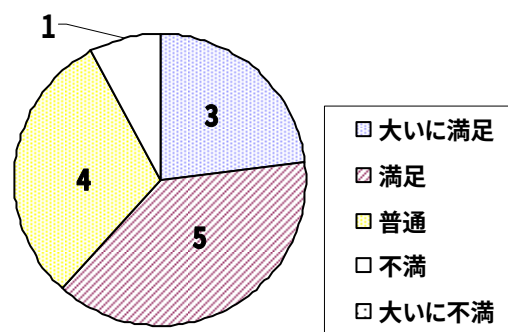
- | | |
|-------|----|
| ・ 初めて | 9人 |
| ・ 3回目 | 3 |
| ・ 5回目 | 2 |

以前の観光先等：近江八幡水郷めぐり・富山の庄川・亀岡(嵐山?)・海外・九州・徳島
ベネチア・西表島・嵐山の川くんだり・西の湖

●感想は

- | | |
|----------|----|
| ・ 大いに満足 | 3人 |
| ・ 満足 | 5 |
| ・ 普通 | 4 |
| ・ 不満 | 1 |
| ・ おおいに不満 | |

回答なし 1



⇒今回は、(以前のものと比べて) どうでしたか？

(よかった)

- ・水面が近くに感じられて良い。静かでゆったりできる。
- ・全く異なるものだったが、時間の流れがゆったり感じられた。
- ・行きの手漕ぎ、櫓漕ぎ体験が最も良かった。
- ・初めての体験で、環境の話も聞けたのでよかった。
- ・川の風景も思ったより美しかった。

(不満)

- ・何がしたいのか、中途半端(環境の話？ ゆったり、のんびり?)
- ・季節的なものだと思いますが、周りの景色がこれといって目を引くものが無く残念。
- ・原風景といえば原風景ですが、あえてここである理由が乏しい。
- ・見所がないように感じました。

●びわ湖を守るために運行している、家棟川エコ遊覧についてのご意見をお聞かせください。

☆後述

II-1. 今後について

●参加してみたいコースに○をつけてください（金額は例です） ※3つまで○可

- | | |
|------------------------------------|----|
| 1、エコ遊覧 ひとり1300円（予約6人以上） | 3人 |
| 2、エコ遊覧+湖魚食弁当 3300円 | 3 |
| 3、エコ遊覧+湖魚食のフルコース 5500円 | 9 |
| 4、エコ遊覧+湖魚食（夕食）+宿泊（朝食つき）7500円～8700円 | 2 |
| 5、その他 | 4 |

⇒「こんなメニュー、料金、条件なら」というアイデアなどがあればお書きください。

・エコ遊覧+湖魚食フルコース、もう少し安いほうが集客はあると思います。

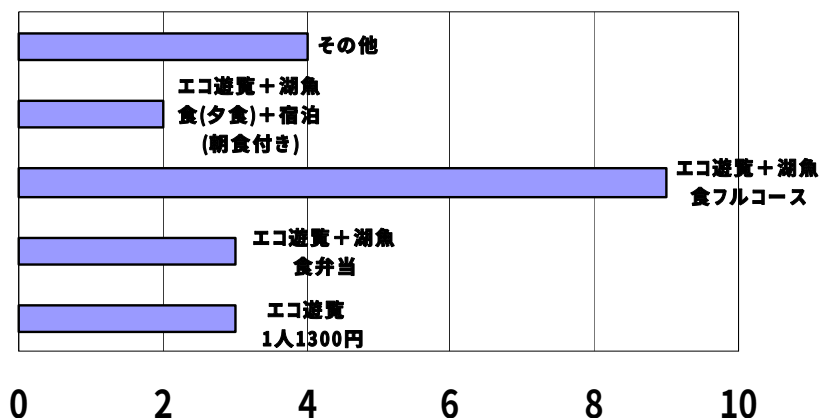
4,500円～5,000円

・+婚活で8,000円、+生き物とのふれあい体験付き6,000円

+びわ湖博物館 etc5,000円

・温泉付き

・湖魚食フルコース



⇒誰と一緒に何人で来たいですか？

友人（女友達） 3～4人、2～4人、4～6人、3人以上

家族(両親)、主人

●希望時期：

4月	10人	8月	1人
5月	4	9月	1
6月	1	10月	1
7月	2	11月	1

花見・夜で屋形船・櫓漕ぎ体験

●希望曜日：日帰り		平日	1	宿泊	平日	—
		土曜	11		金土	—
		日曜	4		土日	1
		祝日	1		連休	—
●希望時間	1日目	11時～14時		2日目	10時～11時	
		11時～12時			10時～15時	
		11時～			10時～12時	
		10時～13時			11時～	
		10:30～15:30				
		10時～15時				
		10時～16時				
		10時～14時				
		13時～20時				
		13時～17時				
		9時～17時				

II-2. 周辺の観光も含めて、参加してみたいもの1つに○をつけてください

- ・ 漁師が案内する家棟川エコ遊覧と湖魚食（野洲） 5人
- ・ 近江八幡の水郷地帯と八幡堀、和船 3
- ・ 安土城と遺跡 —
- ・ 彦根城と屋形舟、城下町 4
- ・ 長浜城と温泉、黒壁街 2

⇒「漁師が案内するエコ遊覧と湖魚食」を選んでもらうには、どうしたらよいと思いますか？

（船頭の語り）

- ・ 漁師の話を出して、びわ湖に興味を持ってもらう必要がある。
- ・ 漁師さんの話を前面に出す。

（体験・湖魚料理）

- ・ 体験をPRする。温泉をプラスする。
- ・ 今日体験して良さを理解したため、○をしたが、体験してなければつけづらいかも…。
- ・ 手漕ぎ体験や湖魚食とセットがよいのでは？ +婚活など。
- ・ 湖魚食のアピール（ヘルシーなど） ふなずしを前面に。

（ネーミング）

- ・ 「50年前に思いを馳せて…漁師の案内するびわ湖水源をたどる旅」など、ネーミングを工夫する。
- ・ エコ遊覧をタイトルに入れるなら、何かエコ活動を体験とか琵琶湖の現実を見せる内容を見せてほしい。
- ・ エコという言葉は抜いたほうが良い。

- ・エコの研修を行っている会社が多いので、遊びではなく仕事感がある。
（プロモーション、広報）
- ・湖魚食をおいしそうでボリュームのわかる写真で。一品お土産付き。
- ・お土産をつける。
- ・強みをもっとアピールする。差別化。

II-3. 湖魚食というネーミングについてどう思われますか？どんなネーミングがいいですか？

（言葉からのイメージが良くない）

- ・おいしくなさそう。川魚のイメージ 臭そう。
- ・泥臭いイメージがある。びわ湖郷土料理。
- ・まずそう、「湖はん料理」
- ・英語やカタカナを使うと少し印象が変わる。Mother Lake Fish Food・・・とか？

（言葉からイメージしにくい）

- ・少し解りにくいので、どのようなメニューか詳しく表記すれば良い。
- ・湖魚食だと耳慣れないので、びわこ湖魚食とかびわこ郷土料理とか・・・。
- ・聞きなれないのでピンとこない。
- ・「コギョシヨク」ときいて「湖魚食」と思い浮かばない。ネーミングは変えたほうが分かりやすい。琵琶湖の伝統料理？
- ・「コギョシヨク」という言葉だけではパッと思いつかない。「びわ湖」をいれる。
- ・「びわ湖のめぐみ」ということで地場産の食材をいろいろ使ってほしい。
- ・「琵琶湖の食材を使用した料理」だとどんなものか興味がわく。

（その他）

- ・分かりやすくていいと思うが、魚ばかりだと飽きるのでは。
- ・びわ湖のお魚。
- ・琵琶湖の魚料理。
- ・びわ湖の漁師料理。

II-4. そのほか、この事業を発展させるために何が必要と思われますか？

●追加してほしいサービス

（おもてなし）

- ・もてなす心、サービス⇒ 客の座布団を踏まない。
漁師さんの話すタイミング
寒いところや、おいしい料理のお預け状態は NG!!
せっかくためになるお話も逆効果。
反感を覚えてしまう。体がうけつけない。
料理、食事しながらや漕ぎながらが良い。
- ・観光というのを前面にだすなら、おもてなしの心。
- ・料理の器は信楽焼きに。

- ・ お土産付き。

（エコは控えめに）

- ・ 若い女性には、エコを押し付けてはいけないと思う。あくまでも観光で、楽しみを前面に出さないといけない。
- ・ 遊覧船と食事場所への移動方法。
- ・ 「エコ」とごみ拾い、川の美化を強調しすぎない。アプローチの仕方。

（オプション企画）

- ・ びわ湖(びわ湖遊覧)をもっと満喫できる何か・・・温泉へ案内。
- ・ お土産、果物狩りとのセット。

（価格、体制）

- ・ 例として 6000 円という金額を提示されましたが、もっと低くするべきだと思います。
- ・ お客様のニーズを知る。
- ・ 船の設備。
- ・ 漁師さんの話の充実。
- ・ ネット予約で1人でも可。同遊可能人数に適した運行。

●その他

- ・ 今回はタクシー送迎だったが、野洲駅までお迎え込みの往復にしてほしい。
- ・ 目的をぶらさない。
- ・ ターゲットを絞った、ターゲットごとのプラン。
- ・ アピールをもっとする。近畿圏、駅構内のポスターetc
- ・ 環境に特化しすぎ。

I-7

●びわ湖を守るために運行している、家棟川エコ遊覧についてのご意見をお聞かせください。

◆景色、自然

（自然の豊かさ）

- ・ 風・水・草・鳥が近くに感じられて良かった。
- ・ 川岸のヨシやマコモ等が良い。
- ・ 豊かな自然がたくさん見られて良かった。また違う季節に来たい。
- ・ 周囲の草は目に優しく、鳥がいる環境で穏やかになれた。
- ・ 都会では見られない静かな景色でした。

（見どころがない）

- ・ 季節の見所があると良い。
- ・ 秋なので紅葉があれば、尚良しと思った。
- ・ 冬までは景色を見ながら遊覧することも可能だが、冬場は何か付加価値をつけないと難しいと思う。
- ・ 秋は割と寒々とした景色に感じられた。
- ・ もう少し見所があれば…。
- ・ 今日は、景色を楽しむことはできませんでした。

（提案）

- ・ もっと詳しく草木や鳥の解説があると、価値が理解できるかもしれません。
- ・ 小学生や中学生を対象に勉強会的な形が良いかと思う。

（ごみ、水質）

- ・ 川に関しては、身近に見ることができ、汚れ（？）を確認しました。
- ・ 水の汚れが気になった。
- ・ 思ったほどゴミがなく、努力されているんだと感じました。
- ・ 冬景色だとゴミで寂しく感じました。

◆屋形船で運行

（乗り心地：○）

- ・ ゆりかごみたいで気持ちよかった。
- ・ ゆっくりと揺られたい気分になりました。春は特に気持ちよさそう。
- ・ 人と人との距離が近くてよかった。時間がのんびりしていた。
- ・ 音が静かで良い。漕ぎ方のテクニックに見とれる。
- ・ 手漕ぎが静かで嬉しい。
- ・ のんびりできてよいと思います。でも冬場は嫌かも。
- ・ 冬場は寒いが、その寒さも含めて自然を楽しむには良いと思う。

（良かった）

- ・ 水面に近く水底も見えて、ずっと乗っていたと思った。
- ・ 一般の方と接することができるのも楽しみのひとつかも。

（乗り心地：×）

- ・ 揺れるので少し酔いました。
- ・ 大人を対象にするなら、船に椅子を作るとか(足がしんどかったので)整備したほうが良いと思った。

- ・ ひざ掛けがあるといい。
- ・ できれば上り、下りとも手漕ぎが良かった。
- ・ 距離がもう少し長くなるとよい。Uターンなしで。
- ・ もっといろんな人に乗ってもらうには、船内の清潔さ、座りやすさに気をつけるべき。
（舟の改善）
- ・ 船事体にもう少しメッセージがあると良い。
- ・ 昔ながらの屋形船やヨシ船だと、より雰囲気が出るかも。
- ・ クモが多いのが、気になった。

◆漁師、船頭の話

（熱意）

- ・ 当事者の方の話で思いがこもってよい。
- ・ 熱い思いが伝わってきてよかった。

（興味）

- ・ 漁師さんの話は、現在の琵琶湖の状況を知るうえでとても興味があり、深刻な状況が伝わった。
- ・ 知らないことをたくさん教えてもらった。
- ・ 昔の生活の話をもう少し聞きたかった。
- ・ いろんなお話が伺えてよかった。
- ・ 興味深かったです。昔の生活の様子は聞くチャンスがなかなかないので、もっと聞きたい。

（不満）

- ・ 地理的な位置をもっと説明してほしい。
- ・ 味があってよかったが、寒い所で環境問題に取り組んできた話を聞くのは勉強になるが、頭に入りづらかった。

（その他）

- ・ お話はとてもよかったと思います。
- ・ とても貴重なお話ですし、また方言を交えて、とても現実的でわかりやすかったです。
- ・ 声や話し方が、聞きやすくて心地よかった。
- ・ 何を話したらいいか…なので、色々話していただいた方がよい。

◆良かったこと

（知る、出会い）

- ・ 環境に対して興味を持ち、考えさせられるきっかけになった。
- ・ 知らなかった環境問題について、知るきっかけとなった。
- ・ 琵琶湖を守りたい!という熱い思いを持った方との出会い。

（五感、体験）

- ・ 水面が近く生き物、自然を肌で感じられた。
- ・ 時間の流れがゆったりと感じられたこと。日ごろの喧騒から逃避できた。
- ・ 手漕ぎ体験が出来たこと。
- ・ 船頭さんのお話。

◆良くなかったこと、再度乗船するとしたら、希望することは何ですか

（防寒対策）

- ・ 座布団・ひざ掛けなどに、おもてなし感があった方が良い。
- ・ 座布団と毛布がほしいです。本日の気温高め（19度前後）でしたが、座っているとしんと腰から足先が冷えました。
- ・ 冬場はこたつ船にするとか…寒さ対策を。

（手漕ぎ船）

- ・ 帰りは安定していたので大丈夫だったが、手漕ぎだと船酔いしそうになる。
- ・ ツアーらしく出発点と違うところに降りたい。
- ・ 桜や菜の花がきれいな時期に乗ってみたい。
- ・ 親子連れも楽しめるように、子どもにもわかりやすい説明パネルがあると良いのでは…。
- ・ 全員が手漕ぎ体験できる時間
- ・ クモの巣があったりしたので、掃除をしたほうが良いと思う。

（湖魚料理）

- ・ いろんな料理がいただけたこと。でも、味は少し違うほうが良い。

■当日行程表

漁師の湖魚料理
家棟川エコ遊覧

舟はゆったりした時の流れを生み、ひたひたの楽しみが季節を感じさせてくれます。

本日のご予約

時刻	内容
10:00	●野洲駅集合 → 家棟川河口（専用ターミナル）
10:30 ～11:30	●家棟川エコ遊覧 湖の自然と漁師の暮らしがわかる、見どころ満載の船です。 川上から見える、ゆたかりの湖の風景をお楽しみください。
	●湖産「あやめ」へ移動
12:00 ～12:30	●昼食「漁師の湖魚料理」 船内で昼食がいただけます。貴重なたんぱく質の湖魚が主役です。 お魚は、ひたひたの湖の恵みを生かした料理が楽しめます。
12:45～	●アンケート記入
13:00 ～14:00	●意見交換 体験可能な湖魚料理や季節感、お魚の味などご意見を伺います。 ご感想は、お魚の味と合わせて、お魚の味と合わせていただきます。
14:00	●野洲駅 解散予定

※本日のご予約は、お魚の味と合わせて、お魚の味と合わせていただきます。

■モニター募集（チラシ）

琵琶湖の魚料理試食&ゆたかり川遊覧
女性モニター募集

募集期間：11月13日（土）

応募資格
大阪・京都・滋賀・名古屋（周辺）に
在住する30～35歳の女性
※今回のモニターは夫婦限定と
させていただきます

2010年、NPO法人家棟川流域観光船では、持続的な社会づくりに向けた事業の一環として、琵琶湖の魚料理試食（湖魚料理）試食とゆたかり川遊覧をセットにしたツアーを検討しております。つきましては皆さまからの貴重なご意見を頂きたく、女性モニターを募集いたします。

●募集地：大阪、京都、滋賀、名古屋（周辺）在住の30～35歳の女性（夫婦限定） 各地域4名
計16名（先着順、各地域定員になり次第、受付終了させていただきます）

●日 時：11月13日（土） 午前10時～JR野洲駅北口（1F）集合
（雨天又は台風時は中止、20名以上は延期予定）

●エ 程：10:00 JR野洲駅集合、専用タクシーにて舟着り場へ移動
10:30～11:30 家棟川エコ遊覧船に乗船し、漁師のゆたかり川遊覧ガイド（乗船時間約1時間）
12:00～13:00 湖産「あやめ」にて、湖魚料理の試食
くわがき、お魚、えび、お魚、季節の湖産の魚を使った料理
13:00～14:00 意見交換会（モニター参加で感じたことを皆さんと話し合ってください）
14:00 JR野洲駅へ送迎・解散

●参加費：船料（月代、食事代含む）、交通費（東京方面は在任地へJR野洲駅まで）
※お魚の味と合わせて、お魚の味と合わせていただきます。

お問い合わせ・お申込みはNPO法人家棟川流域観光船 北出（キタデ）迄
直通電話：（13日の女性モニター応募の件でお電話ください）

■モニター募集（タブロイド誌 掲載記事）

滋賀・野洲で湖の幸に舌鼓

11月12日（金）「家棟川エコ遊覧船
体験と湖魚料理」モニター募集！

家棟川流域観光船

頭さんから自然と環境の
今昔を聞き、昼は湖魚料
理に舌鼓を打ちます。

▲実施日 11月12日（金）
※詳細表。雨天・強風時
は11月17日（水）に延期
▼コース JR野洲駅前
10・00出発⇒家棟川エコ
遊覧船（約60分間）⇒あや
め荘で湖魚料理の昼食⇒
満足度などの意見交換⇒
15・00野洲駅前解散

▼参加費 2,000円
（交通費・乗船代・昼食
代・保険等含む）6,000
円相当。お土産付き

▼主催・問い合わせ N
PO法人家棟川流域観光
船事務局 ☎077（5
89）2267 北出さん

今、滋賀県野洲市の新
観光プラン「家棟川エコ
遊覧船体験と湖魚料理」
のモニターを募集し中。
琵琶湖にそそぐ自然豊
かな家棟川を和船でのん
びり揺られつつ船

参加条件
①滋賀県外在住の50歳～60
歳代の女性
②雨天等で実施日が変わって
も参加できること

応募方法
ハガキに「参加人数」「参加者
全員の名前・住所・年齢・連
絡先電話番号」を明記して、
〒520-2416 滋賀県野洲市
堤421 NPO法人家棟川流
域観光船事務局へ。10月31
日（日）必着。ハガキ1枚につ
き2人まで応募可。同人物
による重複応募は不可。定員
16人。応募者多数の場合は
抽選。抽選結果は11月上旬
に応募者全員に郵送で連絡

■準備スケジュール

●家棟川流域観光船観光メニューテストマーケティング実施に向けた周知（広報）計画					
・テストマーケティングの目的：提供メニューに対し、対価を払っても良いと言ってもらえるかどうかを検証する。 ・周知（広報）の目的：上記検証に協力的な京都、大阪、名古屋在住の30歳代独身女性16名（2艘分）、50～60歳女性24名（3艘分）を確保する。					
対象	10月中旬(7～17日)	10月下旬(18～31日)	11月上旬(1～7日)	11月12日(金)	11月13日(土)
30歳代独身女性 (指名モニター)	●北出さん モニター参加者への案内作成 (12日実施用) → 11日案内文完成	●小松課長手配 大津 草津市内計4名 ●北出さん手配 京都市内4名 ●近畿支援・上野手配 大阪周辺4名 名古屋市内4名 (2艘分16名)	●各手配者より モニター参加者へ案内送信		●実施日 JR野洲駅 10時参加者集合 (2艘分16名参加予定) 予備日 11月20日(土)
50～60歳女性 (指名モニター)	●北出さん モニター参加者への案内作成 (13日実施用) → 11日案内文完成	●松沢さん手配 名古屋市在住バス釣り仲間へ声かけ (1艘分7～8名準備)	●松沢さんより モニター参加者への案内配布	●実施日 JR野洲駅 10時参加者集合 (3艘分24名参加予定)	
50～60歳女性 (公募モニター)	●黒川さん 15日サンケイリビング原稿入稿 ↓ 11日北出さん作成のモニター参加者案内文を基に黒川さん作成・入稿手続	●23日京都版サンケイリビング配布(半2段) (2艘分16名募集) ◆掲載 → 募集締切 10月30日 → ◆当選案内 (1日抽選・発送)	●家棟川さんによる当選者選考 ●家棟川さんより当選者への案内作成・発送	予備日 11月17日(水)	

びわ湖・家棟川エコ遊覧 ニーズアンケート調査

■ 目的・期待する効果：

- 自治会等が期待するエコツーリズムのカタチを明確化する。
- アンケート送付団体に対し、エコ遊覧事業の意義、内容をアピールする。

■ 実施主体： NPO 法人家棟川流域観光船

野洲市、滋賀県、近畿環境事務所、きんき環境館

(パートナーシップにより期待される効果)

有識者、行政の視点を交えることで、多角的な調査を行うことができる。

■ 対 象 ： 市内自治会（89 団体）、子ども会（環境学習船試行実施）

■ 手 法 ：

自治会	ダイレクトメールによるアンケート
子ども会	環境学習船の試行実施時のアンケート

■ スケジュール：

(自治会)

- | | |
|------------|-----------|
| ➤ 8 月上旬 | アンケート内容決定 |
| ➤ 8 月 25 日 | 発送 |
| ➤ 9 月 15 日 | 回収〆切り |
| ➤ 9 月末日 | 集計 |

(子ども会)

- | | | | |
|-------------|-------|------|----------|
| ➤ 9 月 5 日 | 環境学習船 | 試行実施 | 子ども 16 人 |
| ➤ 10 月 24 日 | 環境学習船 | 試行実施 | 子ども 24 人 |

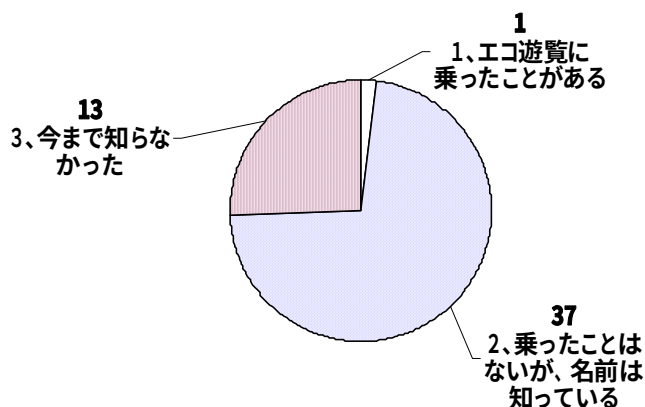
■アンケート様式（自治会）

エコ遊覧に関するアンケート調査票	
はじめに、宇津川エコ遊覧について、お知らせします。	
問1. あなたは、宇津川エコ遊覧をご存じでしたか？ 当てはまる番号に○をつけてください。	
1. エコ遊覧に乗ったことがある。 2. エコ遊覧に乗ったことはないが、名前を知っている。 3. 今まで知らなかった。	
※宇津川エコ遊覧は、宇津川だけでなく、野洲川やびわ湖、近野川北流路などでも遊覧やクルージングを実施しようと考えています。	
問2. 貴自治会の研修や懇話会において、エコ遊覧やクルージングに乗船したいと思われますか？ 当てはまる番号に○をつけてください。	
1. 乗船してみたい。 2. 乗船したくない。（できない） →乗船したくない（できない）理由について、具体的に教えてください。	
問3. 「1. 乗船してみたい」と答えた方にお伺いします。	
問3. エコ遊覧やクルージングに期待されることは、どのようなことですか？ 当てはまる番号のうち2つを選んで○をつけてください。（該当するものがない場合、2つ以下でも結構です）	
1. 体験型環境学習として活用したい。 2. 懇話会や研修会などとして活用したい。 3. 地元の前園さんから、地域の歴史や文化について学びたい。 4. 水鳥や水生植物の観察や学習をしたい。 5. 河川やびわ湖の水質について、調査調査や学習をしたい。 6. 新しい景色や四季の自然を楽しみたい。 7. 湖魚の伝統食を味わいたい。 8. その他	
問4. エコ遊覧では、びわ湖の豊かな生態系が育んできた伝統的な湖魚料理を味わうことができます。（お弁当：別途申込み）湖魚料理を食べたいと思われますか？ 当てはまる番号に○をつけてください。	
1. エコ遊覧の際に、湖魚料理を申し込みたい。 2. エコ遊覧だけでなく、自治会その他の行事でも湖魚料理の仕出しを頼みたいです。 3. 湖魚料理の申込みは考えていない。 →考えていない理由について、具体的に教えてください。	
問5. エコ遊覧について、改善すべき点や取り入れて欲しいことなど、ご意見がありましたらご自由にお書きください。	
問6. びわ湖の水環境を保全するためには、水源となる里山や森、まちを流れる川、水を利用する農業まで、流域一帯を保全していく必要があります。自治会として、取組みたい（取り組んでいる）活動はありますか？ 当てはまる番号にすべてに○をつけてください。	
1. 里山での除草や間伐など、水源の森づくり活動 2. 河川林や橋守の森などを守り育てる緑化推進活動 3. 湖岸防食や湖岸緑地など、流域に配慮した農業の推進 4. 魚や水鳥が住みやすい多自然型河川づくり活動 5. 魚や水鳥のすみかとなるヨシ群落の再生活動（ヨシ植え、ヨシ刈り） 6. その他	
問7. びわ湖や里山、森、川などの自然を守るために、私たちは何をすれば良いと考えますか？ ご自由にお書きください。	
問8. その他、野洲市環境基本計画の活動全般について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。	
ご意見	自治会（ご回答者名）
ご協力ありがとうございました。 環境基本計画推進会議 事務局（野洲市環境課内）まで、ご連絡ください。（Fax可） Tel.077-567-0003 / Fax.077-567-3854	

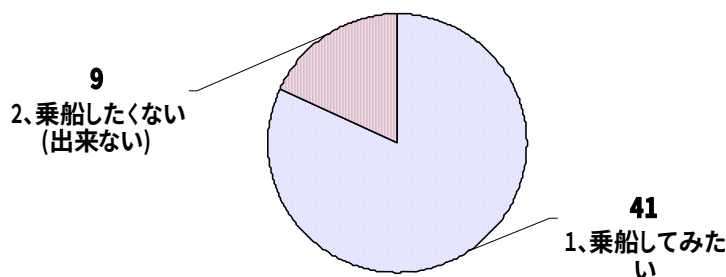
家棟川エコ遊覧 自治会アンケート結果

アンケート返答率 54% 48/89自治会

Q1、あなたは家棟川エコ遊覧をご存知でしたか？

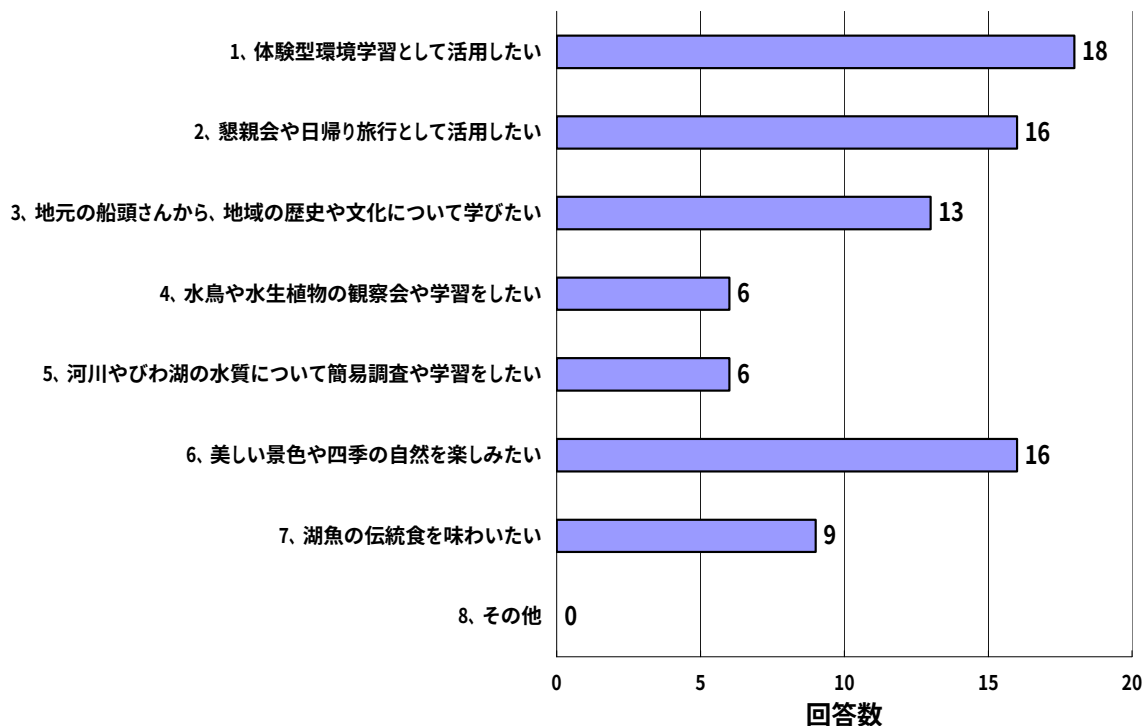


Q2、自治会の研修や懇親において、エコ遊覧やクルージングに乗船したいと思いますか？



自治会名	
G自治会	自治会関連業務が多忙でこれ以上の活動が無理なため。
G自治会	あまりに近すぎるため
T自治会	問は家棟川だけを前提か否か解り難いが、仮に前提としても自治会員からの問も無く、またそのような雰囲気は感じられない。
N自治会	興味なし
V自治会	当自治会は会員名簿も横の連携も無く、その代わり近所づきあいやその他のしがらみもなく一致団結して物事に当たるといのはほぼ不可能であり、またそれ故、他人に対する警戒心も強く、自治会に置いての参加は無理だと思いますが、子ども会として学年ごとの参加なら可能性があると思いました。(事故時の保障や責任について意見はされますか)
Y自治会	①自治会活動が低調で参加者を集めるのが困難 ②事故が心配
不明	昔から半農半漁の集落の為殆どどの人は乗船の経験がある様に思われます。乗船(エコ遊覧)に対しては余り関心がないように思われます。
H自治会	現状、馴染みがありません。役員より希望があれば検討する。

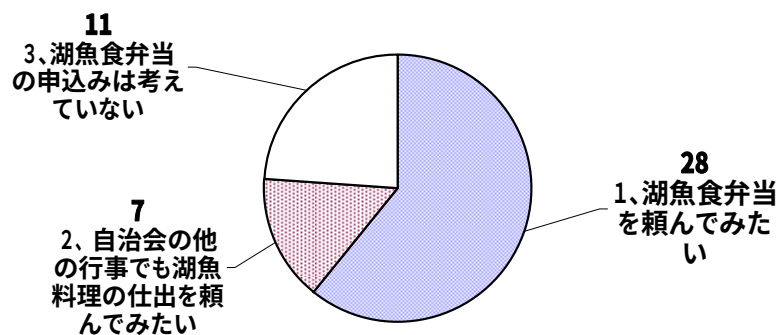
Q3、エコ遊覧やクルージングに期待されることはどのようなことですか？



自治会名

M自治会	一般論としていきなり学習に入るより趣味の世界から学習に入るほうが良いのではないかと？
------	--

Q4、湖魚料理を食べたいと思われますか？



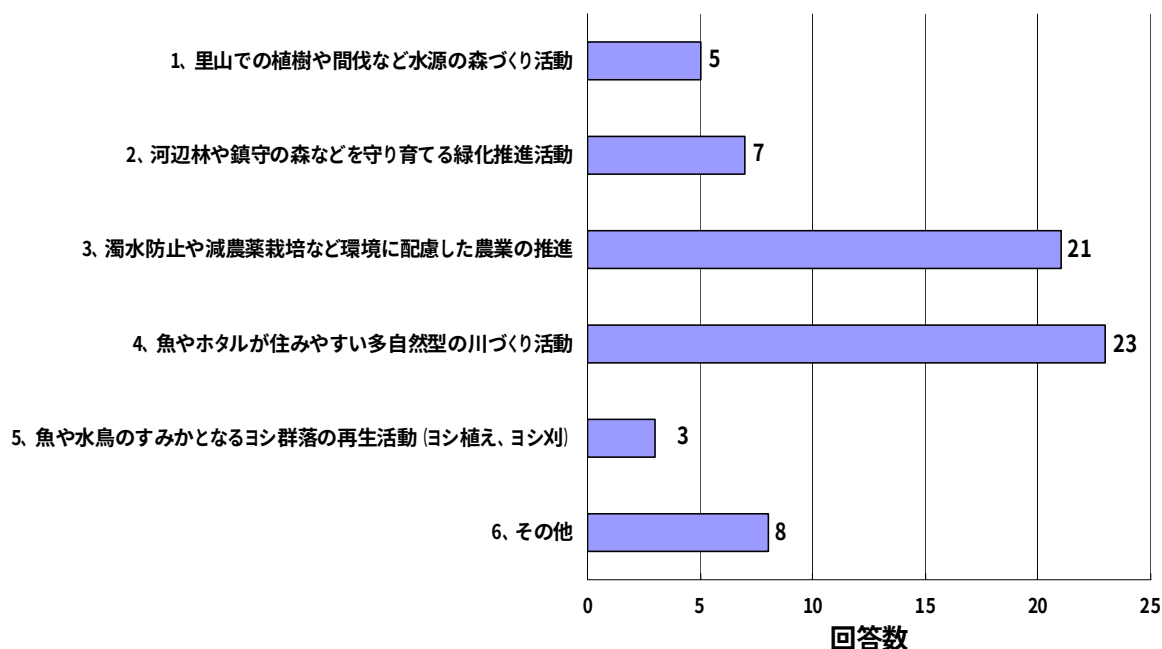
自治会名

K自治会	川魚は好き嫌いがあり、個人的には嫌いなほう
T自治会	他府県からの移住者が大半で、海魚は馴染みがあるが、湖魚を好む話はほとんど聞かない。
N自治会	興味がない
M自治会	1でよかったら2に進むはずで結論を急ぎすぎでないか？（1で悪かったら2に進まない）

Q5、改善すべき点や取り入れてほしいことなど

自治会名	
K自治会	川・舟というと先ず安全の管理が最も大切なことで安全対策を徹底周知（アピール）する
O自治会	現況は存じませんが、安全第一の観点から、救命胴衣の着用とロープ付き浮き輪の常備をお願いします。
T自治会	野洲に住みながら家棟川エコ遊覧のことを知らない人が多いので宣伝をしたらいいと思います。
S自治会	金額を安くしてほしい
D自治会	参加したことが無いので改善すべき点や要望など思い浮かびません
T自治会	以前、チラシを見て乗船したいと思いましたが、団体でしか利用できないようなので諦めました。個人でも予約なしでも利用出来るようにしてほしいと思います。
Y自治会	舟のバリアフリー化
M自治会	乗ったことはありませんが、一度来たお客さんがもう一度来たいと思われるのが重要で、二度と来たく無いと思われたら環境保全活動も前に進まない気がします。楽しんで皆で勉強して長続きするのではないのでしょうか？
T自治会	市の環境行政の一環としたり、学校教育の一環として青少年の環境に対する意識向上を図るべきでしょう。市とは運営経費を交渉し、学校教育プログラムとして、乗船後、環境に対する作文を残すようなことも効果はあると思われる。

Q6、自治会として取組みたい（取組んでいる）活動はありますか？



自治会名	
K自治会	農地まると保全、「桜の里」活動
O自治会	大山川、小山川の遊歩道及び河川敷の美化活動
R自治会	マンション前の川を年2回清掃
T自治会	定期の川岸の除草作業

Q7. びわ湖や里山、森、川などの自然を守るために私たちは何をすれば良いと考えますか？（1/2）

自治会名	
Y自治会	川にごみを流さない
K自治会	集落の川や田畑での生物観察で現状を知ることがよいと思う。次に対策などを皆で考えていく
O自治会	廃棄物不法投棄の撲滅運動、ごみの回収、河川敷・遊歩道の清掃美化。 積水ハウス(株)が提唱している「5本の樹」計画に賛同します。これは各都道府県の気象区分ごとに適した自生種・在来種の樹を選定して植栽することで野鳥や蝶など多くの生物が訪れ、生態系の保全に役立つとともに自然の豊かさを楽しめる環境が形成される。
I自治会	自然を大切にする
M自治会	びわ湖であれば富栄養化防止に努めるとか、川であればBODの削減に努めるとか
O自治会	小さなことですが各人が自覚してごみ等をポイ捨てしないことが自然を守ることになると思います。
Y自治会	家庭ごみや畦の草などを川に流さない。
N自治会	廃棄物の分別を正しく行う。自然を守るためには自然と触れ合う機会を多くする。
O自治会	ごみの適切な処理励行徹底、環境に配慮した農業の取組、植樹や間伐の徹底など
N自治会	一人一人の意識を高めるため、学習会や啓発に努める。身近に出来ることを広めていく。
T自治会	自然を美しく保つためにごみを減らす。植樹の機会などがあれば進んで参加する。
M自治会	森や川にごみなどを流さない
Y自治会	環境負荷の少ない暮らし方をする。(薪ストーブなど化石燃料に頼らない)
G自治会	1、ごみを出さない 2、排水をださないこと 3、自然を踏み荒らさないこと
O自治会	自然を守るためには自然が持つあらゆる力や素晴らしさ・尊さをもっともっと学んで知るべきだと思います。
G自治会	ごみを捨てないで緑を多くする。
T自治会	自然を汚さない、痛めつけないことが大事と思う。ごみを捨てない、除草などの清掃、生物の保護・保全、生活排水・工場排水の浄化、農作業水の浄化・無農薬化努力などに力を入れるべきだと思います。
N自治会	コンクリート無し
O自治会	やりたいけども、その機会が解らないのでいろんな行事を企画・計画してほしい。参加すれば意識が高まると思います。
V自治会	ほとんどの人が環境保護の大切さを既に知り、ごみを捨てないなど出来ることは実践しているのだと思います(車を運転して排ガスは放出していますが...)。一部の心無い人による、もしくは団体・企業による汚染や環境破壊を防止するためには、しない・捨てないなどの受動的環境保全運動から、監視・告発などの能動的運動への転化かと思いますが、そのための具体的考えはありません。
I自治会	農業をする人は濁水を流さない、趣味などで外来種を放さない
R自治会	各自が環境問題に危機感と関心を持ち、イベントだけでなく日常生活の中で行動できるようにする。
M自治会	例えば川の自然を守るため何もせずほったらかしではダメでしょう。野洲川でも野洲川大橋から見える景色は川の中の草原に大きな木がいっぱい育っています。川の中の大木、誰が見ても不自然です。
K自治会	ごみやペットボトルのポイ捨てをやめる。これらのごみは持ち帰ることを義務付ける。

Q7. びわ湖や里山、森、川などの自然を守るために私たちは何をすれば良いと考えますか？（2/2）

自治会名

T自治会	T町はJR新幹線、国道8号線と騒音に悩む町でもある。希望ヶ丘への玄関口として美しい山、辻ダム、山上ダムがあり、一歩足を山へ向けると心落ち着く美しい風景が広がります。野洲市民の憩いの場としてもっと利用してほしいし、山林のリニューアル事業の急速な進展を望みます。
T自治会	学校教育の中で自然を守ることの大切さを教えることが大切。小学生の場合は、問5に書いたような作文で生徒の意識を図り、中学生の場合、学校教育プログラムの中に河川・鎮守の森からのごみ回収を実際にやらせることが大切。きついこと、汚いことに耐える力養成。
O自治会	1、出来るだけ多くの地域の皆さんと共に河川周辺の清掃活動の推進 2、子ども達が川について興味を持ち、遊べる環境を作っていく
Y自治会	自然の恩恵にはいつも感謝していますが、それを守るために何をすればいいのかわかりません。個人の力は限られているので、勉強会などがあったら参加したい。

Q8. その他環境基本計画の活動全般について

自治会名

Y自治会	学区・環境委員2名、暑い真夏にも頑張っています。感謝申し上げます。
K自治会	何が問題なのかをはっきりし、その為には何をアクションすればよいかを示して、皆で取り組む組織作りが大切。バラバラではダメ
T自治会	子供向けの弁当（料理）を作してほしい
O自治会	全国的に自然環境は行政も取り組んでいます。野洲市においても関係者一同頑張っておられることと思います。私の場合、そんな皆様に意見を申し上げる立場にございません。今思うことは、もっともっと勉強をして少しでも自然をよいものにする為に役立ちたいと、今少なくともそんなことを考えています。
I自治会	現状ではどこの集落も川に水が無く、暗渠化されて道路も車中心の生活優先です。それぞれの立場で環境に対し関心を持ってもらう啓発活動など一層続けてほしいと思う。
K自治会	ヨシ群落の再生活動はびわ湖岸ではよい運動とは思いますが、集落周辺の河川では、ヨシやマコモが繁茂し、大雨のときなど水流が阻害されると共にごみがヨシの手前に堆積し、大変困っている。
T自治会	当地先は田園地帯ですが、自動車による交通が多く不法に物を捨てる人が後を絶ちません。農地や道路に捨てないようにする方法はないでしょうか？
T自治会	・国道8号線より琵琶湖岸道直線（直通）道路を整備する。（2本位） ・JR沿岸の市街化促進 ・山と湖は市民の「いいい」の場として活用できる場所の拡充 ・地球温暖化に対する対応を一日も早く考え、進めよ。
T自治会	行政としては各種技術をもっと勉強して、効率よく環境改革を行うことや一般には知られていない技術やシステムを導入することをもっと心掛ける必要があると感じている。

■アンケート様式（子ども会）

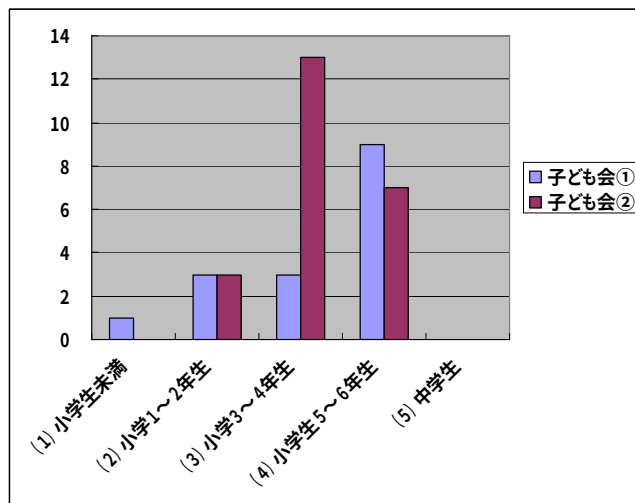
■家棟川こども学習船 アンケート（児童：〔父兄等の協力をお願いします。〕） 解答欄の該当する番号を○印で囲んでください							
属性	1. 性別	① 男性	② 女性				
	2. 学年	① 小学生未満	② 小学1～2年生	③ 小学3～4年生	④ 小学5～6年生	⑤ 中学生	
	3. 地域	① 市内	② 市外	③ 他府県（ 府・県 ）	④ 国外(国名)		
	お家のお仕事	① お勤め	② 農業	③ 林業	④ 漁業	⑤ 商業	⑥ その他
情報	5. このイベントを何で知りましたか	① 市の広報	② 市のHP	③ 友人・知人	④ 会のニュース	⑤ 自治会	⑥ その他
ニーズ	6. このイベントで、何がしたいですか？（2つまで）	① 川の勉強	② 川で遊ぶ	③ 友達を作る	④ 川に触れる	⑤ 自由研究	⑥ その他
	7. このイベントは、何回目の参加ですか？	① 初めて	② 2回目	③ 3回目	④ 4回以上		
関心度	8. あなたの関心ごとについて						
	1) 日頃勉強以外どんな事や物が好きですか？（2つまで）	① 昆虫・花・草	② 音楽・絵画	③ 本読み	④ まんが・ゲーム	⑤ スポーツ	⑥ その他
	2) 日頃勉強以外でどんな事がしたいですか？（2つまで）	① 山川で遊びたい	② 音楽をしたい	③ 手伝いをしたい	④ 工作をしたい	⑤ スポーツしたい	⑥ その他
	3) 自然の中で遊ぶとき気持ちがどうなりますか？（2つまで）	① ゆったりする	② 気が大きくなる	③ 楽しくなる	④ 夢中になる	⑤ 不思議に思う	⑥ その他
	4) 家棟川のことは知っていましたか？	① 知っていた	② 知らなかった	③ 聞いた事がある	④ 見た事がある	⑤ その他	
	5) 家棟川でどんなことを知りたいですか？（2つまで）	① 魚や水草の事	② 水の汚れの事	③ ゴミの事	④ 琵琶湖の事	⑤ 川の上流の事	⑥ その他のこと
満足度	9. 本日のイベントについて						
	1) 今日のイベントは楽しかったですか？	① 大変楽しかった	② 楽しかった	③ 楽しくなかった	④ いやになった	⑤ その他	
	2) 不満な事は、どのような事ですか？（自由記述）						
	3) 参加して新しい事を見つけましたか？	① 大いに見つけた	② 少し見つけた	③ 見つからない	④ 何も無かった	⑤ その他	
	4) それは、どのような事ですか？（自由記述）						
	5) 友達に教えた事がありましたか？	① 大いにあった	② ややあった	③ 特に無かった	④ 全く無かった	⑤ その他	
	6) それは、どのようなことですか？（自由記述）						
有効性	10. 今後のイベントについて						
	1) 今後も、このようなイベントに参加したいですか？	① 必ず参加する	② 誘われれば	③ 都合がつけば	④ 新しい企画なら	⑤ 参加しない	⑥ その他
	2) 今後どのような内容が良いでしょう？（自由記述）						
	3) 今日楽しんだ事が、今後遊びや勉強に活かれますか？	① 大変活かせる	② 多少活かせる	③ 殆ど活かせない	④ 活かせない	⑤ その他	
	4) 家棟川に関心持つには何が良いでしょう？（2つまで）	① 自然の観察会	② 自然の勉強会	③ 川や山の掃除	④ 自然を守る活動	⑤ 自然の体験	⑥ その他
	5) 家棟川のどのようところが好きですか？（自由記述）						
	6) びわ湖のためあなたは何か出来ますか？（自由記述）						

1. 性別

	子ども会①	子ども会②	計
(1) 男性	4	8	12
(2) 女性	12	16	28
計	16	24	40

2. 学年

	子ども会①	子ども会②	計
(1) 小学生未満	1	0	1
(2) 小学1～2年生	3	3	6
(3) 小学3～4年生	3	13	16
(4) 小学生5～6年生	9	7	16
(5) 中学生	0	0	0
(6) 無回答	0	1	1
計	16	24	40



- ・ 小学校中学年以上の参加が多かったが、今後の事業でも小学4年生以上を主な対象として想定している。
- ・ 野洲市においては、環境（ごみ）は小学4年生で学習する。

3. 家の仕事はなんですか？

	子ども会①	子ども会②	計
(1) お勤め	5	21	26
(2) 農業	0	1	1
(3) 林業	0	0	0
(4) 漁業	0	0	0
(5) 商業	3	0	3
(6) その他	7	2	9
(7) 無回答	1	0	1
計	16	24	40

- ・ 農林漁業に従事している家庭の子どもは、ほとんど見られない。

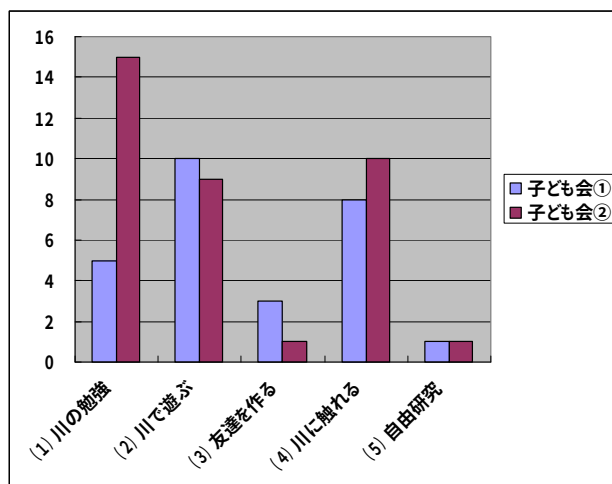
4. エコ遊覧体験は何回目ですか？

	子ども会①	子ども会②	計
(1) はじめて	14	8	22
(2) 2回目	2	13	15
(3) 3回目	0	1	1
(4) 4回以上	0	1	1
(5) 無回答	0	1	1
計	16	24	40

- ・ 熱心な自治会からの参加であり、過去に乗船した子どもも多かった。

5. このイベントで何がしたいですか？（2つまで）

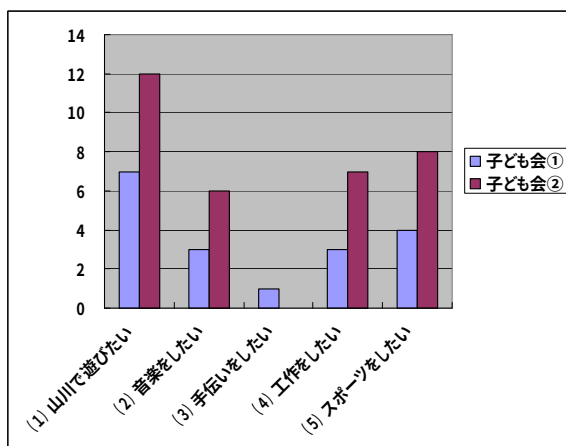
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 川の勉強	5	15	20
(2) 川で遊ぶ	10	9	19
(3) 友達を作る	3	1	4
(4) 川に触れる	8	10	18
(5) 自由研究	1	1	2
(6) その他	0	2	2
計	27	38	65



- ・ 自治会②では、学習目的の子どもも多かったが、基本的には川で遊ぶ・触れることを期待して参加している。

6. 普段どんなことをしたいですか？（勉強以外、2つまで）

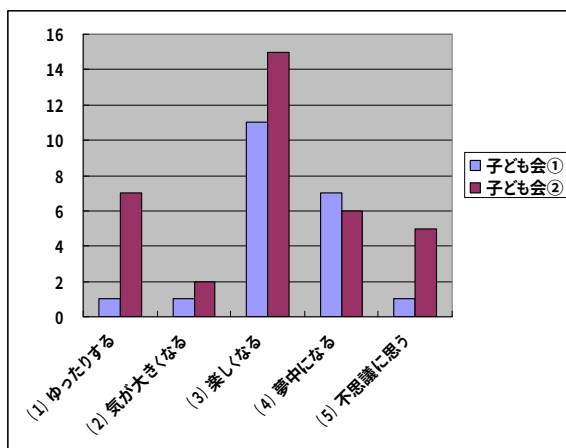
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 山川で遊びたい	7	12	19
(2) 音楽をしたい	3	6	9
(3) 手伝いをしたい	1	0	1
(4) 工作をしたい	3	7	10
(5) スポーツをしたい	4	8	12
(6) その他	0	7	7
(7) 無回答	1	0	1
計	19	40	59



- ・ 今回のアンケートでは、比較的アウトドア志向の子どもが多く見られた。

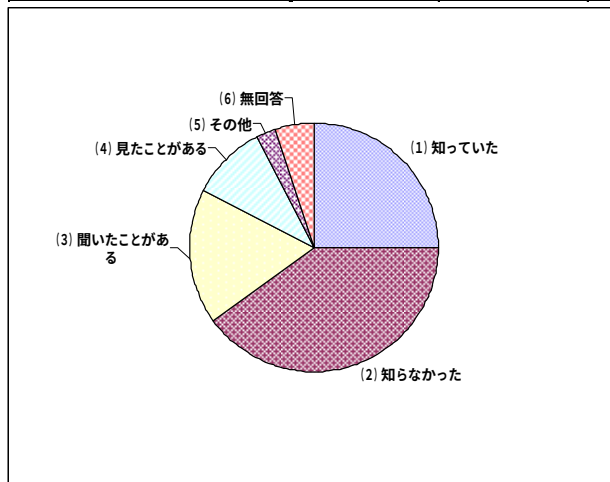
7. 自然の中で遊ぶと、どんな気持ちになりますか？（2つまで）

	子ども会①	子ども会②	計
(1) ゆったりする	1	7	8
(2) 気が大きくなる	1	2	3
(3) 楽しくなる	11	15	26
(4) 夢中になる	7	6	13
(5) 不思議に思う	1	5	6
(6) その他	0	2	2
(7) 無回答	1	0	1
計	22	37	59



8. 家棟川のことを知っていましたか？

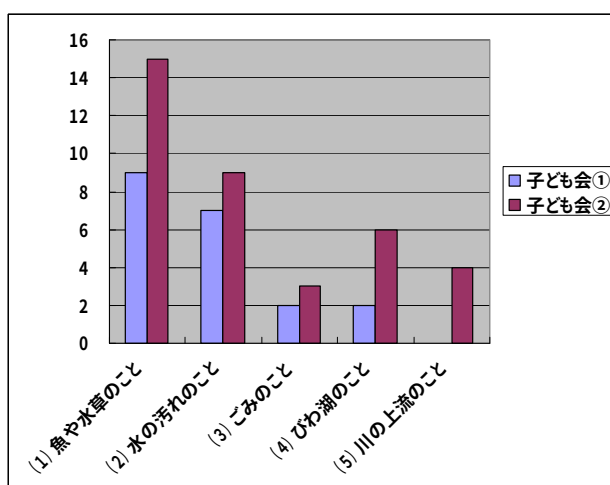
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 知っていた	0	10	10
(2) 知らなかった	10	6	16
(3) 聞いたことがある	3	4	7
(4) 見たことがある	1	3	4
(5) その他	1	0	1
(6) 無回答	1	1	2
計	16	24	40



- 大半の子どもたちが、家棟川のことを「知らない」または「聞いたことがある」程度だった。

9. このイベントで、どんなことを知りたいですか

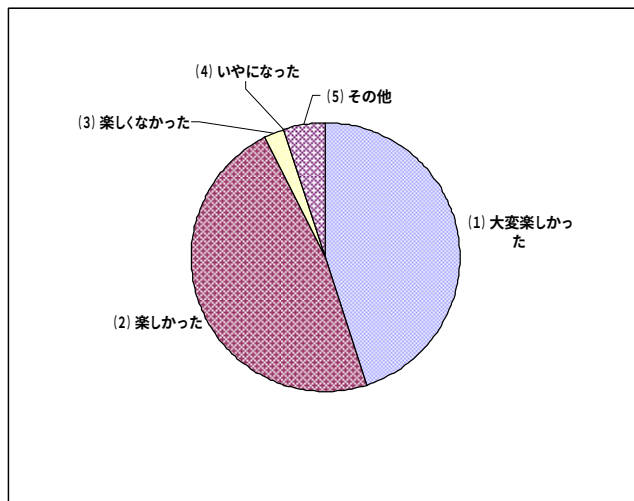
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 魚や水草のこと	9	15	24
(2) 水の汚れのこと	7	9	16
(3) ごみのこと	2	3	5
(4) びわ湖のこと	2	6	8
(5) 川の上流のこと	0	4	4
(6) その他	1	3	4
(7) 無回答	1	0	1
計	22	40	62



- 生きもの（生態系）および水の汚れに多くの関心が見られる。

10. 今日のイベントは楽しかったですか？

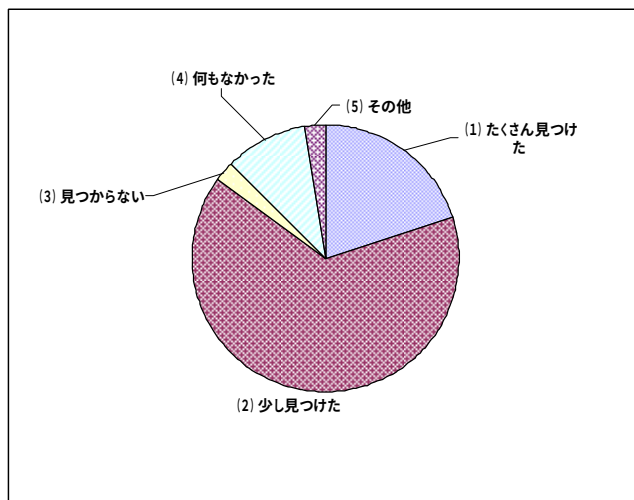
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 大変楽しかった	8	10	18
(2) 楽しかった	6	13	19
(3) 楽しくなかった	1	0	1
(4) いやになった	0	0	0
(5) その他	1	1	2
計	16	24	40



- ほとんどの子どもが楽しかったと回答した。

11. 参加して新しいことを見つけましたか

	子ども会①	子ども会②	計
(1) たくさん見つけた	4	4	8
(2) 少し見つけた	10	16	26
(3) 見つからない	0	1	1
(4) 何もなかった	1	3	4
(5) その他	1	0	1
計	16	24	40



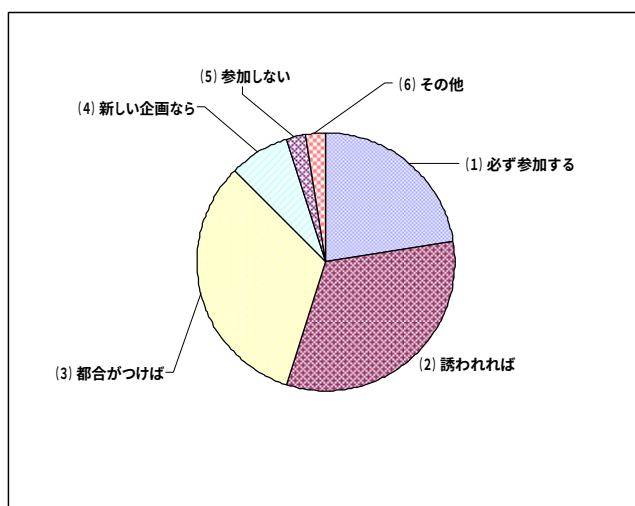
- 85%の子どもが、新たな発見を見つけることができた。

【具体的な内容】

- ・ 船を漕いだこと
- ・ 水の汚れのこと、水の検査
- ・ 外来種のタニシが多くいること、赤い卵を見たこと
- ・ 見たことの無い草などを見たこと
- ・ 魚がはねて舟に乗ってきたこと
- ・ 笹舟の作り方が思っていた以上に楽しかったこと
- ・ ウイナー!?（＝ガマの穂）を見て、初めて触った
- ・ 草木を新しく知った
- ・ 舟から見る景色がいつもと違う
- ・ ヨシ笛が聞けたこと
- ・ 家棟川がこれだけ汚かったこと
- ・ 自分たちの身近な川が、家棟川に繋がっていること
- ・ 地元の歴史や出来事

12. 今後もこのようなイベントに参加したいですか？

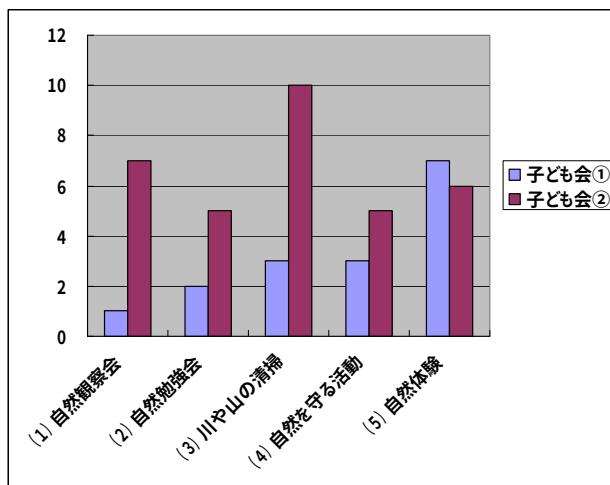
	子ども会①	子ども会②	計
(1) 必ず参加する	4	5	9
(2) 誘われれば	6	7	13
(3) 都合がつけば	5	8	13
(4) 新しい企画なら	0	3	3
(5) 参加しない	1	0	1
(6) その他	0	1	1
計	16	24	40



- ・ 87.5%の子どもが、今後もこのようなイベントに参加したいと考えている。

13. 自然に関心を持つにはどうしたらいいですか

	子ども会①	子ども会②	計
(1) 自然観察会	1	7	8
(2) 自然勉強会	2	5	7
(3) 川や山の清掃	3	10	13
(4) 自然を守る活動	3	5	8
(5) 自然体験	7	6	13
(6) その他	2	3	5
(7) 無回答	2	0	2
計	20	36	56



- ・ 子どもたちは、清掃活動や自然体験を通じて、自然への関心が高まると考えている。

14. びわ湖のために何ができますか？

- ・ こまめな掃除
- ・ ゴミを家に持ち帰ること
- ・ 清掃ウォークラリーに参加した
- ・ ゴミを捨てない
- ・ ポイ捨てしない。よけいな物を流さない
- ・ ゴミがあったら拾う
- ・ 道路やびわ湖のゴミをとる

びわ湖・家棟川 散在性ごみ実態調査

- 日 時 2010 年 12 月 4 日（土）13：00～15：00
 ■場 所 びわ湖あやめ浜 及び 家棟川
 ■参加者 県内企業 14 人（うち子ども 3 人）
 市民団体 14 人、市環境課 2 人 <計 30 名>

■概 略

びわ湖の水と地域の環境を守る会（代表：松沢松治）及びNPO法人家棟川流域観光船（理事長：北出肇）においてびわ湖岸・家棟川の清掃活動を実施した。

今回は、環境省モデル実証事業の一環として、評価指標として「ごみ量の可視化」を念頭に実施した。

■内 容

同団体では、例年、家棟川河口付近のヨシ原に漂流する散在性ごみを船上からボランティアで回収している。そのごみの量は感覚的に減少、特に大型の不法投棄ごみは減少しているが、その具体的データは採取してこなかった。

今回、NPOが実施する環境保全活動の事業化に向けた環境省のモデル実証事業に採択されたことから、その評価指標として回収ごみの可視化を念頭に実施したものである。

また今年度は、企業が同団体の実施する事業に助成及び社員参加を行っていることから、県内事業所から 14 人の参加があった。

■結 果

- 実施時間 1 時間 30 分（13：00～14：30） 分別 30 分
 実施区域 あやめ浜（L=約 200m） 及び 家棟川河口付近（L=約 500m）

回収ごみ量

可燃物 350kg / 不燃物 80kg

（内訳）

容器包装類	ペットボトル	10 袋
	空き缶	4 袋
	空きビン	4 袋
	その他	12 袋

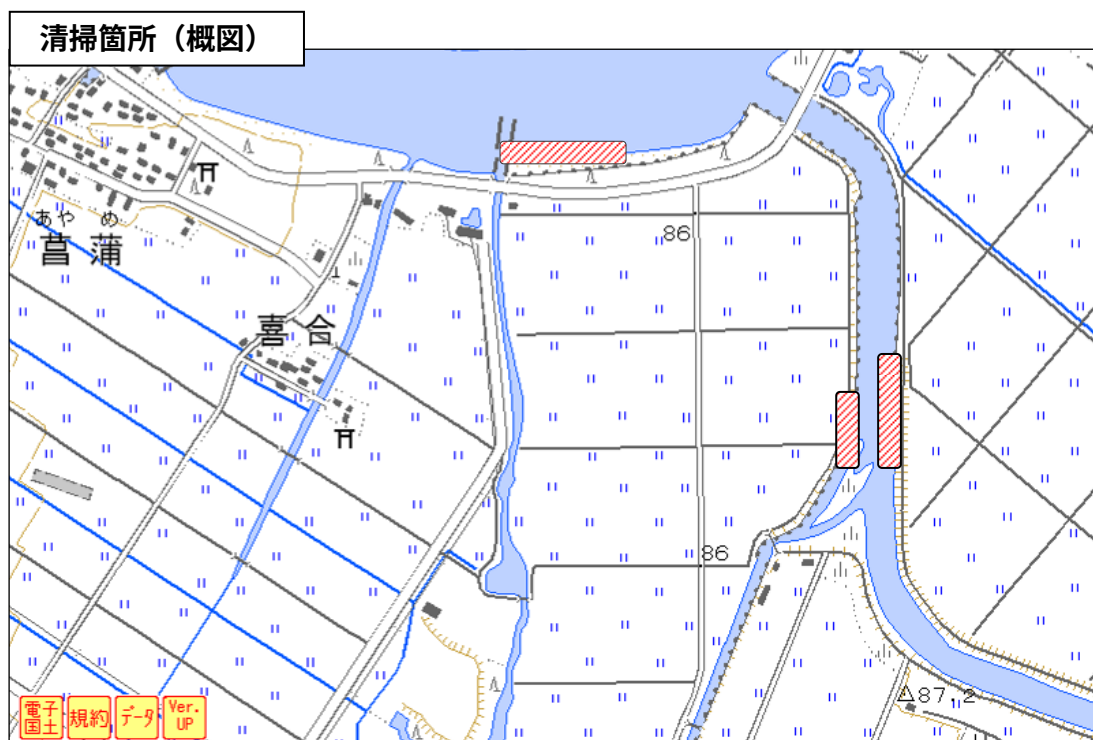
その他	木片	約 200kg
	タイヤ	2 本
	その他	35 袋

（その他の内訳）

袋、トレイ、カップ等

肥料袋、発泡スチロールの箱、炊飯器、ポリタンク、三角コーン等

※ 一般家庭から排出されたものとそれ以外に分別した後、集計段階で上記のとおり区分した。



地図出典：「電子国土」 URL <http://cyberjapan.jp/>

実施状況（写真）



あやめ浜





家棟川



家棟川（ヨシ原内の漂流ごみ）



家棟川（堤防）



回収ごみ（全景）



集合写真

第4章 記録資料

『環境キーパーソンファムツアー・環境専門家との意見交換会』

2010年12月20日

琵琶湖ホテル 16:30～18:00

知事が訪中したとき、中国の国家旅遊局長が、滋賀県には、琵琶湖の自然景観そのものに加え、琵琶湖の環境保全に長年取り組んだ経験があり、その経験こそが、中国人にとっての「学び」となる観光資源であると指摘された。

そこで県の招聘により、政府の職員や旅行業者が来県されて、意見交換会が開催された。

中国側

中国国家環境保護部弁公庁総合処処長

中国国家環境保護部国際合作司亜州処職員

中国－ASEAN環境保護協力センタープロジェクト職員

湖南省環境保護庁人事教育処調査員

日本側

滋賀県商工観光労働部観光交流局 参事 司会

NPO法人 家棟川流域観光船 理事長

滋賀県琵琶湖再生課 副参事

滋賀県温暖化対策課 参事

滋賀県農業経営課 課長補佐

最初に、NPO 法人理事長がプロジェクターを使って、家棟川エコ遊覧船について、20分説明をして、質問や意見交換をした。

ゴミはどうなったか、行政の支援はどうか、経費はどうしているのか、乗船者の数は、体験的環境学習としてセミナーなどより良い……

など質問や意見が出され、参加者はこの取り組みが素晴らしいと評価してくれた。

他に、琵琶湖保全や農業などが質問にでた。

交流会 18:30～20:30

副知事や、びわこビズターズビューロー会長、中国の旅行業者、大阪総領事夫人（中国国際旅行社日本代表取締役会長）など40名余りの参加。

‘環境観光キーパーソンファムツアー’の実施について

滋賀県観光交流局

◎趣旨および目的

2009年11月に中国北京で実施した知事観光トップセールスにおいて把握した、中国人の訪日旅行ニーズの変化、多様化をふまえ、環境の「学び」を滋賀県オンリーワンの観光資源として発信し、先進地視察をはじめとする旅行を誘致することを目的とする。

中国の水環境に関する専門家、環境のキーパーソンの方にその真の価値を理解いただき、その影響力により滋賀県を発信してもらう効果をねらい、旅行商品を造成される旅行会社の方々とともに招請し、滋賀県の環境観光素材を体験いただくもの。

◎ツアーの内容

- 招請時期 2010年12月18日（土）～21日（火）
- 招請人数 10名（北京6名、湖南省4名）
- 招請日程 3泊4日
- 事業内容 ①知事による湖上での環境観光セミナー
 ②琵琶湖の環境をテーマにした施設見学、職員との交流
 ③川端(カバタ)、海津など、水と人々の暮らしが調和した景観、
 水に特化した観光資源の見学、住民との交流等
 ④環境関連企業視察、環境専門家との交流会等
 ⑤県内観光業者との商談会、交流会
 ⑥近江米、近江牛、湖魚などの地元特産物、環境こだわり農産物（減
 農薬、減化学肥料農産物＝安全・安心の食材）によるおもてなし



（奥琵琶湖竹生島）



（嘉田知事と邵琪偉局長との会見）

『環境キーパーソンファムツアー・環境専門家との意見交換会』

日時：2010年12月20日（月）

16時30分～18時

場所：琵琶湖ホテル



中国側出席者：中国国家環境保護部および湖南省環境保護庁等において
環境保護政策に従事する職員

京阪神地域の旅行社・旅行記者招聘事業に伴う

湖南地域「初夏の見どころ」感想集約

実施主体 湖南地域観光振興協議会

実施日時 2010年7月22日

参加12社(合計15名)

トラベルニュース社
 (株)旅行新聞社
 ホスピタリティ研究所 エイチ・ワン
 休暇村 大阪センター
 アミューズ
 ほっと兵庫編集室
 フリーアナウンサー
 旅行作家
 (社)びわこビジターズビューロー
 JTB西日本国内商品事業部
 JTB西日本交流文化部
 (株)農協観光 大阪仕入センター



1. スポット講評

【家棟川エコ遊覧船】

(評価・感想)

- ・ すごく静かで、お話も聞きやすかった。10名ぐらいが丁度良い。
- ・ さすがに真夏は暑いですね・・・でも、春や秋はオススメです。
- ・ ゴミを減らすために始めたという語り部さんのお話に感動した。
- ・ 漕ぎ手の方のお話良かったです。環境に対する真摯な姿勢が印象的でした。
- ・ ゆったりしていて、心が和む。船頭さんの話も、とても良かった。
- ・ 当日の気温よりも熱いメンバーのみなさまの熱意が伝わってくるひとときでした。
- ・ 年配の船頭さんはみなさん地元の方とのことで、穏やかな飾らない雰囲気はほんとに寛ぐことができました。操船は重労働だと思いますが、ぜひ、昔の暮らし、川とのかかわりなどを、ゆったりした土地の言葉で紹介していただけたらと思います。
- ・ 水郷めぐりのようにもっと定着化させ、環境学習を続けていただきたい。
- ・ 普段、なかなか体験できないので、貴重な経験になると思います。エコが大切だという事を肌で感じられる。

- ・ ゆったり、とてもいい空間と、いい時間を経験させていただきました。「環境」をダイレクトに考える場として、「語り」はとても大切。
- ・ 観光を通じて、環境について学ぶこともできる地域だと思います。子どもたちは勿論ですが、大人にも是非力を入れて、伝えていってほしいです。
- ・ 緑豊かな自然も売りですね。とってもいいと思います。久しぶりにのどかで、緑のセラピーを。よかったです。いくらでも活かせるものが沢山あるようです。
- ・ 観光しながら、環境を考えることのできる地域であることをあらためて感じました。家棟川、そのものの川の表情、堤防のたたずまい、マコモやヨシの姿……。この「風景」に、船頭さんをしてくださった方たちの「語り」が加わって、まことに豊かなひととき……。これを多くの人に知らせたいと思います。水の音、櫓の音、魚の跳ねる音、マコモの葉がこすれる音……。そういうものに耳を傾けさせてみる……。

(知名度・穴場)

- ・ 大変楽しく、貴重な体験をさせていただきました。恥ずかしながら知らなかったところが多く、もったいなかったと思います。
- ・ 恥ずかしい話ですが、まだまだ知らない素材、しかも素晴らしいものがあると思い知らされた。団体商品で活用できる観光素材をもっと教えてほしいです。
- ・ こんなに見どころが盛りだくさんあるとは思いませんでした。良い機会を与えてくださり、お礼申しあげます。

(ターゲット)

- ・ エコに興味を持つグループなら良いと思います。
- ・ 教育旅行等、学習的な面を持つ団体向けです。びわこの方にも出られれば、なお良いです。ただし、バス乗降・駐車場所の事前案内が必要。
- ・ 頭に「エコ」や「地域」など、一般の観光旅行ではなく、何かの目的を持った特定の団体向けが良いと思います。
- ・ 全般的に学習中心の学生団体向けかなあという印象です。首都圏の教育旅行担当に投げておきます。

(集客・プラン提案)

- ・ 体験学習に良い。これだけでなく、何かとのセットにしたい。
- ・ 現在は貸切船のみ、ということでしたが、今後、週1回でも、誰でも参加できる定時便の運行をしていただくと、身近な体験として媒体での紹介もしやすくなります。
- ・ 船上からの風情や眺めを愉しませつつ、飽きさせず、楽しい気持ちでエコを考えさせる演出の工夫も必要では、と感じました。
(たとえば船内で紙芝居をしたり、船の天井に川の新旧写真を並べてエコ写真館にしたり?)
エコ語り部のみなさまの今後の取り組みを楽しみにしております。
- ・ ロケーション等は抜群。乗り場と定期便の問題がクリアできるか？

エコにもっと振って、ゴミ拾いするとか、水（質）を見るなどを加えても面白いと思います。

（連携オプション・情報発信）

- ・ 一般客の目線で率直に申しあげますと、テーマごとに知りたいのではないのでしょうか（パンフレット等の情報の整理）。
花の見どころは、通年、人気があり、また夏ですとファミリー（3世代も）向け情報が広域でほしいところだと思います。いろいろなものが多すぎて、焦点が絞れないともいわれますが、それが滋賀の良いところだと思います。
- ・ （湖南地域）全体を通じて、「素材のみ」を紹介するのではなく、歴史・時代背景などをハッキリさせ、ストーリーを組み立てて案内していただくと、より楽しく興味深く見学できると思いました。4市のつながり、位置関係、滋賀県内の位置、歴史上の役割なども明確にいただくと嬉しいです。道（車・アクセス）で繋ぐだけでなく、つなぐ意味を楽しく教えていただくと、次は続きをまわってみたくなるのではないのでしょうか。
- ・ 色んなテーマに添った素材の提供希望。（例）エコ、食、寺（特別拝観）、体験、見学
- ・ 「地元再発見」「地元の名所」など、地域で大切にされてきた、様々な（観光）資源を、広く、特定の方々に訴えるのがいいかなと思います。
- ・ 広い田園地帯（特に中主・守山）は、見ているだけで心が晴れ晴れとしてきます。関西では、なかなか、ああいう広がりを持つ田園は少ないので、田園～近江平野～をインプットさせるようなことは考えられないのでしょうか。

（趣旨説明）

- ・ とても良い取り組みだと思います。目的などはっきり伝えてからの遊覧の方が意味ある体験になると思います。
- ・ もう少し具体化して商品化したい。来る前に話を聞いて、船に乗ったほうが、見方も変わると思う。
- ・ 最初に説明を聞いて舟に乗れば、意味が良く分かったと思います。しかし、自然は強い。この良さを多くの方に体験してもらいたいです。

年月日	出席者	議題等	場所	備考
2010/7/23	地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 5名 滋賀県 3名 野洲市 1名	[第1回 ミーティング] 第1回連絡会の調整など	コミセンひょうず	報告書
2010/8/2	NPO役員 4名	採択事業の推進について	事務所	
2010/8/5	全国支援事務所 1名 アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 2名 野洲市 1名	[第1回連絡会] 家棟川エコ遊覧視察	家棟川 菖蒲自治会館	報告書
2010/8/18	地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 4名 滋賀県 1名 野洲市 3名	[第2回 ミーティング] 事業の全体像 今後のビジョンなど	コミセンひょうず	報告書
2010/9/5	NPO役員 3名	環境学習船 試行実施 子ども会 16人参加	家棟川	第3章 調査資料
2010/9/6	NPO役員 4名	事業の全体像 今後のビジョンなど	事務所	
2010/9/10	きんき環境館 1名 NPO役員 3名	内湖視察	野洲川北流跡 (内湖)	
2010/9/15	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 4名 滋賀県 3名 野洲市 3名	[第3回 ミーティング] 専門家の協力要請 事業目標値について	コミセンひょうず	報告書
2010/9/30	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 4名 滋賀県 1名 野洲市 2名	[第4回 ミーティング] テストマーケティングの検討	コミセンひょうず	報告書
2010/10/3	NPO役員 4名	原価計算などについて	事務所	
2010/10/7	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 1名 NPO役員 4名 野洲市 4名	[第5回 ミーティング] テストマーケティング詳細決定	コミセンひょうず	報告書
2010/10/13	全国支援事務所 1名 アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 2名 野洲市 1名	現地視察 計画内容の助言	家棟川 あやめ荘	
2010/10/23	NPO役員 3名 野洲市 3名	野洲川でのエコ遊覧船試行実施	野洲川河口部	
2010/10/24	NPO役員等 4名	環境学習船 試行実施 子ども会 24人参加	家棟川	第3章 調査資料
2010/11/1	NPO役員 4名	テストマーケティングの詳細	事務所	
2010/11/12	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 5名 滋賀県 1名 野洲市 4名	[テストマーケティング]	家棟川 あやめ荘	第3章 調査資料
2010/11/13				

年月日	出席者	議題	場所	備考
2010/11/19	きんき環境館 1名 NPO役員 2名	事業メニューごとの コスト・集客見込みについて	事務所	
2010/11/26	全国支援事務所 アドバイザー委員 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 2名 野洲市 1名	[第2回 連絡会]	地球環境パートナー シッププラザ	報告書
2010/12/2	NPO役員 4名	テストマーケティングおよび 連絡会で出された課題検討	事務所	
2010/12/4	NPO役員 4名 船頭 6名	船頭講習会	菖蒲漁港	
2010/12/4	NPO会員 14名 協賛企業 14名 野洲市 2名	[清掃活動]	家棟川 びわ湖岸	第3章 調査資料
2010/12/14	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 1名 きんき環境館 1名 NPO役員 4名 滋賀県 3名 野洲市 3名	[第6回 ミーティング] 各プランの実証(員数計算)	コミセンきたの	報告書
2010/12/24	きんき環境館 1名 NPO理事長 1名 野洲市 1名	事業計画 役割分担表について	野洲市役所	
2010/12/29	NPO役員 2名 野洲市 1名	プラン実施マニュアルについて	事務所	
2011/1/6	NPO役員 4名 野洲市 1名	諸課題の検討	事務所	
2011/1/12	アドバイザー委員 1名 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 2名 滋賀県 3名 野洲市 3名	[第7回 ミーティング] 売り上げ目標の実現可能性 ネットワーキングについて	コミセンひょうず	報告書
2011/1/27	NPO役員 2名 野洲市 1名	計画書内容検討	事務所 野洲市役所	
2011/1/30	NPO会員 16名 野洲市 1名	事業計画説明	あやめ荘	
2011/2/2	NPO役員 3名	他の屋形舟や観光施設の視察 計画の仕上げ	彦根市 長浜国民宿舎	
2011/2/3	アドバイザー委員 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 3名 野洲市 1名	計画の仕上げ	近畿地方環境事務所	
2011/2/16	きんき環境館 2名 NPO役員等 5名 野洲市 3名	[プロモーション学習会]	コミセンやす	
2011/2/21	全国支援事務所 アドバイザー委員 地方環境事務所 2名 きんき環境館 2名 NPO役員 2名 野洲市 1名	[第3回連絡会]	地球環境パートナー シッププラザ	報告書
2011/3/4	NPO役員 4名	連絡会議での課題解決 計画確定	事務所	

開催日時：2010年7月23日

出席者：地方環境事務所2名、きんき環境館2名、NPO役員等5名、
滋賀県3名、野洲市1名

協議内容：第1回連絡会の調整など

■ 議 事

○ 事業の概略（近畿環境事務所から説明）

当事業は補助事業ではなく、環境と経済の両立を図るモデル事業計画の策定業務。

平成21年度から実施されているもので、今年度は全国約50団体からの応募があった。その中で、各地方2団体ずつ計8団体が採択された。近畿は、家棟川流域観光船と五環生活（代表：滋賀県立大学 近藤隆二郎准教授）の2団体。

家棟川エコ遊覧に対する審査委員の意見（評価点、課題）は、別紙資料のとおり。

【今後の予定】

8月、11月、2月にそれぞれ連絡会が開催される。（後半2回は東京での開催。旅費は請負事業費で負担）それぞれ全国パートナーシップ組織であるGEOCとアドバイザー委員（企画審査委員）が参加され、事業の進捗などを確認される。

それ以外に、月次報告（メール報告）が必須であるほか、9～11月の間にアドバイザー委員が現地を視察される予定。

2月の連絡会（最終審査）を経て、成果物である事業計画書（A4版100頁程度）を環境省へ提出することとなる。

○ 第1回連絡会議について（近畿環境事務所から説明）

年間3回予定されている連絡会議の第1回目。キックオフ会議として位置づけられる。会場は、それぞれの地方環境事務所が原則であるが、近畿では事業主体の地域で実施。

- ・ 日 時 平成22年8月5日（木） 13時～15時（決定）

- ・ 場 所 家棟川～あやめ荘

（調整中）現地視察が可能であればエコ遊覧に乗船後、事業説明を行う。

- ・ 内 容 詳細は別紙のとおり。

口頭プレゼンでの事業説明が中心となる。（発表者：理事長）

- ・ その他 採択時の審査会、当連絡会及び自らが抽出した課題について、
対応策を8月末までに提出する必要がある。

○ 家棟川エコ遊覧に対する意識共有（きんき環境館のコーディネート）

【事業の目的】

NPOのミッション（使命、組織設立の目的）

- ・ 里山、森、川、農地、びわ湖の環境を保全する。

- ・ 地域経済（農林漁業）の活性化
- ・ 船頭として地域の高齢者の就労先の確保

家棟川の地域特性

- ・ 野洲地域の約8割の河川が家棟川に合流する。
↓
- ・ 水を通じ、里山、森、まち、農地、湖と密接に関連している。
↓
- ・ 家棟川河口付近のごみ問題、水質問題は、まちでの生活による環境負荷の鏡といえる。

【課題の抽出】

「できること」「しなければならないこと」に分けて付箋に書き出し。

▼できること、できそうなこと…団体の強み、独自性。収益に繋がる可能性がある。

- ・ 船頭が環境や地域の歴史について、語ることができる。
- ・ 環境学習として位置づけすることができる。
- ・ 遊覧体験だけでなく、湖魚食を提供することができる。（食文化の体験）
- ・ 研究者との連携が可能
- ・ 他団体との連携により、フォーラムなどの開催ができる。
- ・ 収益の一部を環境学習に充てることができる。

▼しなければならないこと…課題

- ・ 家棟川、びわ湖の魅力をPRする必要がある。（PRすることができる）
- ・ 市民の水環境に対する関心を高める必要がある。
 - CMや広報を積極的に行う必要がある。
 - 企業のCSR活動や他のイベントとも連携する必要がある。
- ・ 収益性を高める必要がある。
 - 舟の維持管理（管理費、修繕費）を行う必要がある。
- ・ ハード面の整備（家棟川の浚渫、大型バスの駐車場整備）を行う必要がある。

○ 課題の対応策（方針）について

第1回連絡会議で、一定の方針を出す必要がある。（詳細については、8月末までにまとめて提出）

【現時点で確認された方針】

審査会で指摘された成果の可視化や協力者との連携について、アンケートによるニーズ（需要）調査を実施するとともに、事業趣旨の周知啓発とPRを行う。

開催日時：2010年8月5日

出席者：全国支援事務所1名、アドバイザー委員1名、地方環境事務所2名、
きんき環境館2名、NPO役員等2名、野洲市1名

協議内容：家棟川エコ遊覧視察

■ 議 事

○ 今回の連絡会の主題（テーマ）

本事業の全国事務局を担う地球環境パートナーシッププラザ（GEOC：環境省と国際連合大学が共同運営する環境情報センター）と、アドバイザー委員（＝採択時における審査委員）が、事業の方向性や採択時に提示した課題について、事業実施主体との意見交換を行う。

家棟川エコ遊覧事業については、体験型環境学習でもあることから、現地視察の後に意見交換を行った。

○ 現地視察

家棟川エコ遊覧体験：比留田～家棟川河口（下り片道のみ：約2.5km）

○ 意見交換の内容

NPO 法人家棟川流域観光船の北出理事長から、事業の概要説明を行った後、意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

【概要説明に対する感想・意見】

（アドバイザー委員）

- 内容を聞いていて非常に盛りだくさんな印象を受けた。広く市民に伝えるのならば、“わかりやすくする”ことが重要。
- エコ遊覧事業の将来像（ビジョン）は、どのようなものか考える必要がある。例えば、市内の自治会を中心にPRしていくのか、逆にエコツアーとして市外の観光客を呼び込んでいくのか、など。
- 本事業としては、5年後を目処としたビジョンをもとに、3年程度で事業化（黒字化）できる計画策定を想定している。
- ビジョンについては、3つの視点があると感じた。①地域の良さを復活（再認識）する。②自然環境の保全。③ひとづくり（環境学習）。これらについて、優先順位や段階的なステップアップを考えてはどうか。

（全国支援事務所）

- 本事業の内容は、「事業計画書を作ること」であるので、ビジョンや目標数値などを盛り込むことはもちろん、ヒト・モノ・カネ・情報が循環するような計画を考えて欲しい。

- 例えば、「大型バス1台分の受入れを可能にする」とすれば、「舟が5艘必要」であり、そのための「投資には××百万円」必要、その「減価償却には×年かかる」などといった収支計画も計画書には盛り込む必要がある。
- 計画書策定の様式、資料などは、近いうちに提示したいと考えている。ただしあくまで参考であり、任意様式での作成で問題ない。

【事業規模について】

- （委員）事業を拡大するとなれば、将来的に、専任の事務員を雇うことを考えているのか。事業規模は、どの程度を想定されているのか。
- （NPO）営利を目的とした場合、近江八幡の水郷めぐりのように年間4億円の売上げも可能と考えている。けれど急激な事業拡大は、体制が整わず長続きしない。
- （NPO）観光客も受け入れるが、市内の人に乗ってもらい、水環境が良くなることが本来の趣旨である。
- （委員）大事なことははっきりと認識し、「こんなはずじゃなかった」という本末転倒にならないようにして欲しい。
- （支援事務局）「持続可能な」事業は、本事業の趣旨でもある。「続く」事業を作って欲しい。

【マーケット分析について】

- （NPO）こちらとしては、午前中に舟に乗り、その後ついでに湖魚食を食べてもらうことを想定していたが、実際には、湖魚食が目的で、午後からついでに船に乗られるケースが多い。
- （NPO）風や夕立など気象条件を考えると午前中の方が安定しているが、ニーズとは噛み合わない状況。
- （NPO）価格について、市外の方は値切ってこられることが多い。
- （委員）リーフレットに時間限定で記載することにより、もったいつける（プレミアム感を出す）ことや、値段を高めを設定しておく（値切り分を算入しておく）ことも、ひとつの方法。
- （委員）一度にいろいろ変えることは難しいので、この事業でテストマーケティングを行ってもらえればと思う。例えば、価格メニューの設定として、湖魚食のついた豪華版、お手軽な安価版、環境学習版を提示するなど。
- （支援事務局）本事業は、「モデル実証事業」であるため、収益性があるという根拠として、テストマーケティングのほか、ニーズ調査やアンケート、ヒアリングなどを実施される必要がある。

○ 今後の動き

- 月次報告書の提出について
- 中小企業診断士など人材支援について、希望内容の取りまとめ（8月末）
- アドバイザリー委員をコーディネーターとして入っていただくことも可能。（この費

用は、きんき環境館が負担)

- 事業の課題とその対応策について取りまとめ（8月末）
- 11月に東京にて第2回連絡会を開催。その時点で計画書は約8割程度、形にしておいて欲しい。

○ 次回の会議

平成 22 年 8 月 18 日（水） 10 時～12 時 コミセンひょうず 1 F 会議室

（内容）

- 事業内容について、優先度や実施時期といった整理を行い、8月末までに提出する「課題とその対応策」をまとめる。
- 人材支援の必要性について協議する。

※参加は、近畿地方事務所、きんき環境館、NPO、滋賀県、野洲市の予定

開催日時：2010年8月18日

出席者：地方環境事務所2名、きんき環境館2名、NPO役員等4名、
滋賀県1名、野洲市3名

協議内容：事業の全体像、今後のビジョンなど

■ 議 事

○ 今回の概要

- ・ 事業の全体像を図式化することで、見える形にする。(全国事務局へ提出)
- ・ 事業を進めていくために、3～5年後のビジョンを明確化し、そのために必要な集客体制の整備やPRなどを検討していく。

○ 意見交換の内容

本モデル実証事業では、3～5年後に収益が見込めるよう事業計画を策定することを目的としている。そのための設備投資などのインシタルコストや運営面でのランニングコストを積算し、費用回収ができる事業規模を割り出した。

【現状】

舟×3艘（屋根付き×2、ガラス張り×1）

売上げ 60万円（H21年度）

乗船数 約900人（H21年度 補助事業分を含む。）

【ターゲットとなる顧客】（別紙「事業の概要」図を参照）

- ・ 環境学習、河川環境保全の啓発
→ 市内の自治会、老人会、子ども会、小学校（4～5年生）
- ・ エコツーリズム
→ 市外からの観光客（主に40～50代の女性客が多い）

【コスト計算】

- ・ 舟の追加購入…大型バス1台（40人程度）の受入れを可能としたい。
- ・ トイレの追加設置…女性客の集客には必要不可欠。できれば仮設でないもの。
- ・ 大型バスが駐車可能なスペース
- ・ 家棟川の浚渫…低水位時期でも運行可能としたい。

※ ただし、舟の購入以外はNPOのみで解決できる問題ではなく、費用も多額であることから、近隣市も交えた広域的な観光ルートに組み込むことで、対応したい。（トイレ…他所を使用、駐車場…遊覧中は回送）

舟… 1 艘（屋根付き） 75 万円程度（中古 30 万円～50 万円程度？）
維持管理（ペンキ塗り替え） 2 万円/艘（3 年に 1 回程度）
〃 （屋根シート張替え） 5 万円/艘（3～5 年に 1 回程度）

人件費（船頭）等を含みで、黒字化のためには、年間 500 万円程度の売上げが必要（主観的な概算）

【事業規模】

- ・ 環境学習
市内の自治会、小学校などを対象に売上げ 100 万円/年間をめざす。
 - ・ エコツーリズム
4,000 人/年間 ⇒ 売上げ 400 万円/年間
 - 一日あたり 40 人受入れ（4 艘稼動として計算）
 - 稼動期間 4～11 月（8 月除く）の 7 ヶ月間。月当たり 20 日間を想定
 - 風雨での運行中止（キャンセル）の割合 年間 2 割程度
 - 乗客 1 人当たり 1,000 円の売上げとして計算（実際には 1 艘あたり金額）
- ※ 年間 4,000 人以上の集客は厳しいため、それ以上の売上げを上げるためには、単価の値上げを検討する必要がある。

【集客の手法】

客を呼び込むためには、エコ遊覧だけでなく、複合的な魅力が必要。
→ 環境に関心のある客層だけでなく、歴史や景観、食に関心のある客を呼び込む。
→ 近隣市の観光地と連携し、エコ遊覧をメニューのひとつとして PR する。

エコ遊覧を魅力あるものにするために

- ・ プレミア感を出す（湖魚食弁当とのタイアップ）
市場調査（関心度調査）が必要ではないか。
知らない人は「湖魚」という名前から「川魚＝生臭い」というイメージを持たれる。興味を惹きつけるネーミングが必要。
- ・ JR 駅プラン
掲載無料、集客効果もある。
ただし、家棟川は駅からの交通手段がない、200 人/日程度の集客プランが対象。
- ・ 雑誌「るるぶ」
掲載無料。
ただし家族層が多い、次年度の掲載となる。
- ・ その他、アドバイザー委員からの助言を依頼してはどうか。
市場調査の手法や、テストマーケティングの内容など。

【その他の意見】

- NPOであるなら、収入源として会費や寄付、助成金、広告収入なども見込めるのではないか。
→ 単発の助成金などは、設備投資などには活用できるが、継続性がないため運営費には当てにできない。

○ 今後の動き

- 計画書の様式を後日送付するので、冒頭の団体概要部分の記入を始めてほしい。
(様式は別添。ただし、あくまで参考であり、任意様式で構わない。)

○ 次回の会議

平成22年9月15日(水) 13:30～ コミセンひょうず 1F会議室

(内容)

- 会議前に会費制にて湖魚食の昼食(アドバイザリー委員、ほか)
- テストマーケティングの内容検討



(ミーティング状況)

開催日時：2010年9月15日

出席者：アドバイザー委員1名、地方環境事務所2名、きんき環境館2名、
NPO役員4名、滋賀県3名、野洲市3名

協議内容：専門家の協力要請、事業目標値について

■ 議 事

○ 今回の概要

アドバイザー委員（専門：コミュニティービジネス）に、事業化の方向性などを相談するため、コンサルタントとして参加いただく。

今回の打合せでは、新規事業におけるビジョンの共有化と、目標値の設定を行った。

○ 意見交換の内容

まず事業の概要及び対象者（顧客）に対するアプローチ方法について、アドバイザー委員に説明した。（詳細省略）

【野洲の魅力】

その後、その情報を踏まえ、アドバイザー委員が中心となり「野洲・家棟川が持つ魅力」（＝シーズ）について、洗い出しを行った。

⇒ 別紙参照（野洲の魅力探し）

【顧客の需要】

引き続き、今度は逆の発想として、観光客が野洲に何を求めてくるのか。そのきっかけ（入り口、ニーズ）探しを行った。

- ・ 食べ物
 - 地元の人が「美味しい」というものを食べたい
 - 食べ物の説明、由来などを聞きたい
- ・ 舟
 - お年寄りには懐かしい、若い人には新しい乗り物
 - 水と親しみたい
 - 非日常的な体験

【独自性、競合情報】

上記のシーズ、ニーズの整理により、「食べ物（湖魚食）」「舟」が、やはりポイントとなることが、確認できた。それを踏まえ、県内で遊覧船を運航している事例を挙げ、家棟川エコ遊覧の独自性を浮かび上がらせた。

近江八幡水郷めぐり	彦根城	家棟川エコ遊覧
ネーミングが良い	彦根城がポイント	景観が良い
8,000 円/艘（8 艘体制）	1,500 円/人	作り物の景色ではなく、自然の川そのものが見られる
近江牛すき焼き（オプション） 3,800 円/食	1.2 万人/年の集客	船頭の生の声での語り
エンジン船もあるが、手漕ぎがメイン	顧客の年代層は、 60 代：50% 20 代：30%	湖魚食が食べられる
	周辺の料亭やお店などと提携している。	手漕ぎ舟
	環境に考慮し、電気式モーター船	

【連携体制の確認】

エコ遊覧事業においては、主体はNPOであるものの、各方面との連携が必要不可欠となる。そのため、お互いの関係性の確認を行った。

各主体が求める成果、目的

観光物産協会	NPO	自治会等	環境行政
びわ湖地域への訪問者増加	山～びわ湖の環境保全を行いたい	子ども会などでの環境学習	体験型環境学習のツール
「環境」を要素にした観光振興を行いたい（エコツアー）	農林水産物の販売促進	老人会などでの癒しを求めた懇親会	河川環境保全の啓発
			水と人とのつながりの啓発

○ 今後の動き（宿題）

- 計画書の様式に基づき、記入できるところまで（おおよそ①～⑤）を次回会議までに作成してくること
- 次回までに原価計算をしていくこと

○ 次回の会議

平成22年9月30日（木） 13:30～ コミセンひょうず 1F会議室

（内容）

- 商品メニュー、顧客ターゲットの検討

○ マーケティング用語集

• マーケティング

定義はさまざまであるが、一言で言うと「売れる仕組みづくり」のこと。単純な販売計画や営業計画ではなく、顧客満足度や企業の中長期的な計画も含まれる。「市場戦略」と訳される場合もある。

• シーズ

ビジネスの「種」のこと。企業がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」など提供できる商品、サービス、モノを指す。マーケティングでは、ニーズ志向（消費者志向）に対する、「生産者志向」として使われる。

• ニーズ

人間が生活を営む上で感じる「満たされない状態」のこと。生理的ニーズ（食べ物、衣服、安全など）・社会的ニーズ（帰属や愛情）・個人的ニーズ（自己表現、知識など）などがある。特定（具体的な）モノを欲する場合は、ウォンツと呼ばれる。「欲求」「需要」と訳される。

• ビジネスプランの要素

- ① 何を売るか。商品、サービス（Product）
- ② お金、収支、いくらで売るか（Price）
- ③ ニーズ調査、流通、どこへ・誰に売るか（Place）
- ④ どのようにPRするか（Promotion）
- ⑤ 受入れ体制、担い手、人、組織（Parson）
- ⑥ 目的、成果目標（数値）

※特に①～④を指して「4P」という。

• セグメンテーション

マーケティング環境分析の結果を踏まえて、不特定多数の人々を同じニーズや性質を持つ固まり（セグメント）に分けること。「市場細分化」。これにより、他社に対する優位性を築くことを目指す。

セグメント（細分化）のポイントは以下のとおり

- ① Rank（優先順位づけ）：顧客層を重要度に応じてランクづけしているか
- ② Realistic（有効規模）：そのセグメントで十分な売上高と利益を確保できる規模があるか
- ③ Reach（到達可能性）：セグメント化された市場の顧客に製品を的確に届けられ

るか

④ Response（測定可能性）：当該セグメントの顧客層からの反応を分析することは可能か

・ ペルソナ設定（ペルソナデザイン）

徹底したユーザ視点からニーズをつかみ、ユーザモデルを開発（発見）することを行う。ペルソナとは、企業が提供する製品・サービスにとって、最も重要で象徴的なユーザモデル（顧客像）のことで、ペルソナをベースにすることで、ユーザに強い影響を与えるツールのプラン・デザインが実現できる。

（別紙資料）

野洲の魅力探し！		自然	人
	●里山	・里山 ・三上山（近江富士の景観）	
	●田畑	・田園風景 ・魚の産卵場所	・ゆりかご水田の取組み
	●里		・古代から続く歴史 ・銅鐸 ・近江商人 ・昔は、湖魚の行商があった ・平清盛、祇王など
	●川	・川 ・ヨシのある風景 ・多様な植物や水生生物	・交通手段として舟が使われていた。
	●びわ湖	・びわ湖 ・白砂青松の砂浜 ・アユ、フナ、シジミなどの生きもの	・フナズシ
魅力を伝える『語り部』			

開催日時：2010年9月30日

出席者：アドバイザー委員1名、地方環境事務所2名、きんき環境館2名、
NPO役員4名、滋賀県1名、野洲市2名

協議内容：テストマーケティングの検討

■ 議 事

○ 今回の概要

事業化に向けた試行（テストマーケティング）を行うに当たり、対象となる顧客層（ターゲット）の設定及び商品メニューの検討を行った。

○ 意見交換の内容

【スケジュール】

9/30

↓

10/13

アドバイザー委員視察

↓

11/中旬

試行（テストマーケティング）11/20 ごろまで

11/26

第2回連絡会（東京）

【確認事項】

- ・ NPO内における事業計画作成の合意形成→中心メンバーが参画している。
- ・ 提供したいもの（シーズ）→食・舟・エコ（環境）

【試行内容の検討】

2グループに分かれ、ワークショップ形式で、試行（テストマーケティング）の内容を検討した。（内容は別添写真のとおり）

【試行内容の骨子】

上記、ワークショップの内容を踏まえ、以下のとおりの内容で試行を実施することとした。詳細については、次回の会議（10/7）で決定する。

- ・ エコ遊覧＋漁師のガイド付き湖魚食（対象：50～60代）
- ・ エコ遊覧＋湖魚食＋おしゃれスポット（対象：30代女性）

※ 親子対象の漁業体験の試行は、時間もなく寒い時期にもなることから、今回は見送ることとした。（時間的余裕があれば、アンケートを実施）

○ 今後の動き（宿題）

- ・ 次回の会議で試行（テストマーケティング）の実施要領を作成する。

○ 次回の会議

平成22年10月7日（木） 13:00～ コミセンひょうず 1F会議室

（内容）

- ・ 試行（テストマーケティング）の実施要領作成

○ マーケティング用語集

- ・ ビジネスプラン作成の流れ

- ① 事業目的の整理
- ② 企画・商品のアイデア出し
- ③ 顧客（ターゲット）設定、ペルソナ設定
- ④ 事業プランの精査（ブラッシュアップ）

※ 具体的内容とするためのポイント 7w2h

why（なぜ） / who（誰が） / whom（誰に） / what（何を） / when（いつ）
/ where（どこで） / with whom（誰と・ネットワーク） / how（どのように）
/ how much（いくらで）

- ・ テストマーケティングの方法

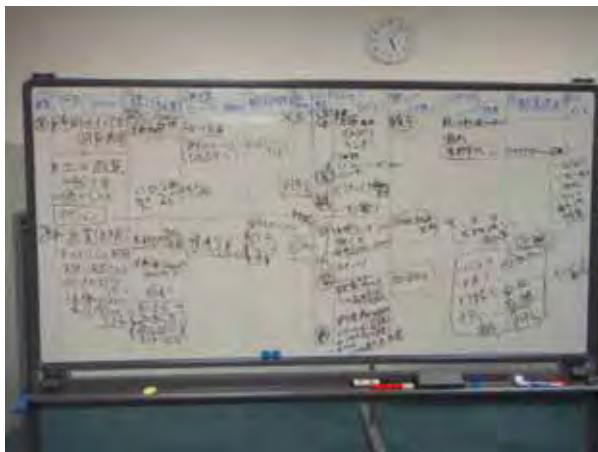
- ① PR試行型

新聞、チラシ、クチコミ、Web、ツイッター等

- ② アンケート、データ収集型

ターゲット層を想定したアンケート

（別添）ワークショップ写真



開催日時：2010年10月7日

出席者：アドバイザー委員1名、地方環境事務所1名、きんき環境館1名、
NPO役員4名、野洲市4名

協議内容：テストマーケティング詳細決定

■ 議 事

○ 今回の概要

事業化に向けた試行（テストマーケティング）の詳細について決定した。

○ 意見交換の内容

【前回会議のふりかえり】

- ・ エコ遊覧＋漁師のガイド付き湖魚食（対象：50～60代）
- ・ エコ遊覧＋湖魚食＋おしゃれスポット（対象：30代女性）

【今回の事業試行（テストマーケティング）で行う検証事項】

テストマーケティングで検証すべき事項は、下記の3つが考えられるが、今回は「提供メニュー」に重点を置いて検証を行うこととした。

① 対応力

輸送の問題などがあるが、従来の実績や今後の事業展開にあたり、参加規模を考慮しながら検証可能

② 提供メニュー

今回のテストマーケティングで絞り込んだ対象から意見を聞く

③ 対象顧客への効果

リピーター獲得のための需要調査（ニーズリサーチ） これも事業実施後からでも検証可能

【テストマーケティング広報手段】

各対象（ターゲット）の主な情報源（ツール）は？

- ・ 30歳代女性 TV（37%）
- ・ 50～60歳代 新聞（60%）

情報発信手段（ツール）

さまざまな方法があるが、今回は試行実施までに時間がないことから、モニター方式を採用。募集方法は「周知計画」参照

※ TV、ラジオ、新聞等の原稿〆切りは通常90日前が大半

※ モニター方式のメリットとして、①提供メニューへの意見は苦情（クレーム）では

なく、改善案として今後のノウハウに活かせる。②モニターがクチコミによる情報発信者（オピニオンリーダー）になる可能性がある。以上2点が挙げられる。

【試行実施までのスケジュール】

別紙参照（※第3章に添付）

【試行の概要】

別紙参照

30歳代独身女性対象の「おしゃれスポット」は、情報提供のみとする。

○ 今後の動き（宿題）

- ・ モニター募集の手配
- ・ サンケイリビングへの掲載手配
- ・ モニター参加者への案内発送
- ・ NPOにおいて、試行当日の質問項目の事前準備

○ 次回の会議

未定 試行結果の状況を踏まえ、時期を決定

○ マーケティング用語集

- ・ 情報発信手段

↑ コスト ↓	低	駅前キャンペーン、協力機関との連携	営利は不可、観光情報の提供ならOK
		ツアー会社との連携	費用は0円 ただしツアー会社の都合に合わせる必要あり。
		駅中キャンペーン	費用：30万円/日
		新聞折込み、雑誌掲載	費用：50万円/件～
	高	TV、ラジオ、車内ポスター（中吊り）	費用：200万円/件～

※新聞折込みやTVなど、マスメディアは効果が期待できるが、その反面、来客数に対応できずに苦情（クレーム）が来る可能性も。

(別紙資料)

家棟川エコ遊覧 事業試行（テストマーケティング）概要

目的：提供メニューに対し、対価を払っても良いと言ってもらえるかどうかを検討する。

対象：①30歳代独身女性 16人（舟2艘分） ②50～60歳代女性 24人（舟3艘分）

日時：①平成22年11月13日（土） ②平成22年11月12日（金）

予備日：11月20日（土）

予備日：11月17日（水）

参加費：①無料（お土産つき）

②ひとり2,000円（お土産つき）

※①②ともに野洲駅までの交通費（実費）は、NPOで負担

時 間	内 容	備 考
10:00	野洲駅集合 タクシー借上げ 家棟川河口（乗船場）へ移動	
10:30～ 11:30	エコ遊覧 河口部～野田大橋（片道約2km）の往復 地元船頭の語り ・ 家棟川の歴史 ・ 川、びわ湖のくらし ・ 家棟川にすむ生きもの ……など	通常価格 @1,300円/人
11:30	あやめ荘（民宿）へ移動 送迎：あやめ荘ワゴン車	
12:00～ 13:00	昼食 【湖魚料理】懐石風定食 漁師から、びわ湖の幸や固有種についての説明 メニュー ・ フナの子造り ・ コイの甘煮 ・ たてぼし豆 ・ アユの甘露煮（田舎炊き） ・ エビ豆 ・ ワカサギのてんぷら ・ シジミの味噌汁 ・ フナズシ ※漁の状況によってメニューは変わる可能性があります。	通常価格 @4,000円/人～ 対象①②とも同じ メニューを提供し、 意見を伺う。
13:00～ 14:30	意見交換 場所：あやめ荘別室	進行：上野さん 質問項目は、NPO で事前に準備
15:00	野洲駅着 送迎：あやめ荘ワゴン車	

開催日時：2010年11月26日

出席者：全国支援事務所、アドバイザー委員、地方環境事務所2名、きんき環境館2名、NPO役員2名、野洲市1名

協議内容：事業中間報告（第2回連絡会）

■ 議 事

○ 今回の概要

採択された8団体による中間発表。2グループに別れ、プレゼン方式で発表。1団体あたり発表時間10分、意見交換25分。

○ 連絡会の内容

【家棟川流域観光船】

北出理事長から別添パワーポイント資料を映像資料として事業概要を説明

（アドバイザー委員からの補足）

- 今後の展開に向けたポイントを4つ
 - ・ セールスポイントは船頭の語り
 - ・ 事業の成果評価をどのように見せていくか
 - ・ 価格設定
 - ・ 活動実績があることが強み
- ボランティアとして活動を開始されたものであるが、今回の事業に採択されたことで、事業化に向け団体内での意識が向上している。
- それに伴い、事務局体制の整備（＝事務員を雇える）をめざした事業計画を検討中
- 環境への熱い想いがあり、それが強みでもあるが、観光を楽しみにきた客からすると、ややもすると煙たがられてしまう。外部へのアピールの方法、見せ方が今後の課題。具体的には、商品のパッケージ化を行っていく必要がある。
- それが他者との差別化に繋がっていく。

（質疑等）

- 競合他者の存在は？ また、どのようなポイントが差別化できるのか？（委員）
 - ・ 近隣に近江八幡市の水郷めぐりがある。そちらは観光が主体であるが、こちらのセールスポイントは湖魚食と船頭の語りである。
- 安全対策について。荒天時の中止判断や保険などはどのように対応されているのか？（会場参加者）
 - ・ ベテランの漁師を安全管理統括者として、運行の可否を判断している。
 - ・ 水深の浅い川であり溺れるということは考えられないため、300万円の傷害保険で対応している。

- 高島市でエコツーリズムに力を入れておられる。ぜひ情報交流をされると良いだろう。(会場参加者)
- 他団体や企業のCSR活動との連携も図っていくといいだろう。(委員)
- 花見などエンターテイメント的な企画も考えてみてはどうか。(会場参加者)

(委員まとめ)

- 他団体や企業との連携を図ってはどうか。
- 「びわ湖の環境」を中心テーマとして、「地域の伝統文化」や「農業」「景観」など多様なテーマ(分野)とのつながりを作ってはどうか。
- びわ湖の環境への想いの伝え方を考えていくことが必要。具体的には、どこでどんな話をするのかをパッケージ化する。また話の内容も、なぜこの遊覧船が環境に繋がっていくのか、一連の物語として伝えていく方がよいのではないか。

【全体総括】

各グループの座長から、総括が行われた。

Aグループ

- 事業化に向けたシナリオとして、これから何をするのかが見えて来ない。
- 各団体ともに単独で事業化は無理。今回の実証事業に関わる地方環境事務所や支援事務局のネットワークを活用してもらいたい。

Bグループ

- 各団体とも検討内容が前回よりも深化してきている。
- 考え方の段階は終わり、これからは実行の段階である。「産みの苦しみ」があるかと思うが、がんばっていただきたい。

○ 今後の動き(宿題)

- 今回アドバイザー委員から出された課題に対する解決方針 →12/6までに報告
- 第3回連絡会 2/21(月) →2/14までに資料提出

○ 次回の会議

計画書の作成に向け、内容の協議を行う。

様式は、アドバイザー委員の作成されたものを使用する方針(全国事務所が作成した様式は使わない。)

12月14日(火) コミュニティーセンターきたの 1階会議室

(プレゼン用資料)





開催日時：2010年12月14日

出席者：アドバイザー委員1名、地方環境事務所1名、きんき環境館1名、
NPO役員4名、滋賀県3人、野洲市3名

協議内容：各プランの実証（員数計算）

■ 議 事

○ 今回の概要

事業化に向け、各プランの実証（員数計算）を行った。

○ 意見交換の内容

【提供メニュープラン】

テストマーケティングの結果を踏まえ、以下の提供メニュー及び価格を設定した。

- ① 自治会・老人会…1年目：100人 3年目：500人

舟＋アメノイヲごはん…@1,500円（舟1,300＋ごはん200）

- ② 子ども会・小学生…1年目：400人 3年目：1,000人

舟のみ（食事持ち込み）…@650円（舟1,300→子ども2人で大人1人換算）

- ③ 市外・自然に関心のある50～60歳代…1年目：1,000人 3年目：3,000人

舟＋湖魚食…@4,800円（舟1,000＋湖魚食3,800）

※ 価格はテストマーケティングのアンケート結果を参考に算出

- ④ 市外・観光に関心のある30歳代独身女性…1年目：640人 3年目：1,000人

舟（体験つき）＋湖魚食（お酒つき）…@6,000円（舟1,000＋湖魚食5,000）

※ 価格はテストマーケティングのアンケート結果を参考に算出

<合計>

1年目：2,140人 3年目：5,500人

【協議内容】

想定した客員数で収支は成り立つ（原価計算書参照）が、現実にはそれだけの客員を見込めるか、また受け入れるための体制づくりを行うための計算を行った。

● 客員見込み

メニュー①～③について、過去の実績から算出

メニュー④について、計算根拠を明示すること。

※過去の実績であっても具体的な計算式とその根拠を明示する必要がある。

（例）自治会 1回当たり●人×年間▲団体＝■■■人

● 受入れ体制

受入れ体制（役割分担）の割振りや年間稼働日数などを明示

※これについては、別様式に書き込む形で把握する。

メニュー④の客員見込みについて

(提案)

- ・ ①～③の客員見込みは、過去の実績もあり、ある程度の信憑性が見込める。
- ・ しかしながら、④の客員見込みについては未知数である。
- ・ テストマーケティングの結果を見るに、湖魚食の評判は良かったが、舟（遊覧）の評価は低かった。
- ・ マーケティング当日は、季節要件（枯れ葉、寒さ）や黄砂など悪条件があったにしても、1年目640人～3年目1,000人を達成するには厳しいのではないか。
- ・ ならば、悪条件時に舟（遊覧）に代わるオプションプラン（歴史、物産、アウトレット、婚活など）を提示できるようにしておいてはどうか？

↓ ↓ ↓

(意見)

- ・ オプションを多数設定しても、チラシには書くスペースはない。また複雑となり提供側も混乱するため、シンプルにした方がよいのではないか。
- ・ この事業の趣旨は、家棟川遊覧を通じて川やびわ湖の環境問題に関心を持ってもらうことであり、遊覧を外すことは本末転倒ではないか。
- ・ 仮にオプションを設定するにしても、常時のプランではなく、例えば観光物産協会と共催（タイアップ）して、年に数回のプランとしてはどうか。

(結論)

- ※ この件については、メニュー④の客員見込み数が未知数であることが問題であるが、時期的に船が運航できないため、再度マーケティング調査を実施できない。
- ※ そのため、環境省に提出する事業報告書（成果物）には、現在の「舟＋湖魚食」のメニューで記載する。
ただし、客員見込みが未知数であることに変わりはないので、今後における検証方法について明示しておくこととなった。
- ※ 事業報告書としては、その方針で問題ない旨、アドバイザー委員に確認済み。

○ 今後の動き（宿題）

- ・ 事業計画書（案）の作成 …12月中
- ・ 特にメニューの具体化については、次回会議までに（事前に）資料送付のこと。
（役割分担、目標値の共有、行程、単価、客員見込み、PR方法など）

○ 次回の会議

- ・ 1月12日（水）13：30～ コミセンひょうず 1階 会議室
事業計画の内容協議

開催日時：2011年1月12日

出席者：アドバイザー委員1名、地方環境事務所2名、きんき環境館2名、
NPO役員2名、滋賀県3名、野洲市3名

協議内容：売り上げ目標の実現可能性、ネットワーキングについて

■ 議 事

○ 今回の概要

売り上げ目標の実現可能性について、実施プランの運営体制から確認を行った。
ネットワーキング図の作成

○ 意見交換の内容

2班体制で、協議を行った。

A班：【ネットワーキング図の作成】

課題の抽出

- 河川……県河港課、市道路河川課
 - ◇ 航路（浚渫が必要）
 - ◇ 上流に乗り場を増設（ごみ上げ場）
- 交通
 - ◇ 駐車場
 - ◇ バス（バス会社1社、コミュニティーバス）
 - ◇ タクシー（タクシー会社2社）
- 宿泊
 - ◇ 民宿旅館1社
 - ◇ ホテル2社
- 広域・近隣
 - ◇ マイアミランド
 - ◇ ちゅうずドリームファーム
 - ◇ 兵主大社
 - ◇ 湖の駅（将来構想）

B班：【売り上げ目標の実現可能性】

現在のベースプラン4種について、実施体制や稼働日数から売り上げ目標の実現可能性を検証した。

（前提条件）

- ・ 船頭が1日2回運航することは体力的に難しい（交代する必要がある）
- ・ 調理体制の容量（キャパシティ）から、ベース③と④を同日に実施は難しい。

- ・ 基本は土日の需要。50代や老人会などが平日にも需要あり。
- ・ 舟は、1年目には4艘、3年目には6艘、各8人乗りで算出

(検討結果)

1年目

地元向け 24回

8人乗り×4艘×24回×平均ひとり1,000円=768千円

観光向け 106回

8人乗り×4艘×106回×平均ひとり5,000円=16,960千円

天候によるキャンセル率 3割

乗船率 5割

$(768 \text{ 千円} + 16,960 \text{ 千円}) \times 0.7 \times 0.5 = \boxed{6,204,800 \text{ 円}}$

3年目

地元向け 34回

8人乗り×6艘×34回×平均ひとり1,000円=1,632千円

観光向け 120回

8人乗り×6艘×120回×平均ひとり5,000円=28,800千円

天候によるキャンセル率 3割

乗船率 8割

$(1,632 \text{ 千円} + 28,800 \text{ 千円}) \times 0.7 \times 0.8 = \boxed{17,041,920 \text{ 円}}$

(売上げ向上対策)

- ① 観光向けの実施回数を増やす
→ 広報、調理体制の充実
- ② 1回当たりの乗船定員を増やす
→ 舟の購入、事務局体制、調理体制の充実 ※船頭体制は可能
- ③ 乗船率を増やす
→ 広報
- ④ プランを見直す
- ⑤ 単価を上げる

(考察)

- ・ 対策として、上記①～⑤が考えられる。今回の算出は3年後に向け、①～③を行うものとして計算した。
- ・ 乗船者数を増やそうとすると、調理体制の充実が必要不可欠である。
- ・ その解決方法として、「湖の駅」建設や地元の料理屋との連携を図るなどの将来構想がある。
- ・ ただし現状の売り上げ目標としては、実現可能な金額として、既に算出している集客目標から下方修正することとする。

【広報ツールのアイデア抽出】

- ・ 旅行代理業に詳しい方から、ノウハウを学ぶ（1月中を目処にきんき環境館のコーディネート）
- ・ ホームページ、ブログの設置
- ※ その他、思いつくものがあればNPOへ連絡

○ 今後の動き（宿題）

- ・ 花見舟チラシ（PRツール）の作成
- ・ ホームページの立ち上げ（コーディネート）
- ・ 観光物産協会HPへの掲載
- ・ （事業計画書）前文の執筆
- ・ 実施プラン運用カレンダー作成
- ・ ネットワーク図
- ・ 実施プラン 必要小道具リストアップ（写真、パネルなど）
- ・ 実施マニュアル作成
- ・ 原価計算
- ・ オプション、連携メニュー案

○ 今後の予定

- ・ 2月3日（木）14：00～ 近畿環境事務所
事業計画書の最終チェック（不備がないか確認）
- ・ 2月14日（金） 東京連絡会用 資料提出〆切り
- ・ 2月21日（月） 最終報告会（東京）
- ・ 3月23日（水） 事業計画書 納品〆切り（冊子18部、CD-ROM 4 枚）



（ミーティング状況）

開催日時：2011年2月21日

出席者：全国支援事務所、アドバイザー委員、地方環境事務所2名、きんき環境館2名、NPO役員2名、野洲市1名

協議内容：事業報告（第3回連絡会）

■ 議 事

○ 今回の概要

採択された8団体による報告発表。2グループに別れ、プレゼン方式で発表。1団体あたり発表時間10分、意見交換25分。

○ 報告会の内容

【家棟川流域観光船】

理事長から別添パワーポイント資料を映像資料として事業概要を報告（質疑等）

- びわ湖の外来魚が問題となっているが、それには取り組まないのか？
 - 多くの主体が取り組んでおり、本事業でもそうした団体と連携し、オプションプランとしてバス釣りやびわ湖クルージングを計画している。
- ターゲットごとにプランを立案されているが、単価の根拠は？
 - モニターアンケートを実施し、その中で最も回答の多かった価格を採用した。
- 近隣にも競合事業（屋形船の運航）はあるが、エコ遊覧の独自性は？
 - ①雄大さ、②漁師料理、③船頭の語り
 - 特に①に関しては、競合事業では堀であるため風景が変わらないが、こちらは川であるため多彩な風景が楽しめる。

（委員まとめ）

- 継続していくために、地域の良いところを繋ぎ合わせて、良いものを作って欲しい。
- 当初は環境学習や啓発だけしか見えなかったが、ここへきて「まちづくり」へと活動の視野が広がったように感じる。
- 実際に原価計算どおりの収支で運営できるかどうか分からないので、実証をしながら事業運営を行って欲しい。
- 地元行政と連携した取組みであることが強み。

【個別評価】

自己評価…4点 委員評価（平均）…4.5点 （5点満点中）

（委員評価）

- ボランティアで取り組んできた活動を持続させていくため、最低限の収入を得よう

とするのが狙いであると思うが、採算性についてはきちんと実証をしながら進めて行って欲しい。

- 「まちづくり」というキーワードが出てきたように、今回の事業でネットワークが広がったと思われる。
- 今までメンバーの頭の中だけにあったものを「見える化」することができた。そのことによって、ネットワーク力のアップ、ひいてはまちづくりへの事業展開に繋がってきたのだと思う。

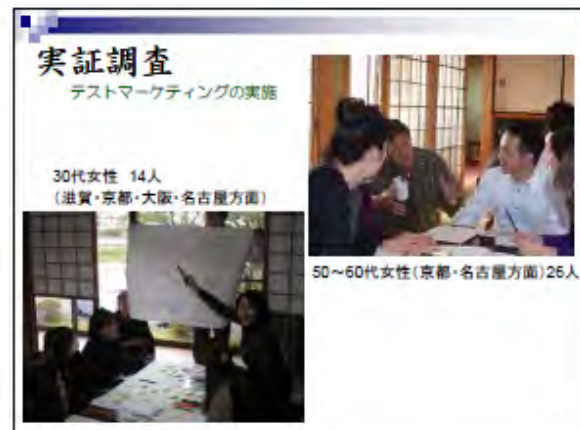
【全体評価】

- 地域の課題を解決するためには、自分たちだけでは無理であり、団体としてはオープンにして他の主体とも連携していく必要がある。
- 行政としては、それをどのように支援していくのか。それが今回のモデル実証の側面でもあったが、支援体制も含めて1年目よりも充実できた。
- 採択された理由は大切に、税金で賄われている事業である限りは、きちんと成果を出すことが求められる。（＝全国に波及し得るモデルを事業化する。）
- 今回の実証事業では、どうしてもビジネス面（採算面）を評価しがちであるが、地域の環境課題に対してどれだけ寄与できるのか、といった視点は見失ってはいけない。

○ 今後の動き（宿題）

- 今回の連絡会における報告 →3/7までに報告
- 事業報告書のデータ提出 →3/4までに地方環境事務所へ提出

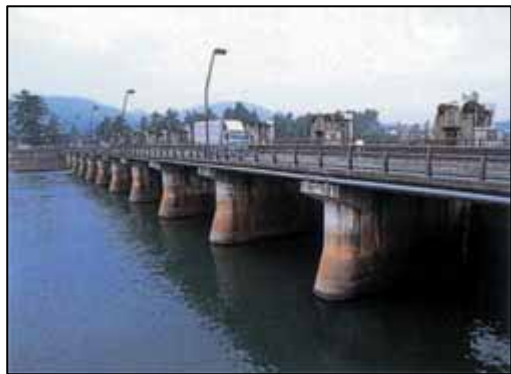




第5章 参考資料

びわ湖の水は、滋賀県だけでなく、淀川水系の下流域である京都府、大阪府、兵庫県など京阪神 1400 万人の生活用水、農業用水、工業用水等に利用され、暮らしと経済を支えている。

そうしたことから、洪水を防ぐのはもちろん、水不足とならないよう「瀬田川洗堰」において、人為的にびわ湖の水位管理を行っている。



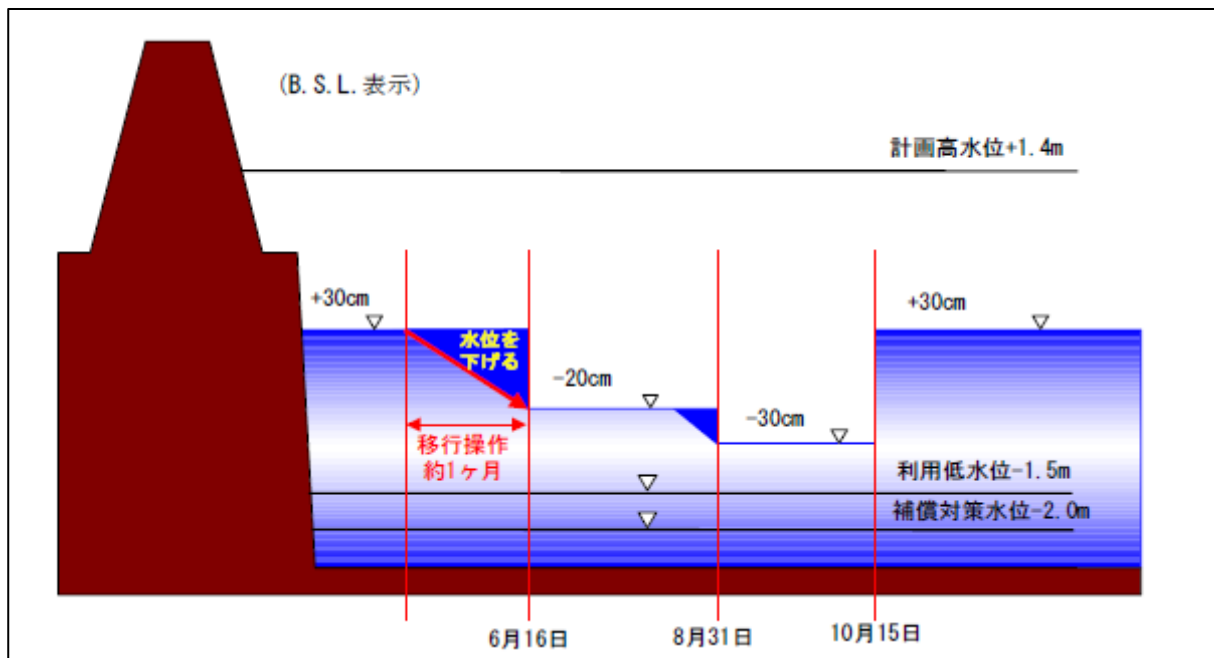
出典：財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
(<http://www.byq.or.jp/index.php>)

瀬田川洗堰

出典：(国土交通省近畿地方整備局) 琵琶湖河川事務所

琵琶湖へ直接流入する一級河川は 118 本ありますが、琵琶湖から流出する河川は、瀬田川の 1 本だけです。しかし、昔の瀬田川は川幅が狭く、田上山からの土砂が流出して川底にたまり疎通能力を小さくし、琵琶湖周辺では洪水による大きな被害を受けていました。

また、琵琶湖の洪水は、河川の場合と異なり、水位上昇、低下ともに時間がかかり、洪水は長期間に及びました。(琵琶湖河川事務所HPより)



瀬田川洗堰の現行操作

出典：(国土交通省近畿地方整備局) 琵琶湖河川事務所

びわ湖の水位は、瀬田川洗堰操作規則（平成4年3月制定）に基づき、琵琶湖河川事務所で管理されている。上図のとおり、非洪水期には基準水位 $+0.30\text{m}$ 以下を維持し、洪水期には基準水位 -0.20m 及び -0.30m にまで下げている。

びわ湖の水位が変化すれば、当然流域河川の河口部における水位も変動する。そのため夏期～秋期にかけては、家棟川においても水位が下がり、エコ遊覧船の運航にも影響することとなる。

平成19年（2007年）3月策定

計画期間：平成19年（2007年）4月～平成29年（2017年）3月

特長：市民と行政の協働で作成した「動く計画」であり、具体的な実施計画（リーディングプロジェクト）を中心に構成されている。

中でも以下の河川環境保全プロジェクトの実践を本法人が担っている。

プロジェクト名：		活動NO. No.1
「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり		
ビジョン まち中の各集落を流れる川には清らかなせせらぎが流れ、それが家棟川などに流れ込み、琵琶湖にそそがれる。まち中の小川の両岸の石垣の隙間にはサワガニや小魚が、また砂の川底にはカワニナやシマドジョウが棲み、子ども達は毎日のように川に入って魚つかみに興じる。夏にはヘイケボタルやゲンジボタルが乱舞する。		
目的・効果（主たる目的）	波及効果	
川づくりの仲間を増やし、川を親しみやすく、きれいにすることで琵琶湖がきれいになり野洲川や日野川にビワマスが行き交う川と湖にする。	川に流れを取り戻し、自然環境を整えることで魚やホタルなどの生物が増え、子どもから大人まで川に親しむようになり、川を守り育てていく活動が展開していく。	
実施主体	対象	
環境基本計画推進組織、市（環境課・道路河川課・市街地整備課・都市計画課・商工観光課・農政課・学校教育課・教育研究所・生涯学習課）、すでに川づくりに取り組んでいる自治会、市民団体	これから川づくりをはじめようとする自治会、子ども、市民	
内容・手法		
第1段階 「おらが川」づくり仲間を増やす（ソフトづくりの取り組み） - 環境基本計画推進組織、市民団体、自治会、市関係課で構成する「川づくり委員会」を組織し、以下の計画を実施する。 - すでに川づくり・川育てを行っている地域への見学や昔のきれいな水、くらしや川戸について、地域の人に話を聞く調査ツアーを実施。コミュニティ形成の場として、自治会がホタルやサワガニ、小魚が棲める川づくり活動をするよう奨励する。 - 川づくり、川そでで、そして川との関係をもふたたびやり直す活動の一環として、地域の有志と連携し、野洲の子どもたちを舟に乗せて家棟川流域を案内する。将来、野洲内外の市民（観光）を対象にしたエコツアーとして展開する。 第2段階 交流活動による仲間づくりの拡大 - それぞれの活動が展開してきたら「おらが川自慢大会」を開催し、川づくりの楽しさやゆたかさを披露。さらに川づくり、川育てに取り組む自治会、事業者、市民団体を増やしていく。 「おらが川自慢大会」に参加した自治会、事業者、市民団体の「川づくり委員会」への新たな参加によって委員会を再結成し、治水・利水と共に親水・保水などを大事にした総合的な川づくり、まちづくりを進めていく。また、川の維持管理についても委員会の検討課題とする。 第3段階 自然豊かな「おらが川」の環境整備（ハード整備の取り組み） - 川の水源の無い地域について、関係部署と川づくり委員会で協議・検討を行い、自治会に対する水源確保の支援策により、地域で川づくりを積極的に行うことができる環境を作る。 - 地域の合意が得られる川は、可能な限り多自然型工法を導入し、また川に接する地面はコンクリートではなく土・草等の自然状態を維持し生物が住める環境づくりを行う。 - 川の遊びや川の生き物や水質調査を年間の環境教育プログラムとして展開する野洲川や日野川などの大きな川でも子どもが愛着をもてる行事（例えば、間伐材を使った筏づくりと夜競争など）を実施する。		
活動の期間	予算（必要な項目）	
第1～2段階：1年目～5年目 第3段階：4年目～10年目	川の多自然型整備費、川の環境保全状況調査費、生き物調査費、水質調査費、水源確保支援対策費	
評価基準		
川づくりに取り組む自治会・市民団体・事業所数、啓発活動に参加した子どもの数、エコツアーの参加人数、川のごみの量、水源の無い川の箇所数、風情ある川景色の箇所数、河川水質、ホタルの飛翔箇所数		

課題：

きれいな水の流れる川の復活を通じた人づくり、まちづくりをする。

←

問題：

川がきたなく、水がない。その結果、琵琶湖が汚れる、川に関心がなくなる。

野洲市環境基本計画のめざすところ ～将来ビジョン～

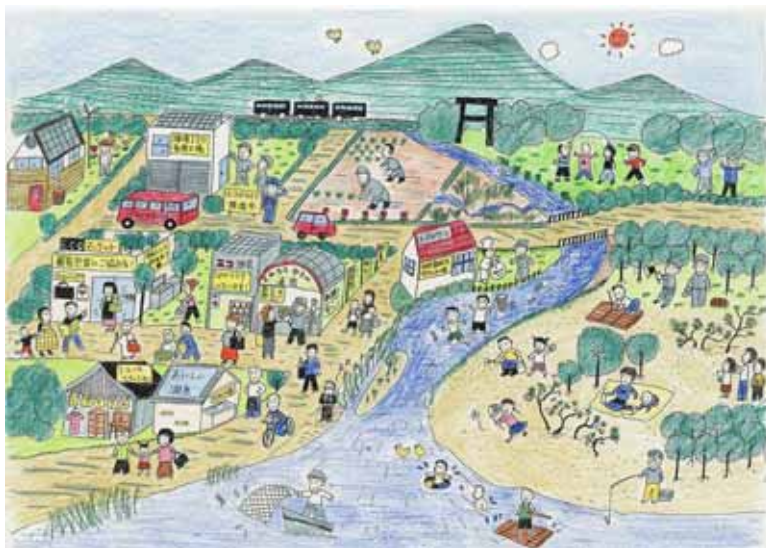
命の水、育む緑、安心のまち野洲

南には近江富士をはじめ、水の源となる山々。北には水鳥がさんざめくびわ湖。東と西には豊かな水をたたえる日野川・野洲川に、ビワマスがおどっている。川辺の森は緑の回廊をつくり、鎮守の森には小鳥がさえずり、里中を流れるせせらぎには魚たちが銀鱗を輝かせ、いろんな生きものが住み、子どもたちの声ははじける。

地球環境への高い市民意識によって、安心して歩ける緑豊かな道がつくられ、市民は安易にマイカーを利用せず、乗合バスや自転車がゆったりと走っている。生ごみも農業に有効利用され、生産者と消費者が意見を交換しつつ、減農薬、有機野菜など身体にやさしい食材が供給されている。

企業・商店は市民と協力して、環境を大切にしたい暮らしを推し進めている。また太陽光をはじめ自然エネルギーが多く利用されている。

緑と水のまち野洲は、自然と人々の命が共に輝き響きあっており、人々はお互いを大切に、安心して暮らしている。このような野洲のまちは、多くの人が訪れ、賑わい、癒されて帰っていく。まさに、21世紀にふさわしい「人の住むまち」である。



おわりに

今まで環境活動としてボランティア的に行ってきましたが、今回の事業化の計画確立の過程を通じ、多くのことを学び、協力団体を増やし、事業として発展させる展望が持てたことを感謝します。

今後とも環境を主軸に据えたまちづくりに向け、各主体や行政との連携を図り、事業を進めていきたいと思います。

平成 22 年度事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキームモデル実証事業
(家棟川エコ遊覧船事業) 業務報告書

平成 23 年 3 月

滋賀県野洲市堤 4 2 1

特定非営利活動法人 家棟川流域観光船

参画団体

野洲市・滋賀県・きんき環境館・近畿地方環境事務所

この報告書は、古紙パルプ 100%、白色率 70%の用紙を使用しています。